福　岡　県　建　築　工　事　特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1．工事名称　　行橋市防災倉庫新設工事

2．工事場所　　福岡県行橋市中央一丁目2307-2

3．工事概要は別紙（仕上表）による。

4．別途工事　・電気設備工事　　　・機械設備工事

・昇降機工事　　　・黒板、掲示板工事

5．その他

Ⅱ　建築工事仕様

1．標　準　仕　様

図面及び特記仕様に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成３１年版）」及び「建築工事監理指針（令和１年度版）」による。

2．特　記　仕　様

1）項目は番号に〇印のついたものを適用する。
2）特記事項は〇印のついたものを適用する。
〇印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
〇印と⊠印のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、公共建築工事標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。
4）形状寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	①．適用基準等	図面もしくは特記仕様書に記載なき場合は、以下の仕様書による。 （1）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成 31 年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「標準仕様書」又は「標仕」という。）による。 （2）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成 31 年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修} （3）「公共木造建築工事標準仕様書　平成31年版」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 （4）「建築物解体工事共通仕様書　平成24年版」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	②．補足基準等	適用仕様等、図面、特記仕様書に記載なきものについては、以下の基準、指針、要領、標準図等による。 （1）「建築構造設計基準 平成30年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 （2）「建築工事標準詳細図　平成 28 年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 （3）「鉄筋コンクリート構造配筋要領　平成11年版」 建設大臣官房営繕部監修 （4）「擁壁設計標準図　平成12年版」 建設省大臣官房官庁営繕部監修 （5）「建築工事監理指針　令和 1 年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 （6）「建築改修工事監理指針　令和 1 年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 （7）「建築工事安全施工技術指針・同解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 （8）「解体工事安全施工指針」 建設業労働災害防止協会 （9）「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局 (10)「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局（環境庁アスベスト飛散防止対策研究会） (11)「建築物等の解体等工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル（新版）」 建設業労働災害防止協会 (12)「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」国土交通省告示第468号 (13)「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説(平成８年版)」建設大臣官房官庁営繕部監修 (14)「建築工事標準仕様書・同解説」 日本建築学会 (15)「建築工事の手引き」 福岡県建築都市部編集 (16)「解体工事の手引き」 福岡県建築都市部編集 (17)「植栽工事の手引き」 福岡県建築都市部編集 (18)「解体工事の手引き」 福岡県建築都市部編集 (19)「黒板、畳、襖工事の手引き」 福岡県建築都市部編集
	③．適用範囲等	すべての設計図書は相互に補完するものとする。ただし設計図書に相違がある場合、設計図書の優先順位は、次の（1）～（4）の順番とする。 （1）質問回答書　（（2）から（4）に対するもの） （2）現場説明書 （3）特記仕様書 （4）図面
	④．現場に常備する図面等	上記の「1.適用基準等」及び「2.補足基準等」のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所に常備し監督職員の確認を得ること。
	⑤．工事実績等の登録	請負者は、工事請負額が５００万円以上の工事について、受注時は契約後１０日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から１０日以内に、完成時は完成後１０日以内に、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、「建設情報実績」を作成し、建築都市総務課契約室の確認を受けた後に、（一財）日本建設情報総合センターに提出しなければならない。　また、（一財）日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」の写しを建築都市総務課契約室に提出しなければならない。 問い合わせ先　〒812-0013　福岡市博多区博多駅東3-11-28博多サンシティビルⅡ6F　（一財）日本建設情報総合センター九州地方センター　TEL　092-411-3664　FAX　092-411-3486　(1.1.4)
	⑥．施工体制台帳	※現場説明書による。請負者は下請け契約を行う全ての工事で施工体制台帳を作成し、工事現場に据え置くとともに、その写しを監督員に提出すること。
	⑦．文化財その他埋蔵物	工事の施工に当たり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告する。　その後の措置については、監督員の指示に従う。　(1.1.12)
	⑧．実施工程表	概成工期・現場説明書による　(1.2.1)
	⑨．工事の記録	(1.2.4) 工事日報は、工事記録を兼ねることができる。 下記要領により撮影し、写真帳に説明を記入のうえ提出する。（原版は撮影業者が保管する。） （下表） 各工程ごとに作業時の状況がわかるように黒板(工事名、撮影箇所、年月日等記入)、スケール等をあて撮影する。　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編」による。
	⑩．電気保安技術者	※適用する（工事用電力設備の保安責任者が兼ねる。　）　・適用しない　(1.3.3)
	11．施工条件	（　　　　　　　　）　(1.3.5)
	⑫．施工中の安全確保	建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等に定めるところによるほか、(1.3.7) 建設工事公衆災害防止対策要綱に従うとともに、建築工事安全施工技術指針を参考に、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。
	13．建設リサイクル法	「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法)の対象となる工事に該当（※現場説明書による。・する　・しない）

工事の記録（撮影要領）

区　分	分　類	規　格	部数	原版の大きさ	備　考
※着工前	※カラー ・モノクロ	※サービス版 ・（　　　）	※１部 ・（　）	24×36以上又はデジタル画像	監督員の承諾する撮影者（原版提出不要）
※施工中	※カラー ・モノクロ	※サービス版 ・（　　　）	※１部 ・（　）	24×36以上又はデジタル画像	監督員の承諾する撮影者（原版提出不要）
※完成時	※カラー ・モノクロ	※サービス版 ・（　　　）	・1部 ※2部 ・（　）	・100×125以上 ※24×36以上又はデジタル画像	外観・内部、監督員の指示による。 監督員の承諾する専門業者
注　記	撮影業者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督員が承諾する撮影者(着工前、施工中)、監督員の承諾する専門業者(完成)とする。 電子データはRGB(フルカラー)、JPEG形式最高画素としCD-Rで提出する。 デジタル撮影時200万画素以上300dpi以上				

⑭．工事に伴う建設副産の処理について

建　設　副　産　物　の　処　理　に　つ　い　て

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。
現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別し指定された場所へ集積すること。
また、施工区分表に積み込み・運搬・処分までの指示がある工事については、現場内に分別保管場所を設置するとともに、再生資源の利用の促進に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。
工事に際しては、工事着手時に建設副産物処理計画書、再生資源利用計画書等を、工事竣工時に建設副産物の処理結果報告書、再生資源利用実施書等を提出すること。

指定副産物　（原則として再資源化施設へ持込むもの）
⊙がれき類　（コンクリート塊)(アスファルト塊)　⊙木くず
⊙建設発生土　⊙汚泥
指定副産物の工事現場からの搬出、再生資材等の利用等については、「リサイクル原則化ルール（平成１８年６月１２日策定）」により実施する。
建設汚泥については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（平成１８年６月１２日事務次官通知）」に従い、建設汚泥の再生利用を推進する。

その他の副産物
⊙廃プラスチック ⊙ガラス、陶磁器くず ⊙廃石こうボード ⊙金属くず　・繊維くず

特別管理産業廃棄物
・廃石綿等
「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気保全局）」及び「石綿障害予防規則(平成17年7月1日施行)」に従い、収集、運搬、処分を行う。
・廃ＰＣＢ等
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適正に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。
※参考受入場所は現場説明書による　(1.3.11)

⑮．施工中の環境保全等

建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、資源有効利用促進法その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉じん、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。　(1.3.10)

排　出　ガ　ス　対　策　型　建　設　機　械　に　つ　い　て

「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき、指定された建設機器を使用すること。（対象機種：バックホウ、ブルドーザ、トラクターショベル（車輪式）、空気圧縮機（可動式）、油圧ユニット（油圧ハンマ･アースオーガ 油圧式鋼管圧入引抜機･油圧式杭圧入引抜機 アースオーガ･オールケーシング掘削機･リバーサーキュレーションドリル･アースドリル･地下連続壁施工機・全回転型オールケーシング掘削機の基礎工事用機械のうちベースマシンとは別に独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの）、ロードローラー、タイヤローラ、振動ローラ、ホイールクレーン、発電発動機（可動式（溶接兼用機を含む））但し、以上はディーゼルエンジン（エンジン出力7.5Ｋｗ以上260Ｋｗ以下）を搭載したものに限る。）

・工事における振動被害防止要領の適用　振動計の設置については現場説明書による

⑯．再資源利用(促進)　※ 提出する(CD-R等にて)　・提出しない

⑰．建築材料等

本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を得る。
なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房営繕部監修「建築材料・設備機器等性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」による。
福岡県認定リサイクル製品の使用製品名及び使用部位については、現場説明書によること。
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受け、当該製品の指定工法によることができる。　(1.4.1)

環　境　へ　の　配　慮　に　つ　い　て

国による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、環境負荷の低減できる材料を選定すること。
使用する材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮すること。
工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。
指定品目、判断基準は「福岡県環境物品等調達方針」によること。

18．技能士　(1.5.2)

※適用する　・適用しない
適用工事及び種別、職種は下記による。

工事範囲　（契約単位）			工　事　種　別	技能検定職種
木造以外の建物	住　宅	20戸以上	・鉄筋工事	鉄筋施工
			・コンクリート工事	型枠施工
			・木工事	建築大工
			・左官工事	左官
	住宅以外の建物	1,500㎡以上	・塗装工事	塗装
			・屋根及び樋工事	建築板金
			・内装工事	内装仕上げ施工
			・内装工事	表装
			・金属工事	内装仕上げ施工（鋼製下地）
造園工事	請負額　300万以上		・植栽工事	造園

19．施工の検査等　見本施工の実施箇所（　　　　　　）　工種（　　　　　）　(1.5.5)

20．ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定

室内空気中化学物質の濃度測定　・行う　・行わない
ホルムアルデヒド測定の検体数　・　カ所
VOC測定の検体数　・　カ所
測定対象室
※現場説明書による　・図示

測定位置、方法については、測定前に監督職員に確認する。
測定方法等は「揮発性有機化合物の室内測定要領」参照
※学校施設については、文部科学省「学校環境衛生基準」（平成２１年４月１日告示第60号)に基づきVOC等の測定を行う。　(1.5.9)

㉑．完成図等

種類及び提出形式は下記による　(1.7.2)

種類	提出形式	部数
完成図 ※設計図一式	※二つ折り白焼き製本（Ａ１） ※ＣＡＤデータ(ＪＷＷ又はＤＸＦ) ※ＴＩＦＦデータ(竣工図電子データ作成要領による)	※１部 ・（　）部
総合図 ※一式	※二つ折り白焼き（適宜：Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（　）部
施工図 ※構造躯体 ※平面図 ※建具 ※屋根及び樋 ・（　　）	※二つ折り白焼き（適宜：Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（　）部
工作図 ※家具図 ・（　　）	※二つ折り青焼き又は白焼き（適宜：Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ（ＪＷＷ）	※１部 ・（　）部

（注）データの提出はCD-R、DVD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して提出すること。

㉒．保全に関する資料

「標仕」1.7.3(a)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督員に提出する。
国土交通省HP「施設保全マニュアル作成要領」
建設大臣官房官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き」
提出部数　※ 2 部　・（　）部　(1.7.3)
保全に関する説明書：※建物概要及び内部仕上げ表　※施工者一覧表
※取り扱い説明書、メンテナンスについての注意事項

㉓．設計ＧＬ　※図示による　・現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による

㉔．過積載の防止　ダンプトラック等による工事用資機材等の過積載を行わないこと。さし枠の装置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に出入りさせないこと。

㉕．解体等工事の範囲

解体等工事にかかる範囲は以下のとおり。
・建築物　・地上部　・地下部　・杭　・（危険物倉庫）　・（　　　）
・付属構造物　・浄化槽　・貯油槽　・杭　・（キュービクル基礎）
・電気設備　・建物内配管配線　・電気設備機器　・（　　　）
・建物への引込線　・敷地への引込線（廃止）　・（　　　）
・給排水設備　・建物内配管配線　・衛生設備機器　・（　　　）
・建物への引込管　・敷地への引込管（玉下ろし）　・（　　　）
・空調設備　・建物内配管　・空調設備機器　・（　　　）
・建物内風道
・ガス設備　・建物内配管　・ガス設備機器　・（　　　）
・建物への引込管　・敷地への引込管（廃止）　・（　　　）
⊙屋外付帯　・門、門塀　・塀、フェンス ⊙舗装（　　　）
・植栽（　　　）・（　　　）
・有害廃棄物の処理・廃PCB　・特定フロンガス　・廃石綿等　・（　　　）
・什器、備品類等の撤去
・各種残留物等の撤去は下表による。　※を標準とする。

区分	建物管理者	工事請負者
アスベスト含有建材		※
オイルタンク内のオイル	※	
ピット（浄化槽、便槽）汚泥	※	
使用されていた酸、アルカリ、薬品等	※	
医療系特別管理産業廃棄物、放射性廃棄物	※	
フロン、ハロン使用機器		※
ＰＣＢ使用機器		※

㉖．敷地に関する調査　・敷地内障害物の調査　・敷地内配管、配線の調査　・地下水位の調査

㉗．原形復旧　工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損が生じた場合は原形に復する。

㉘．設備工事との取合い

※施工区分表による
・施工範囲は下記による
※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強
※駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ
※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
・（　　　）

㉙．風速及び地表面粗度区分　風速（⊙34m/秒　・　）　(各章共通)
地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ　）

㉚．接着剤　ホルムアルデヒド放散等級（※Ｆ☆☆☆☆　・Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆　）　(各章共通)

㉛．総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。
総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。
総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。

㉜．参考図（メーカー仕様の図面）の取り扱い　参考図の製品等の使用にあたっては、参考図以外の形状等に多少相違がある製品等でも同等品以上であれば使用できる。

㉝．竣工後の調査　竣工後(※２　・１)年以内に当該工事範囲に関する経年変化の状況を調査し、報告すること。

② 仮設工事

1．監督員事務所　※設ける（　　）㎡程度　・設けない　(2.3.1)
備品については監督員の指示による。

②．工事用水　構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
⊙現場説明書による

③．工事用電力　構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
⊙現場説明書による

④．総合仮設計画書　※要する　・要しない

⑤．危険防止

仮囲い等　・設けない　※設ける
設置方法　⊙成形鋼板（H＝2.0ｍ）　・亜鉛引鉄板（H＝　ｍ）
・シート張り　・ロープ張り
・（　　　）
ゲート　・シート（W＝　ｍ）　・パネル（W＝　ｍ）
・ハンガー（W＝　ｍ）　⊙クロス（W＝6.0ｍ）
垂直防護施設 ⊙メッシュシート（・防炎Ⅰ類 ⊙防炎Ⅱ類）・防音シート（防炎Ⅰ類同等）
・枠付き金網　・アルミ防音パネル
・（　　　）
水平防護施設　・防護棚（朝顔）　・ダブルネット　・（　　　）
防護施設等取付足場　⊙くさび緊結式足場（W＝0.9ｍ）
・単管一本足場　・枠組本足場（W＝　）・（　　　）
設置範囲　※図示による　・監督員の指示による
設置期間　※工事期間中　・監督員の指示による

手　す　り　先　行　足　場　に　つ　い　て

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、手すり、中桟及び両面幅木の機能を有するものを設置しなければならない。
なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。

6．構　台　養生構台　・設置する（図示による）　・設置しない
乗入れ構台　・設置する（幅員　ｍ、長さ　ｍ）　・設置しない

⑦．工事表示板等　監督員の指示による。

⑧．工事車両の出入口　工事用車両の出入口では、一般通行人及び一般車両の安全確保に努めること。
交通誘導員　※配置する（　名以上）　・配置しない

③ 土工事

①．埋戻し及び盛土　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)

②．建設発生土の処理　※現場説明書による　・構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し　(3.2.5)

採　石　法　の　適　用　に　関　す　る　協　議　に　つ　い　て

敷地内において真砂土を採取した場合でも、面積、量及び現地の状況などにより、採石法（昭和２５年法律第２９１号）の適用を受ける場合があるため、十分注意すること。

④ 地業工事

1．既製コンクリート杭及び鋼杭地業　(4.3.2)(4.4.2)

杭の種類	規格、材質など	長さ(m)	断面寸法	継手及び継手形状	先端部形状
・高強度プレストレストコンクリート杭	JIS規格品又は建築基準法に基づく杭 ※A種　・B種　・C種			※なし ・あり ※溶接式 ・（　　）	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・（　　）
・拡径断面を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭	JIS規格品又は建築基準法に基づく杭 ※A種　・B種　・C種			※なし ・あり ※溶接式 ・（　　）	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・（　　）
⊙先端羽根付き鋼管杭 スクリューパイル ＥＡＺＥＴ	国住指第3242-1号 TACP-0399 STK490・SM490A	8.30	φ267.4 羽根部径 800mm		

杭の施工法
・打込み工法　(4.3.3)
※プレボーリング併用打撃工法
プレボーリングの掘削深さ（m）及び径　深さ（　m）　径（　）
杭打機　※油圧パイルハンマー　・（　　　）
打込杭推定支持力の算定　・図示による
⊙特定埋込み杭工法　（　ＣＫ－ＥＡＺＥＴ　工法）　(4.3.5)
※建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの
・セメントミルク工法　(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　※ 1.5m　・（　m）

2．場所打ちコンクリート杭地業

鉄筋の種別　※異形鉄筋　(4.5.3)
帯筋　・図示による
鉄筋の最小かぶり厚さ　※１００ｍｍ
コンクリートの種別　・Ａ種　・Ｂ種　(表4.5.1)
セメント　※高炉セメントＢ種　・（　　　）
掘削工法　(4.5.4)
・アースドリル工法　・リバース工法　・オールケーシング工法
孔壁測定装置　・使用する（※超音波　・（　　　））　・使用しない

3．試験杭

杭の位置　※図示による　・（　　）　(4.2.2)
杭の本数　※図示による　・最初の１本
杭の種類　※本杭と同じ　・（　　　）
杭の寸法　長さ（m）　※本杭と同じ　・（　　）
断面寸法　※本杭と同じ　・（　　）
長期設計支持力　（　　kN／本）

④．試験堀

試験堀の位置　※図示による　・（　　）
試験堀の本数　※図示による　・（　　）
試験堀の径　※本杭と同じ　・（　　）

⑤．砂及び砂利地業　材料　※再生クラッシャラン　・切込み砂利　・切込み砕石　(4.6.2)(4.6.3)
厚さ　※６０　⊙（50、150）

⑥．捨てコンクリート地業　厚さ　※５０　・（　　）　(4.6.4)

⑦．床下防湿層　※ポリエチレンフィルム　厚さ　※０．１５　・（　　）　(4.6.5)

8．施工試験

・杭の載荷試験　(4.2.3)
・鉛直載荷　・載荷
・地盤の載荷試験　(4.2.4)
・平板載荷試験　・（　　　）

9．六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）

※行わない　・行う
下記に示す工種について、六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。
六価クロム溶出試験対象工種名及び検体数：
地盤改良工　固結工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
表層安定処理工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
路床安定処理工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
合計　検体
タンクリーチング試験対象工種名及び検体数：
地盤改良工　固結工法　：　検体
表層安定処理工法　：　検体
路床安定処理工法　：　検体
合計　検体

⑤ 鉄筋工事

①．鉄筋の種類　材質　※JIS G 3112　・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの　(5.2.1)

種　類	⊙SD295A	⊙SD345	⊙SD390		
径	D10,D13,D16	D19,D22			

②．鉄筋の継手

接合方法	部　位	径	備　考
⊙ガス圧接・重ね継手・溶接継手 ・機械式継手　・（　　）	柱・梁の主筋	※Ｄ１９以上・（　　）	
※重ね継手　・（　　）	その他	※Ｄ１６以下・（　　）	

3．杭頭の補強方法　・Ａ形　※Ｂ形　(別図1.1)

④．帯筋　・（　　）　(別図2.2)

⑤．壁開口部補強の種別　一般壁　・Ａ形　※Ｂ形　(別図4.2)
耐震壁　・Ａ形　※Ｂ形　・（　　）

⑥．土間スラブ打継ぎ補強　※入れる　・入れない　(別図5.3.c)
補強箇所　※Ｓ形配筋のスラブ

7．土間コンクリート補強　※入れる　・入れない　(別図5.3.d)
補強箇所　・土間コンクリート　・犬走り　・（　　）

8．はり貫通孔　補強形式　※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　・（　　）　(別図7.1)
スリーブの材種　※溶融亜鉛メッキ鋼板　・硬質塩化ビニル管　・（　　）　(6.8.3)

9．溶接金網　※JIS G 3551規格品　(5.2.2)
形状（　　）　寸法（　　）　径（　　）

⑩．圧接完了後の試験　※外観試験　(5.4.9)
※抜取り試験（※超音波探傷試験　・引張試験）

⑥ コンクリート工事

①．コンクリートの強度　(6.2.2)

設計基準強度（Fc）　N/㎟	類 別	18	21	24	27	
普通コンクリート	部 位	犬走り	基礎、基礎梁 柱･壁立上り			
軽量コンクリート　・1種・2種	部 位					

②．コンクリートの種類　※Ⅰ類　・Ⅱ類　(6.2.1)

③．コンクリートの材料　※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種　(6.3.1)
・高炉セメントＢ種（※場所打ちコンクリート杭　・　　）
・（　　　）

④．スランプ　(6.2.4)

打込み箇所	基礎、基礎梁	柱、梁、スラブ、壁	（　　）
所要スランプ	⊙15　・18	※18	・（　　）

⑤．普通コンクリートの調合　(6.3.2)
※単位水量の上限値　185 kg/m^3
※単位セメント量の下限値　270 kg/m^3
※水セメント比の上限値　65 ％　（高炉セメントＢ種　60%）
※所要空気量の目標値　4.5 ％
※塩化物の含有量　0.30 kg/m^3　以下
構造体強度補正値（Ｓ）　※監督員の承認を受けること。　(表6.3.2)

承認覧	工事名称	図面名称
	行橋市防災倉庫新設工事	建築工事特記仕様書（１）
	有限会社　井関中央設計 福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号 一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二	尺度： 日付： 図面番号：Ａ－０１

No. 2　　平成31年度改訂

⑥. 無筋コンクリート　設計基準強度　※18N/mm²　・（　　）N/mm²　(6.14.1)
適用箇所は「標仕」6.14.1（e）による

スランプ	適用箇所
⑮	捨てコンクリート
18	

⑦. 打放し仕上げの種別　※合板せき板を用いる場合　(6.2.5)(表6.2.4)

種別	適用箇所
⊙A種	
・B種	吹付及び塗装下地となる箇所
・C種	

・（　　）

⑧. 基礎及び地中梁型枠　⊙普通型枠　・ラス型枠

⑦ 鉄筋工事

①. 鉄骨製作工場　※監督員の承諾する工場　(7.1.3)
・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Mｸﾞﾚｰﾄﾞ　⊙Rｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ以上
加工能力等条件（　　）

②. 施工管理技術者　※適用する　・適用しない　(7.1.4)

③. 鋼材の種類　材質　※ＪＩＳ等の規格品　(7.2.1)
・建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鋳鋼
種類　⊙ＳＳ４００
⊙（ＢＣＲ２９５）　⊙（ＳＴＫＲ４００）　⊙（ＳＳＣ４００）

④. 高力ボルト　⊗トルシア形高力ボルト　指定、認定品セットの種類　※２種（S10T）　(7.2.2)
・ＪＩＳ形高力ボルト　JIS B 1186　セットの種類　※２種（F10T）
⊙溶融亜鉛メッキ高力ボルト　指定、認定品　セットの種類　※１種（F８T相当）

⑤. アンカーボルト　材質　⊙構造用アンカーボルト　⊗JIS G 3138 のSNR400B　⊙（　SS400　）(7.2.4)
材質　⊙建方用アンカーボルト　※JIS G 3101 のSS400　・（　　）(7.10.3)

⑥. ターンバックル　胴の種類 ※割枠式 ・（　　）　ボルトの種類 ※羽子板ボルト ・（　　）(7.2.6)

⑦. 柱底均しモルタル　種別　※Ａ種　・Ｂ種　(7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)

⑧. 溶接部の検査　AOQL　※4.0%　・2.5%　検査水準　※第６水準　⊙図示（S-0Iによる）　(7.6.11)

試験の種別	試験箇所	抜取り方法
※超音波探傷試験		・「標仕」7.6.11(b)による

⑨. 塗料の種別　SRC造の溶接された鋼製スリーブの内面　(7.8.3)
※表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種別　Ａ種
・（　　）
耐火被覆材の接着面
・（　　）

10. 耐火被覆材の種別及び性能　・ラス張りモルタル塗り　・耐火材吹付け　・耐火板張り　・耐火材巻付け　(7.9.2)
※所用性能は図面図示による　・（　　）

⑪. ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ等の設置　建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法　(7.10.3)(表7.10.1)
種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種

12. 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合　摩擦面の処理方法及びすべり耐力等の確認方法　(7.12.4)
※りん酸塩処理（監督員の承認を受けること）

8 コンクリートブロック・ALCパネル 押出成形セメント板工事

1. 補強コンクリートブロック積み　種類　※JIS A 5406 の空洞ブロック16　・（　　）(8.2.2)
厚さ　・（　　）

2. コンクリートブロック帳壁及び塀　種類　※「標仕」表8.3.1による　・（　　）(8.3.2)
厚さ　・（　　）

3. ＡＬＣパネル　種類　※JIS A 5416　(8.4.2)(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)

種類	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	取付け工法（種別）
・外壁パネル	・（　　）	※100 ・（　　）	・A　・B
・間仕切パネル	・（　　）		・C　・D　・E
・屋根パネル	・（　　）		※「標仕」8.4.4による
・床パネル	・（　　）	・100　・150	

床パネルの耐火性能　・要　・不要

4. 押出成形セメント板　※厚物（厚さ５０mm以上）　(8.5.2)(表8.5.2)(表8.5.2)
種類　※ＪＩＳ　Ａ　５４４１

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	工法	耐火性能
・外壁	※フラットパネル	・50・60・（　）	・A種	※有り
	・デザインパネル(図示)	・50・60・（　）	・B種	（　）
	・タイルベースパネル	・60・（　）		・無し
・間仕切り	※フラットパネル	・50・60・（　）	・B種	※有り
	・デザインパネル(図示)	・50・60・（　）	・C種	（　）
	・タイルベースパネル	・60・（　）		・無し

・製造所（　　）同等以上　・評価名簿による
・薄物（厚さ５０mm未満）
種類　※ＪＩＳ　Ａ　５４４１

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	耐火性能
	※フラットパネル ・デザインパネル(図示)	・（　　）	※無し ・有り（　）

・製造所（　　）同等以上　・評価名簿による

⑨ 防水工事

1. アスファルト防水　(表9.2.3～表9.2.9)

施工箇所	種別	防水層の押さえ	備考

アスファルトの種類　※３種　・（　　）　(9.2.2)
屋根保護防水断熱工法の断熱材及び厚さ
※JIS A 9521　押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡのスキン層付き
・JIS A 9511　押出法ポリスチレンフォーム保温板３種ｂのスキン層付き
厚さ　※25　・（　　）
防水立上がり部の保護材　(9.2.5)
・乾式保護材　※押出成形セメント板 厚さ（　mm）　・（　　）
・防水層保護れんが　※JIS R 1250（普通れんが）　・（　　）

2. 改質アスファルトシート防水　(表9.3.1～表9.3.3)

施工箇所	種別	厚さ	備考

・仕上げ塗料の種類　※製造メーカー標準仕様による　・（　　）
・仕上げ塗料の使用量　・（　　）

3. 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　(表9.4.2)

施工箇所	種別	厚さ	仕上げ塗料塗り(露出の場合)
	・S-F1　・S1-F1	※1.2 ・（　）	※カラー　・シルバー
	・S-F2　・S1-F2	※2.0 ・（　）	
	・S-M1.　・S1-M1	※1.5 ・（　）	※カラー　・シルバー
	・S-M2　・S1-M2	※1.5 ・（　）	
		・（　）	

・仕上げ塗料の種類　※製造メーカー標準仕様による　・（　　）
・仕上げ塗料の使用量　・（　　）
・S-C1工法のモルタル塗り厚　※20mm　・（　　）

4. 塗膜防水　(表9.5.1)(表9.5.2)

施工箇所	種別	備考
	・X－１　・X－２	仕上げ塗料塗り　※カラー　・シルバー
	・Y－１　・Y－２	種別Y-2における保護層　※適用する　・適用しない

種別X-1における脱気装置　※図面図示による　・種類（　　）・設置数量（　　）

5. ケイ酸質系塗布防水　防水の種類　・Ｃ－ＵＩ　・Ｃ－ＵＰ　施工箇所（　　）(9.6.2・3)（表9.6.2）

⑥. シーリング用材料　「標仕」表9.7.1による。　(9.7.5)
接着性試験　※簡易接着性試験
・引張接着性試験（部位　　）

7. 施工　次表のとおりとする。

(1) 延べ面積が５００㎡以上の建築物 (2) 特殊な用途等に係る建築物で、高度な防水技術を要するものと監督員が承諾する場合	防水施工業者は建設業法第３条の許可（防水工事業）を受けている者で、（-社）福岡県防水工事業協会会員又は、これと同等以上の施工責任が認められる者から選ぶこと。
(3) （1）、(2) 以外の場合	防水施工工事業者は建設業法第３条の許可（防水工事業）を受けている者から選ぶこと。

8. 保証年限　防水保証年限は、引渡しの日から次表のとおりとする。
保証については防水工事業者が（-社）福岡県防水工事業協会会員の場合は、請負業者、防水工事業者、（-社）福岡県防水工事業協会の連名保証とする。
その他の場合は、請負業者、防水工事業者、製造メーカーの連名保証とする。

保証年限（年）	防水の種類
１０	アスファルト防水 (A-1,2,3、AI-1,2,3、B-1,2,3、BI-1,2,3、D-1,2,3,4、DI-1,2) 改質アスファルト防水 (AS-T1,2,3,4、AS-J1,2、ASI-T1、ASI-J1) 合成高分子系ルーフィングシート防水 (S-F1,2:ｼｰﾄ(ｱ)1.5mm及び2.0mm、S-M1,2,3、S1-F1,2、S1-M1,2)、塗膜防水 (X-1,2)
7	合成高分子系ルーフィングシート防水 (S-F1：ｼｰﾄ(ｱ)1.2mm)

9. その他の防水

施工箇所	種別・工法	保証年限（年）	備考

10 石工事

1. 屋内の床の清掃　汚れ防止及びつや出しワックス　※使用する　(10.1.5)

2. 材料　(10.2.1)(10.7.2)(10.7.3)(表10.2.1)(表10.2.2)
壁及びその他（床を除く）の石材　※1等品　・（　　）

施工箇所	種類・産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類	備考

・テラゾブロック及びテラゾタイル
種石の種類　※大理石　・（　　）
種石の大きさ　※1.5～12mm　・（　　）
表面仕上げ　※本磨き　・（　　）

3. 取付金物　・外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物　(10.2.2)
材質　※SS400　・（　　）
寸法　※L-75x75x6　長さ=100又は150mm（A種錆止め）　・（　　）
・乾式工法用金物　材質　※SUS304　(表10.2.4)
・スライド方式　・ロッキング方式　・（　　）
・その他金物の材質、形状及び寸法
・（　　）・（　　）・（　　）・（　　）

4. 外壁湿式工法　石材の厚さ　※有効厚さ 25mm以上　・（　　）　(10.3.2)
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
下地ごしらえ　※流し筋工法　・（　　）　(10.3.3)
目地幅　※6mm以上　・（　　）

5. 内壁空積工法　石材の厚さ　※有効厚さ 20mm以上　・（　　）　(10.4.2)
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
下地ごしらえ　※あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法　・あと施工ｱﾝｶｰ工法　(10.4.3)
目地幅　※6mm以上　・（　　）

6. 乾式工法　石材の厚さ　外壁　※有効厚さ 30mm以上　・（　　）　(10.5.2)
内壁　※有効厚さ 25mm以上　・（　　）
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
目地幅　※8mm以上　・（　　）　(10.5.3)

7. 床及び階段の石張り　石の品質　※2等品　・（　　）　(10.6.2)(10.6.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種類・産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類	備考
			※粗磨き・（　）	
			※粗磨き・（　）	

石裏面処理　・行う　・行わない
目地幅　屋内　・（　　mm）　屋外　・（　　mm）

8. 石裏の補強用モルタル　笠木、甲板等の乾式工法の場合は行う。　(10.7.3)

9. 製造所及び施工業者　・監督員の承諾による　・（　　）同等以上

11 タイル工事

1. 材料　タイルの試験張り　※行わない　・行う　(11.2.2)
タイルの見本焼き　※行わない　・行う

2. 陶磁器質タイル張り及びタイル型枠先付け　(11.2.2～4.2)(表11.2.1)

施工箇所	形状・寸法	きじの質 磁器	せっ器	陶器	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	見本 焼き	備考

下地及びタイルごしらえ
・MCR工法　・目荒らし工法　・（　　）　(11.2.7)(11.3.7)
壁タイル張りの工法
※「標仕」表11.2.3による　・（　　）
・タイル型枠先付け工法
種別　・タイルシート法（小口タイル、二丁掛タイル）　(11.4.3)(表11.4.1)
・（　　）
タイル型枠先付け面のせき板の種別　(11.4.2)
※表6.2.4のC種のせき板又は金属性タイル先付け用パネル　(表6.2.4)
・（　　）

3. 施工後の確認及び試験　※打診による確認　(11.1.5)
※接着力試験

12 木工事

①. 木材　代用樹種を適用しない箇所（　　）　(12.2.1)(表12.2.3)
木材含水率　※Ａ種　・Ｂ種　造作材の品質　※Ａ種　・Ｂ種

②. 製材　「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材　(12.2.1)(12.5.1)(12.7.1)

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐製材の適用
			※２級		※A種　・B種	

「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐製材の適用
額縁	杉	図示	※２級	図示	※A種　・B種	

「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐製材の適用
			※２級		※A種　・B種	

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐製材の適用
			（　） 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種	
			（　） 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種	
			（　） 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種	

3. 造作用集成材　ホルムアルデヒド放散量　(12.2.1)
※Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）
造作用集成材

施工箇所	JAS	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐製材の適用
	・JAS ・JAS以外			※1等　・2等	・15%以下	

化粧ばり造作用集成材

施工箇所	JAS	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐製材の適用
	・JAS ・JAS以外				※1等 ・2等	・15%以下	

「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐製材の適用
	化粧薄板：杉 芯材：杉			

4. 造作用単板積層材　ホルムアルデヒド放散量　(12.2.1)
※Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）
造作用単板積層材

施工箇所	JAS	厚さ(mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理	間伐製材の適用
	・JAS ・JAS以外		・有り （加工：・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し　（等級：　）	・14%以下	・適用する ・適用しない	

5. 床張り用合板等　ホルムアルデヒド放散量　(12.2.1)
※Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）
普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	強度等級	間伐製材の適用
	※5.5		※1種 ・2種	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	

構造用合板　(12.2.1)

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐製材の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上	※12		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	

パーティクルボード　(12.2.1)

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ	※P又はM		※15

構造用パネル　(12.2.1)

施工箇所	等級				厚さ(mm)
	・1級	・2級	・3級	・4級	

⑥. 接着剤　接着剤は、接着する材料に適したものとする。　(12.2.2)
ホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）

7. 防腐、防蟻処理　・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

施工箇所	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

施工箇所	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による
	・

防蟻処理
保証期間５年、専門業者の責任施工とし、報告書を提出すること。

13 屋根及び とい工事

1. 長尺金属板葺　(13.2.2)（表13.2.1）

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚(mm)	備考
	※JIS G 3322塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯	・0.4mm以上	

施工業者　※監督員の承諾による　・（　　）同等以上

2. 折板葺　(13.3.2)（表13.2.1）

材種	形式による区分	山高及びピッチ	板厚(mm)	耐力による区分
⊙塗装溶融亜鉛めっき鋼板	※重ね形又はは嵌締め形	山高（160・85） ピッチ（500・200）	0.6 ｶﾞｺﾞｱ折板上弦材のみ:0.8)	（　）種

軒先面戸板　※有り　・無し
施工業者　※監督員の承諾による　・（　　）同等以上
⊙１０年施工保証以上

3. 粘土瓦葺　(13.4.2)

種類	大きさ・産地等	備考

棟の工法
・7寸丸伏せ棟　・のし一体棟　・のし積み棟　・（　　）　(13.4.3)

④. とい　(13.5.2)(表13.5.1)

材種	径	施工箇所	備考
・配管用鋼管			
・ステンレス鋼管			SUS304　厚（　）
⊙硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	内径75φ	縦樋	カラー
・硬質塩化ビニル管（ＲＦ－ＶＰ）			
⊙塩ビ角樋　）	前高120	軒樋	カラー

とい受金物　※ステンレス製　・鋼製（亜鉛めっき）　(表13.5.3)
防露　※「標仕」表13.5.4による行う　(13.5.2)
・次の箇所には行わない（　　）

14 金属工事

①. ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)

種類	施工箇所	備考
※ＨＬ程度	・下記以外の見え掛かり全て	
・No.２Ｂ程度		
・鏡面仕上げ		

②. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2)(表14.2.1)

種類	施工箇所	備考
・Ｂ－１種		無着色
⊙Ｂ－２種	笠木	・ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ

3. 鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3)(表14.2.2)

施工箇所	亜鉛めっきの種別	備考
	溶融・A種・B種・C種	JIS H 8641
	電気・D種・E種・F種	JIS A 8610

4. 軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　(14.4.2)(表14.4.1)
屋内　※１９形　・２５形　・（　　）
屋外　・１９形　※２５形　・（　　）
屋外における野縁等の間隔　（　　）　(14.4.3)

5. 軽量鉄骨壁下地　スタッド、ランナーの種類　(14.5.3)(表14.5.1)
※「標仕」表14.5.1による　・図示による

⑥. 金属成形板張り　(14.6.2)(表14.2.1)

材種	製法	材種	寸法(mm)	厚(mm)	表面処理
⊙ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ系	・押出し ⊙ロール	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ	ピッチ125	0.5	・B-1種 ・B-2種（　　）
・ﾊﾟﾈﾙ系	※ﾌﾟﾚｽ	⊙塗装溶融亜鉛めっき鋼板			

伸縮調整継手　・設ける　・設けない

⑦. アルミニウム製笠木　部材の種類　・250形　・300形　・350形　⊙（　325形　）　(表14.7.1)
表面処理　※Ｂ－１種又はＢ－２種　・（　　）　(14.7.2)(表14.2.1)
棟上避雷導体システム　※無　・有

⑧. 手すり及びﾀﾗｯﾌﾟ　(14.8.2)(14.8.3)

種類	材料の種別	表面処理
⊙手すり	※ステンレスＳＵＳ３０４	※ＨＬ程度　・鏡面仕上げ　・（　　）
	⊙鉄	亜鉛めっき　外部　※Ｃ種 内部　※Ｅ種
・タラップ	※ステンレスＳＵＳ３０４	※研磨無し
	・鉄	亜鉛めっき　内外部　※Ｃ種 ・（　　）

9. 確認試験　あと施行アンカーの引抜き耐力の確認試験　(14.1.3.(4))
・行う（　　）　・行わない

15 左官工事

1. 防火材料など　屋内の壁及び天井の仕上げ材は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた防火材料とする。　(15.5.2)(表15.5.1)(15.5.6)

2. 仕上塗材仕上げ

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ ・可とう形外装薄塗材Ｓ ・外装薄塗材Ｅ ・可とう形外装薄塗材Ｅ ・防水形外装薄塗材Ｅ ・外装材薄塗材Ｓ ・内装薄塗材Ｃ ・内装薄塗材Ｌ ・内装薄塗材Ｓｉ ・内装薄塗材Ｅ ・内装薄塗材Ｗ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく	・吹付け ・ローラー ・こて塗り	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ ・外装厚塗材Ｓｉ ・外装厚塗材Ｅ ・内装厚塗材Ｃ ・内装厚塗材Ｌ ・内装厚塗材Ｓ ・内装厚塗材Ｓｉ ・内装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・ひき起こし ・かき落とし ・凹凸状	・吹付け ・こて塗り ・ﾛｰﾗｰ塗り	上塗材 ・外装厚塗材Ｃ ※適用 ・ｾﾒﾝﾄｽﾀｯｺ以外の塗材の場合（　　） ・外装厚塗材Si,E ・適用　・適用しない
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ ・可とう形複層塗材ＣＥ ・複層塗材Ｓｉ ・複層塗材Ｅ ・複層塗材ＲＥ ・防水形複層塗材ＣＥ ・防水形複層塗材Ｅ ・防水形複層塗材ＲＳ ・防水形複層塗材ＲＥ	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	上塗材 ※水系アクリルつやあり ・水系ポリウレタンつやあり ・（　　） RSの場合は 耐候性　※３種 防水形の増塗材　※行う 溶剤系ポリウレタンつやあり
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状	吹付け こて塗り	

※ホルムアルデヒドの放散量　Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）

3. マスチック塗材塗り　種別　・Ａ種　・Ｂ種　(15.6.2)

4. ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け　(15.8.2)(15.8.3)

種類	色採	厚さ
・一般用　・（　　）	・着色　・原色	・10・15・20・（　　）

※ホルムアルデヒドの放散量　Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）

承認覧

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事
図面名称	建築工事特記仕様書（２）
有限会社　井関中央設計 福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-8868 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号 一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二	
尺度	
日付	
図面番号	Ａ－０２

16 建具工事

① ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具

(16.2.2～4)(表16.2.1)

種　別	外部に面する建具	内部建具
※普通サッシ	・A種　⊙B種　・C種　・（　　）	
・防音サッシ	性能（防衛工事仕方書による　）	
・断熱サッシ	性能（　　）	
表面処理	・A-1種　・A-2種　※B-1種　・（　　）	※C-1種　・C-2種

② 網戸

※外面納まりの可動式　・（　　）　(16.2.3～4)
網の材種　※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製

3．樹脂製建具

(16.3.2)(表16.3.1)

種　別	外部に面する建具	内部建具
※普通サッシ	・A種　・B種　・C種　・（　　）	
・防音サッシ	性能（　　）	
・断熱サッシ	性能（　　）	

4．鋼製建具

簡易気密型ドアセットの性能値　(16.4.2)
※適用する（※Ａ－３　・　　）　・適用しない
亜鉛めっき鋼板のめっき付着量　※Ｚ１２又はＦ１２　・（　　）　(16.4.3)
鋼板の厚さ　※「標仕」表16.4.2による　・建具表による　(16.4.4)

5．鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット　※適用する（※Ａ－３　・　　）　・適用しない　(16.5.2)
ビニール被覆鋼板　・適用する　・適用しない　(16.5.3)
カラー鋼板　・適用する　・適用しない
召合わせ、縦小口包み板などの材質　※鋼板　・ステンレス鋼板　・（　　）

6．ステンレス製建具

材質　※SUS304　・（　　）　表面仕上げ　※HL　・（　　）　(16.6.2～5)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

7．木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　・A種　※B種　・C種　(表16.7.1)(16.7.2～4)
合板　※普通合板　・天然木化粧合板　・特殊加工化粧合板
ホルムアルデヒドの放散量がＪＡＳで定める　Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）
ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）及びパーティクルボード
ホルムアルデヒドの放散量
※Ｆ☆☆☆☆等級のもの　・Ｆ☆☆☆等級のもの
かまち戸の樹種　かまち（　　）　鏡板（　　）
ふすまの上張り　・新鳥の子程度又はビニル紙程度　・鳥の子
フラッシュ戸の表面板の厚さ　※「標仕」表16.7.6による　・（　　）
フラッシュ戸の工法　※「標仕」表16.7.7による　・（　　）

⑧ 建具用金物

見本品を監督員に提出して承諾を受ける。　(表16.8.1)(16.8.2～4)
マスターキー　※製作する（※新規(3本)　・既存に合わせる）　・製作しない
建具金物の種類　(表16.8.1)

種　類	品　質　・　規　格
シリンダ箱錠 本締り錠 ドアクローザ	評価名簿による。
ピボットヒンジ	
ヒンジクローザ フロアヒンジ	評価名簿による。

9．自動ドア開閉装置

開閉装置の性能値　(16.9.2～3)
スライディングドア用　※「標仕」表16.9.1による　・（　　）
スイングドア用　※「標仕」表16.9.2による　・（　　）
駆動力　※電気式又は電動油圧式　・（　　）
電源　※単相100V（過電流保護装置付）　・（　　）
センサの種類　※熱線　・（　　）
補助センサ　※安全光線スイッチ１組　・（　　）
工事範囲　一次測配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次測配線は本工事に含む。

10．重量シャッター

機能による種類　(16.11.2～4)
・管理用　・防火（・外壁用　・屋内用）　・防煙
シャッターケース（防火・防煙以外の場合）　・設ける　・設けない　(16.11.2)
開閉機能による種類　(表16.11.1)
※上部電動式（手動併用）　電源※　φ　V　kw 以下（過電流保護装置付）
・上部手動式
耐風圧強度　・（　　）
屋内用防火、防煙シャッターの危害防止機構※障害物感知装置・シャッター二段降下方式
工事範囲　一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。

11．軽量シャッター

開閉機能による種類　(16.12.2～4)(表16.12.1)
※手動式
・上部電動式（手動併用）　電源※　φ　V　kw 以下（過電流保護装置付）
耐風圧強度　・（　　）
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
工事範囲　一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。

12．ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ

セクション材料　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　(16.13.2)
・ファイバーグラスタイプ
開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式
収納方式　・スタンダード形　・ローヘッド形　・ハイリフト形
・バーチカル形
ガイドレール　※溶融亜鉛めっき鋼板　・ステンレス鋼板（SUS304）　(16.13.3)
耐風圧性能　・（　　）

⑬ ガラス

建具に取り付けるガラス及びガラスブロックは図面図示（建具表）による。　(16.14.2)
ガラス留め材　(16.14.2.(b))(16.14.3)(表16.14.1)

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材（SR-1）　⊙グレイジングガスケット
鋼製、ステンレス製	※シーリング材（SR-1）

ただし、防火戸は建築基準法に基づく個別認定品とする。

17 カーテンウォール工事

1．メタルカーテンウォール

(17.1.3)(17.2.2)

	種　別
主要構成材料	※アルミニウム製　・ステンレス製
気密性	・A-3　・A-4　・（　　）
水密性	・W-4　・W-5　・（　　）
枠の見込み寸法	※図示
表面処理	・A-1種　・B-1種　・（　　）
耐震性（層間変位量）	※±1/200h 以上　・（　　）
遮音性	・T-3　・T-4　・（　　）
断熱性	・H-4　・H-5　・（　　）
耐火性	・適用しない　・適用する（　　）時間

耐風圧性能　※建築基準法で定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　kg／㎡以上及び負圧　kg／㎡以上に対して安全であること

シーリング材及びガラス留め材の種類　(17.2.2)
・金　属－－－ガラスの場合　（　　）
・金　属－－－石、タイルの場合（　　）
・ガラス－－－ガラスの場合　（　　）
・上記以外のシーリング材の種類は「標仕」表9.6.1のよる

構造用ガスケット　※適用しない　・適用する（施工箇所：　　）
断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　　厚さ：　　施工箇所：図示）
熱線反射ガラスの映像調整　※行う　・行わない

カーテンウォールの方式
・方立方式
・バックマリオン方式（・単純２片支持構法　・ＳＳＧ構法）
・パネル方式
・スパンドレル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

2．ＰＣカーテンウォール

コンクリートの種類及び品質　(17.3.2)
コンクリートの種類　※軽量コンクリート１種　・（　　）
設計基準強度（Fc）　※３０N/mm²　・（　　）
所要スランプ　※12cm以下　・（　　）
鉄筋　※ＳＤ２９５Ａ　・（　　）
目地用シーリング材　※（　　）
断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　厚さ：　施工箇所：図示）
表面仕上げ　※（　　）
耐風圧性能　※建築基準法に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　kg／㎡以上及び負圧　kg／㎡以上に対して安全であること
耐震性能（層間変位量）　※±１／２００h以上　・（　　）

18 塗装工事

① 材料

屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。　(18.1.3)
塗料は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）

② 塗装業者

・（-社）日本塗装工業会の会員　※監督員の承諾する塗装業者

③ 素地ごしらえ

(表18.2.1)～(表18.2.7)

素地	種別	備考
・木部	※Ａ種(不透明塗料塗りの場合) ※Ｂ種(透明塗料塗りの場合)	
⊙鉄鋼面	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種	
⊙亜鉛めっき鋼面	⊙Ａ種　・Ｂ種	
・モルタル面、プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種	
・コンクリート面、ＡＬＣパネル面	・Ａ種　※Ｂ種	
・押出成形セメント板面	・Ａ種　・Ｂ種	
・ボード面	※Ａ種　・Ｂ種	目地継ぎ目処理工法
	・Ａ種　※Ｂ種	

④ 錆止め塗料塗り

塗料種別　(表18.3.1)～(表18.3.2)

塗装面	種別	備考
⊙鉄鋼面	※Ａ種(屋外)　※Ｂ種(屋内) ・Ｂ種(ＥＰ－Ｇの場合)	
⊙亜鉛めっき鋼面	※Ａ種　・Ｂ種 ・Ｃ種(ＥＰ－Ｇの場合)	

錆止め塗料塗り　(表18.3.1)～(表18.3.2)

塗装面	種別	備考
⊙鉄鋼面	※Ａ種(見え掛かり部)　※Ｂ種(見隠れ部) ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	
⊙亜鉛めっき鋼面面	※Ａ種(鋼製建具等)　・Ｂ種 ・Ａ種　・Ｂ種	

5．合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）

(表18.4.1)～(表18.4.3)

塗装面	種別	塗料の種類	備考
・木部	※Ａ種　・Ｂ種	※１種　・２種	
・鉄鋼面	・Ａ種　※Ｂ種	※１種　・２種	
・亜鉛めっき鋼面面		※１種　・２種	

6．クリヤラッカー塗り（ＣＬ）

(表18.5.1)

塗装面	種別	備考
・木部	・Ａ種　※Ｂ種	

7．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）

(表18.6.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

⑧ 耐候性塗料塗り（ＤＰ）

(表18.7.1)～(表18.7.3)

塗装面	塗装面	塗料の種類	備考
鉄鋼部・メッキ部	⊙Ａ種　・Ｂ種	※上塗り１級	
	・Ａ種　・Ｂ種	※上塗り１級	

9．つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）

(表18.8.1)～(表18.8.4)

塗装面	種別	備考
・木部	※Ａ種　・Ｂ種	
・鉄鋼面	・Ａ種　※Ｂ種	
・亜鉛めっき鋼面	・Ａ種　・Ｂ種	
・コンクリート面	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

10．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）

(表18.9.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

11．合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）

(表18.10.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

12．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

(表18.11.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

13．ラッカーエナメル塗り（ＬＥ）

(表18.12.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

14．オイルステイン塗り（ＯＳ）

(表18.13.1)

塗装面	備考

19 内装工事

15．木材保護塗装塗り（ＷＰ）

(表18.14.1)

塗装面	種別	備考
	・Ａ種　※Ｂ種	
	・Ａ種　※Ｂ種	

16．屋内水系塗料塗り

屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面のつや有合成樹脂エマルションペイント塗りに適用する。

① 接着剤

壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。壁紙用の接着剤は、フタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用している規格品とする。
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）(19.2.2)

② ビニル床シート張り

(19.2.2)(19.2.3)

材　種	種　類	記号	色柄	厚さ	工　法	特殊機能	備　考
ビニル床シート	※発泡層のないもの ・発泡層のあるもの	※ＦＳ ・（　）	※無地 ・模様	※2.5 ・（　）	※熱溶接 ・突付け	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性 ・耐薬品性	

3．ビニル床タイル張り

(19.2.2)(19.2.3)

材　種	種　類	形　状	厚　さ
ビニル床タイル	※コンポジションビニル床タイル（半硬質） ・コンポジションビニル床タイル（硬質） ・ホモジニアスビニル床タイル	※300角 ・（　　）	※2 ・3 ・（　　）
	・帯電防止ビニル床タイル（置敷タイプ）	※500角	※2
	・帯電防止ビニル床タイル（パネル一体タイプ）	・（　　）	・（　　）

帯電防止ビニル床タイル（置敷タイプ）の接着剤は粘着剤離形とし、製造所の指定する製品とする。

④ ビニル幅木

材種　※軟質　・硬質　(19.2.2)
厚さ　※２　・（　　）
高さ　※60　・75　⊙100　・（　　）

5．カーペット敷き

織じゅうたん　(19.3.2)(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.1)(表19.3.2)

種　別	織　り　方	パイルの形状	色柄	備　考
・A種 ・B種 ※C種	※三越織り ・（　　）	※カットパイル ・ループパイル ・（　　）	※無地 ・柄物	・防虫加工品 人体帯電圧 ※3kv以下・（　）

下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）第２種２号（Ｂ８）

タフテッドカーペット　(19.3.2)(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長	工　法	備　考
・カットパイル	※５～７　・（　）	※全面接着工法	人体帯電圧
・マルチレベルループ	※４～６　・（　）	・グリッパー工法	※3kv以下・（　）
・レベルループパイル	※４　・（　）		
・カット、ループ併用	・（　）		

タイルカーペット　(19.3.2)(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

種　別	パイルの形状	寸　法	総厚さ	色柄	電気抵抗
※一種 ・二種	※ループパイル ・カットパイル	※５００角 ・（　）	※6.5 ・（　）	※無地 ・柄物	※適用しない ・10^2 Ω以下

6．合成樹脂塗り床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.3～7)

種　別	仕　上　げ　の　種　類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	※薄膜流し展べ仕上げ　・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑）　・防滑仕上げ

ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）

7．防塵用塗料塗り

材　質　水性アクリル系樹脂塗料（※標準色　・　　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤２回塗りとし、総塗布量は０．２５kg／㎡以上

8．フローリング張り

(19.5.2～19.5.7)(表19.5.1～表19.5.4)

類　別	樹　種	工法及び寸法	厚さ・大きさ(mm)	塗　装
※複合フローリング 複　合　・（　　）	※なら ・（　）	※釘どめ工法 ・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種 ・接着工法	厚さ・15　・（　） 幅・75　・90・（　）	※塗装品 ・無塗装品
単　層　・（　　）	・（　）・（　）		長さ・　以上	

ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）

9．体育館用フローリング張り

樹　種　・（　　）
接着剤　・酢酸ビニル系エマルション　・エポキシ樹脂系
表面塗装　・ポリウレタン樹脂塗料３回塗り　・（　　）
張り付け　・下張り板に接着剤で接着し、隠し釘と脳天釘で止める
下張り板　・１２mm以上（木製根太）　・１５mm以上（鋼製根太）
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）
厚さ・　幅・　　(表19.6.1)

10．畳敷き

※別添1　畳工事特記仕様書による

11．せっこうボードその他ボード及び合板張り

(19.7.2)

材　種	種　別	張　り　方		厚　さ	備　考
・せっこうボード		・下地張り ・上張り	・突付け ・目透し ・継目処理工法	・9.5 ・12.5 ・15	
・化粧せっこうボード	・トラバーチン模様	・直張り	※突付け	※9.5	寸法 ※450×910　・910×910
	・木目模様 （裏桟付）	・直張り	※目透し	※9.5	専用軽鉄下地材付き
・無石綿けい酸カルシウム板			・目透し ・継目処理	※6　・8 ・10　・12 ・（　）	タイプⅡ（無石綿）
・木質セメント板	・硬質木毛セメント板 ・普通木毛セメント板	・打込み ・張付け ・敷込み		・20 ※25 ・30	
・繊維板 ・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ					
・天然木化粧合板					・福岡県産材
・メラミン化粧合板	・普通 ・不燃	・突付け		・3.0	
・ラスカットボード		・突付け		・9.0	

ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）
遮音シール材　※アクリル系シーリング材　・ジョイントコンパウンド

20 ユニット及びその他工事

12．壁紙張り

(19.7.2)(19.7.3)

材　種	表　面　の　品　質	厚　さ	工　法
⊙普通合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ※ラワン程度　⊙　ラワン　）	・5.5　⊙9　・12	※A種
	不透明塗料塗りの場合 ※しな程度　・（　　）	・5.5　・9　・12	・B種
・天然木化粧合板	・（　　）	・（　）	

壁又は天井に使用する合板は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたもの。
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）
パーティクルボード及びＭＤＦのホルムアルデヒド放散量　(19.7.2)
※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）

壁紙はJIS A 6921により、建築基準法に基づく防火材料の指定または認定を受けたもの。
ホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）　(19.8.2)

施　工　箇　所	品　質	程　度	防火性能の級別
			・1級　・2級　・（　）
			・1級　・2級　・（　）
			・1級　・2級　・（　）
			・1級　・2級　・（　）
			・1級　・2級　・（　）
			・1級　・2級　・（　）

素地ごしらえの種別　(19.8.3)
モルタル及びプラスター面　・Ａ種　※Ｂ種
せっこうボード面　・Ａ種　※Ｂ種
施工業者　※内装専門業者とする　・（　　）

13．断熱材

・打込み断熱材　(19.9.2)

材　種	種　類	厚　さ
※押出法ポリスチレンフォーム保温板 （スキンなし）	※A種2種b　・（　　） ・A種3種b（接地部分）	※25　・（　　）
・硬質ウレタンフォーム	・A種　・（　　）	・（　　）

ホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・（　　）
施工箇所
※現場発泡工法に示された施工箇所以外の箇所
・（　　）
・現場発泡断熱材（吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材）　(19.9.3)
難熱性　※３級　・２級
厚さ　・２５　・（　　）
施工箇所　※窓回り等の断熱補修部分　・（　　）

⑭ 吸音材

材　種	品　質・規　格	厚　さ
・ロックウール吸音材	ロックウール吸音ボードＫ1等（60K）	・25　・（　　）
⊙グラスウール吸音材	グラスウール吸音ボード2号32K グラスウール吸音ボード2号24K ガラスクロス（ＪＩＳ　R3414-P-17A）銀縁張	※25 ⊙50

ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード（910×1820）の取付け工法
ポロプロピレン及びプラスチックファスナー留め　４本／㎡程度以上

15．ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地材

畳下地　厚さ　※４０　・６５　・８０
フローリング類　厚さ　※８０　・９５

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	適用地震時 水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備　考
	・パネル構法 ・溝構法	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

帯電防止性能（U値）　・0.6以上　・1.2以上　・（　　）
感電防止性能　（漏えい抵抗　R≧1×10^6 Ω）
構成材の材質　・アルミニウム　・鋼製　・（　　）
製造所（　　）同等以上

2．可動間仕切（既製間仕切）

(20.2.3)

構　造　形　式	パネル部の総厚さ	表面材種厚さ	仕　上　げ
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・（　　）以上	※鋼板　・（　　） ※0.6　・（　　） ・（　　）	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・（　　）

品質 JIS A 6512によるもの又は評価名簿によるもの

3．移動式間仕切（ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ）

(20.2.4)

表面板	仕上げ	パネル厚	遮音性
・鋼板 ・（　）	・焼付け ・（　）	※６０　・８０　・１００ ・（　）	・一般タイプ　・吸音タイプ ・遮音タイプ

製造所（　　）同等以上

4．トイレブース

(20.2.5)
仕　様
パネル　・メラミン樹脂系化粧板　・ポリエステル樹脂系化粧板　・（　　）
部　材　・アルミ製　・ステンレス製　・（　　）
附属金物　※ステンレス製　・（　　）
足形状　※幅木型　・足金物型
形　式　・丁番吊　・中心吊

5．階段滑止め

(20.2.6)
・金属製　材　種　※ステンレス製（SUS304）　・真鍮製
形　式　※ビニルタイヤまたは合成ゴムタイヤ入り　・タイヤなし
幅　※３５　・（　　）
取付け　※接着工法　・（　　）
・磁器製　幅　※６０　・（　　）

⑥ 階段手すり ※金属工事による

材　種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※集成材	※クリヤラッカー	・60　・45	
・ステンレスパイプ	・ＨＬ		
・鋼製パイプ	・ＥＰ－Ｇ		
・ビニル製			

7．床目地棒

床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる。　(20.2.7)
※ステンレス製６×１２　・ステンレス製３×１５　・黄銅製４×１２

8．黒板及びホワイトボード

※別添2 福岡県黒板工事特記仕様書の項目を適用する　(20.2.8)
・図示による

9．鏡

縁　※なし　・あり（　　）　(20.2.9)
ガラス厚　※５mm　・（　　）

10．表示

※図示による　(20.2.10)
・下記による

種　類	材　種	寸　法	取付方法
・衛突防止表示	・ステンレス製市販品　・（　　）		
・非常用進入口の表示	・市販品　・（　　）		
・室名札	・ステンレス製　・（　　）	・（　　）	・面付　・持出し
・ピクトグラフ	・ステンレス製　・（　　）	・（　　）	・（　　）
・案内板	・ステンレス製　・（　　）	・（　　）	・（　　）
・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）
・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）

承認覧

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事
図面名称	建築工事特記仕様書（３）
尺度	
日付	
図面番号	Ａ－０３

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

11．煙突ライニング
・煙突用成形ライニング材　(20.2.11)
最高使用温度　※６５０℃　・（　　）℃
・キャスタブル耐火材
製造所　※監督員の承諾する製造所　・（　　）同等以上

12．ブラインド　(20.2.12)

形　式	※横型ブラインド（JIS A4801）	・縦型ブラインド
スラットの材種	※アルミニウム合金	・アルミニウム合金　・クロス
開閉方式	※ギヤ式　・コード式　・操作棒式	・１本操作コード　・２本操作コード
スラットの幅	※25　・35	・80　・100

13．ロールスクリーン　材種、品質等　（　　）　(20.2.13)

14．カーテン及び
カーテンレール　(20.2.14)（表20.2.1）

施工箇所	きれ地名称品質	ひだの種別	形　式	開閉装置
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無

※暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重掛けは３００mm以上とする。
カーテンレール
材種　※ステンレス製　・アルミニウム製　・鋼製
形状　※Ｃ型又はＤ型　・角型

15．ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及び
カーテンボックス
材種　※アルミニウム製（既製品）　・鋼製　・（　　）
色彩　※シルバー　・着色　・（　　）
形状　※溝幅９０×深さ１５０　・溝幅（　　）×深さ（　　）

16．コーナービード　材種　※ステンレス製　・（　　）
施工箇所　※壁面石膏ボードの出隅部分　・（　　）

17．天井見切縁　材　種　※アルミニウム押出型材　・塩化ビニル製
施工箇所　※仕上表による　・（　　）

18．点検口

施工箇所	材　種	寸　法
天　井	※アルミニウム　・（　　）	・450×450　※600×600
床	※アルミニウム　・ステンレス	・450×450　※600×600
	形式　・一般型　・簡易密閉型　・密閉型　・（　　）	

19．くつふきマット　材種　※塩化ビニル製またはゴム製（受枠ステンレス製）
・硬質アルミニウム製（受枠硬質アルミニウム製）
・ステンレス製（受枠ステンレス製）

⑳．鋼製書架及び
物品棚

種　類	規格等	耐荷量による種類
・鋼製書架	ＪＩＳ　Ｓ　１０３９による	・１種　・２種　・３種
・鋼製物品棚	・スライド式(一部固定式)：図示による	・４種　・５種　・６種

21．旗ざお　材種　※アルミニウム合金製　・（　　）
形状　・テーパー式　・同一断面
形式　・ロープ式　・ハンドル式
寸法　・（　　）

22．旗ざお受金物　材種　※ステンレス製（市販品）SUS 304　・（　　）

23．流し台ユニット　ステンレス流し台　仕様・寸法（　　）
コンロ台　（　　）
吊戸棚　（　　）
水切棚　（　　）

24．視覚障害者用
誘導床材

施　工　箇　所	材　質	寸　法	備　考
	・磁器製又はせっ器製	・300角　・（　　）	無ゆう　黄色
	・ビニル床タイル	・300角	黄色
	・点字鋲		真ちゅう製
	・コンクリート製	・300角　厚60	黄色

25．既製フェンス　・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・（　　）

26．かご箱　※鋼製市販品　・３０組用　・６０組用　・１２０組用

27．敷地境界標　種別　・A種（　　程度）　※Ｂ種

28．屋外掲示板　照明器具　※あり　・なし
施　　錠　※あり　・なし

29．車止め支柱　材種　※ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　・（　　）
形状　※スプリング付き　・スプリングなし

30．新聞受・郵便受　・（屋外用 ステンレス製　W390×D300×H590　）

31．木製家具　家具専門メーカーの製作品とする。

32．収納・収納家具　合板類
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　　）
ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＦＤ）及びパーティクルボード
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　　）

㉝．施工中の安全管理　接着剤及び塗料の配布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

㉔ 排水工事

①．排水管　(21.2.1)（表21.2.1）

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
・硬質塩化ビニル管	※VP　・VU　・RS-VU　・RF-VP	

②．排水桝及びふた　※図示による　(21.2.2)

3．グレーチングふた　(21.2.2)
材　質　・鋼製　・ステンレス製　・（　　）
形　式　※受枠付き　・（　　）
種　類　・溝ふた用　・桝ふた用　・かさ上げ用　・Ｕ字溝用
適用荷重　・歩行用　・Ｔ－２用　・Ｔ－６用　・Ｔ－（　　）用
上面形状　・凹凸形　・平形　・（　　）
ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ・細目　・普通目　・（　　）

4．鋳鉄製マンホール
ふた　種　類　・水封形　・密閉形　・簡易気密形　・中蓋付密閉形
適用荷重　・Ｔ－２用　・Ｔ－６用　・Ｔ－（　　）用

⑤．埋戻し材料　「標仕」表3.2.1による　※Ｂ種　・（　　）種

㉒ 舗装工事

①．路床材料　盛土の種類　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.2.3)(表3.2.1)

2．路床土の支持力比
（ＣＢＲ）試験　※行わない　・行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

3．路床締固め度試験　※行わない　・行う　(22.2.5)

4．現場ＣＢＲ試験　※行わない　・行う　(22.2.5)

⑤．路盤材料　※再生クラッシャランＲＣ－４０　(22.3.3)(表22.3.1)
・クラッシャランスラグＣＳ－４０
・クラッシャランＣ－４０　・（　　）

⑥．アスファルト舗装　車道部の基層　※なし　・あり　(22.4.2)（表22.4.1）
アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(22.4.3)
加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)（表22.4.4）

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（１３） ・細粒度アスファルト混合物（１３）	※密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　　）　(22.4.5)
アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

7．コンクリート舗装　コンクリート舗装等に使用するコンクリートは「標仕」表22.5.1による。　(22.5.3)
早強セメント　※使用しない　・使用する
コア採取厚さ試験　・行う　・行わない　(22.5.6)

8．カラー舗装　車道部　(22.6.2,3)（表22.6.1）
カラー舗装の種類　加熱系　・アスファルト混合物　・石油樹脂系混合物　・図示
常温系　・ニート工法　・塗布工法　・図示
常温系カラー舗装の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
結合材による種類　・図示　・（　　）
車道部の基層の適用　・適用しない　・適用する
歩道部
カラー舗装の種類　加熱系　・アスファルト混合物　・石油樹脂系混合物　・図示
常温系　・ニート工法　・塗布工法　・図示
常温系カラー舗装の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
結合材による種類　・図示　・（　　）
車道部の基層の適用　・適用しない　・適用する

9．透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ
舗装　アスファルト混合物の抽出試験　・行う　・行わない　(22.7.6)

10．ブロック系舗装　種　類　・ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装　・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装　・（　　）(22.9.2)
厚　さ　歩行部※６０　・（　　）　車道部※８０　・（　　）
ジオテキスタイル　・適用する(60g/㎡)　・適用しない

11．区画線等　トラフィックペイント　JIS K 5665
※溶融型（厚1.5）　・加熱型（厚1.0程度）
区画線幅　※１５０　・（　　）
・身障者用駐車場スペース表示（1500角）
・駐車スペースナンバー表示（ 350角）

㉓ 植栽工事

※別添３福岡県植栽工事特記仕様書による

施　工　区　分　表

（○印を塗りつぶしたものを適用する）

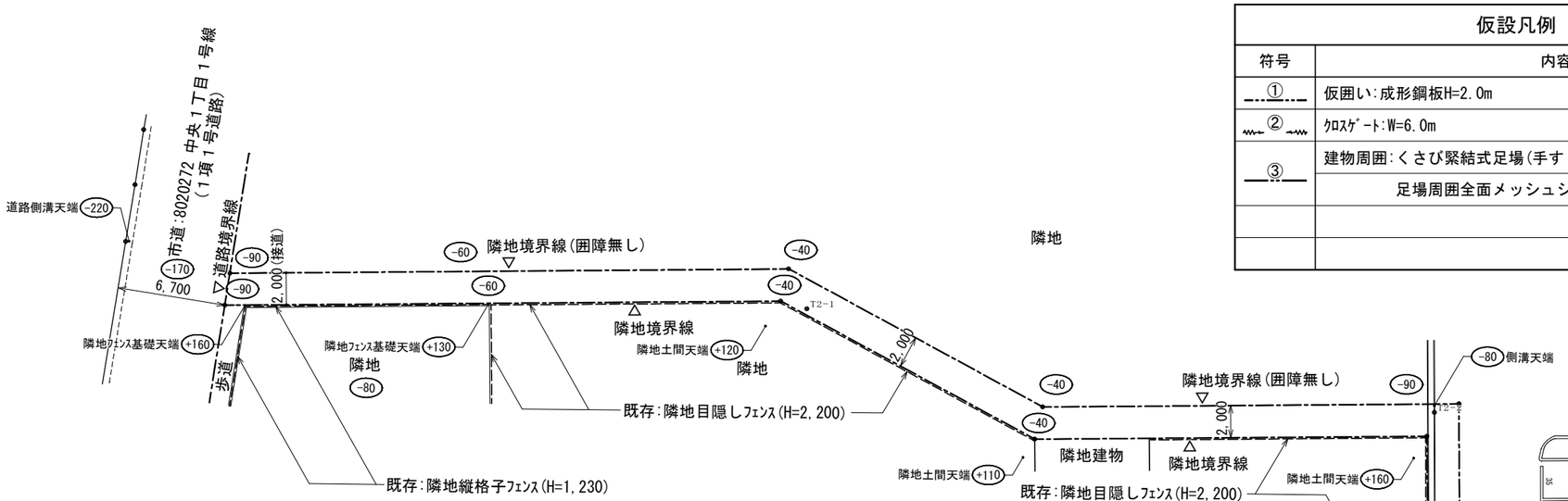
工事内容				建築	外構	植栽	電気	電話	昇降	給衛	空調	ガス	黒板畳	備考
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内	○										電気と十分協議すること
			屋外	○										
			屋上	○										
		自家発電機の基礎　（アンカーボルトを除く）		○										
		テレビアンテナの基礎（　〃　）		○										
		避雷針の基礎　（　〃　）		○										
	機械関係	屋内設備												機械と十分協議すること
		屋外設備（架台、アンカーボルト含む）		○										
		屋上設備（架台、アンカーボルト除く）												
	特記した基礎													
開口部	梁、床、壁	補強を要するもの		●			○	○	○	○	○	○		
	貫通スリーブ	補強を要しないもの					●		○			○		
	梁、床、壁	補強を要するもの		●										
	貫通部型枠	補強を要しないもの		●										
	軽量鉄骨下地、	補強を要するもの		●										
	壁・天井ボード類の切込み	補強を要しないもの		●										
	埋込型分電盤、	補強を要するもの		○										
	端子盤等の型枠	補強を要しないもの		○										
	上記開口部の補強			●										
	上記開口部の墨出し						●		○		○	○		
	スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）						●		○		○	○		
	ＯＡフロア器具取付用													
点検口	床、壁、天井													
ガラリ	外壁面（ダクト、チャンバーの接続用含む）			○										
	建具取付													
	空調用リターン													
排気フード	厨房									○	○	○		
	上記以外			○			●			○		○		
換気扇の取付枠及びアルミパネル				○										
換気扇	壁換気扇（ウェザーカバー含む）						●				○			
	天井換気扇（ベントキャップ含む）													
流し台	排水トラップ含む													
防油提	オイルサービスタンクの防油提		自火発電用	○										
			空調用	○										
床下水槽のマンホール蓋				○										
屋外配水管	雨水			●										
	汚水、雑配水管													
雨水竪樋				●										
身障者用便所手すり														
はみ込み形洗面器用カウンター（前板共）														
ガスボンベ転倒防止用の鎖												○		
電気配管配線	機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）										○			
	機械設備機器付属の制御盤と電源供給及び配管配線						●							
	機械設備自動制御と電気設備盤との電源供給													
	機械設備自動制御と電気設備盤との操作回路の渡り配管配線													
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配管													
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配線													
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ													
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ埋込ボックス													
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線						○							
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線													
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給													
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部													
	自動ドア及び電動シャッターなどの操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ													
	防火扉レリーズ													
	電極棒													
	配線ピット及び蓋			○										
	別途機器などへの接続						●				○			
パッケージエアコンの配線	室外機・室内機間の伝送線													
	室外機・室内機間の電源渡り線													
	室内機・リモコン間の配線													
	室内機・リモコン間の配管													
	リモコン埋込ボックス													
	室内機・集中リモコン間の渡り伝送線													
ガス漏れ探知機（遮断弁連動）												○		
ＯＡフロア用配線器具														
電気錠	電気錠及び通電金具			○										
	ＴＥＮキー及び制御盤						○							
エレベーター出入口三方枠（金属製）														大理石のみ建築工事
シャワーユニット（バスユニット）														
ガス給湯器リモコン用ケーブル												○		
ガス給湯器電線管及びボックス														
畳工事														
黒板工事	下地補強													
	黒板・白板・掲示板													
植栽工事														

承認覧	工事名称	図面名称
	行橋市防災倉庫新設工事	建築工事特記仕様書（４）

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

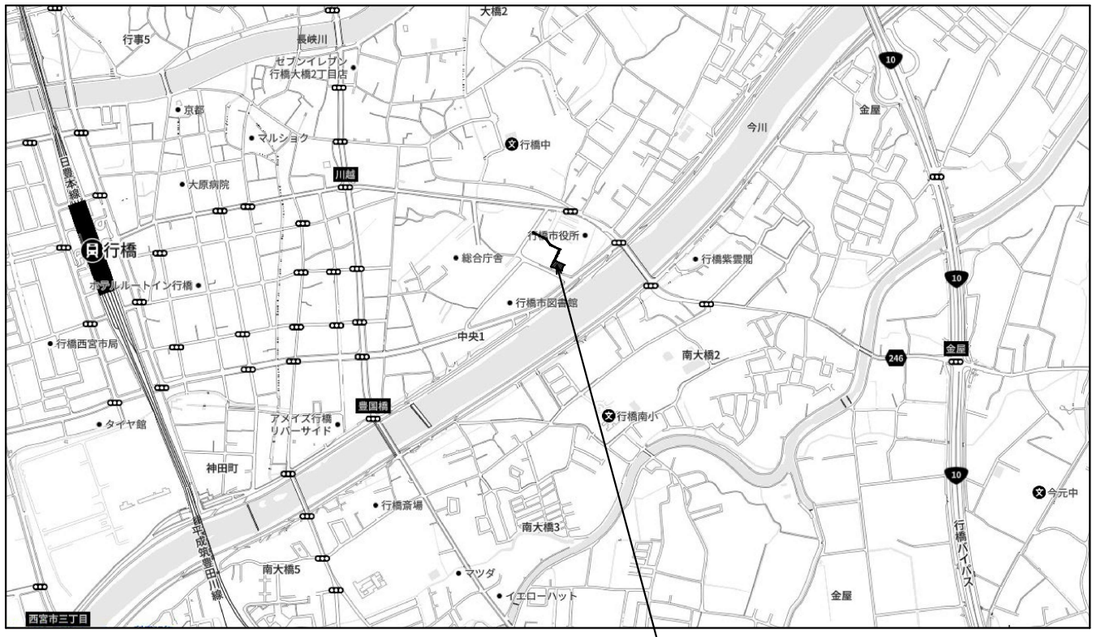
尺度　　図面番号　Ａ－０４
日付

仮設凡例	
符号	内容
①	仮囲い:成形鋼板H=2.0m
②	ｸﾛｽｹﾞｰﾄ:W=6.0m
③	建物周囲:くさび緊結式足場(手すり先行方式) 建地幅900
	足場周囲全面メッシュシート(防炎Ⅱ類)張り



配置図 S=1/250

※ (+000) は、既存GLレベルを示す。
※ 設計GL＝(+100) とする。



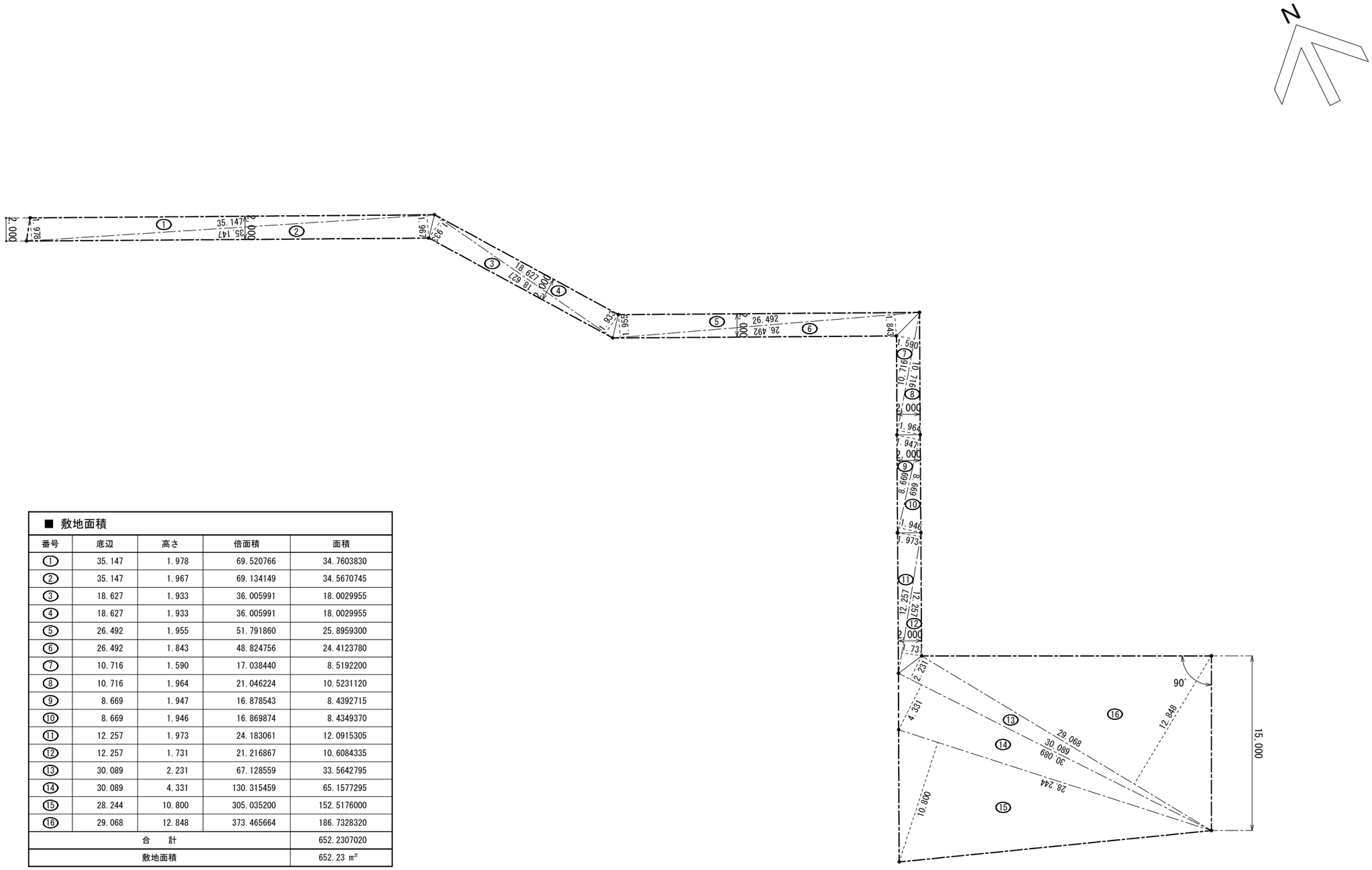
工事場所:福岡県行橋市中央一丁目2307-2

N

付 近 見 取 図

有限会社 井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検 図
図面名称	付近見取図・配置図		
縮尺 A2=1/250 A3=71%	年月日 平成 年 月 日	A － 05	



■ 敷地面積

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
①	35.147	1.978	69.520766	34.7603830
②	35.147	1.967	69.134149	34.5670745
③	18.627	1.933	36.005991	18.0029955
④	18.627	1.933	36.005991	18.0029955
⑤	26.492	1.955	51.791860	25.8959300
⑥	26.492	1.843	48.824756	24.4123780
⑦	10.716	1.590	17.038440	8.5192200
⑧	10.716	1.964	21.046224	10.5231120
⑨	8.669	1.947	16.878543	8.4392715
⑩	8.669	1.946	16.869874	8.4349370
⑪	12.257	1.973	24.183061	12.0915305
⑫	12.257	1.731	21.216867	10.6084335
⑬	30.089	2.231	67.128559	33.5642795
⑭	30.089	4.331	130.315459	65.1577295
⑮	28.244	10.800	305.035200	152.5176000
⑯	29.068	12.848	373.465664	186.7328320
合　計				652.2307020
敷地面積				652.23 m²

敷地求積図　S=1/250

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	敷地求積図		
縮尺 A2=1/250 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 06	

設計概要

一般事項	工事名称	行橋市防災倉庫新築工事	用　　途	防災倉庫　　(全て非居室)	認定番号
	工事場所	福岡県行橋市中央一丁目2307-2			
地域指定	用途地域	第二種住居地域	指定容積率	200 %	
	防火指定	法22条区域	指定建ぺい率	60 %	
	その他指定		敷地面積	652.23 ㎡	
建物概要	基礎形式	鋼管杭基礎	階　　数	地上２階	その他
	主体構造	鉄骨造	最高軒高	6.250 m	
	延床面積	399.84 ㎡　容積率　399.84 ／ 652.23 × 100 ＝ 61.303528 → 61.31 ＞ 200 % ･･･OK			
	建築面積	208.47 ㎡　建ぺい率　208.47 ／ 652.23 × 100 ＝ 31.962651 → 31.97 ＞ 60 % ･･･OK			

認定番号：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板(不燃):NM-8697

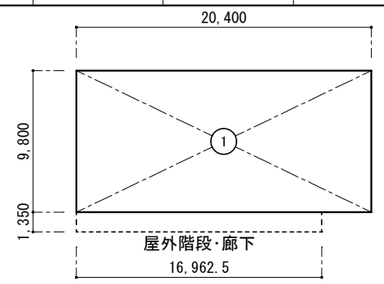
その他：※ 法28条の2による表示:天井裏及び室内仕上げ全て、規制対象外またはF☆☆☆☆。

外部仕上表

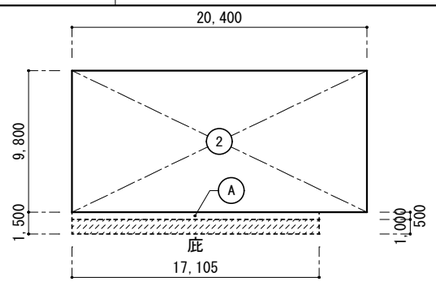
屋　根	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ折板葺 t=0.8+0.6(はぜ式･H160･@500)･断熱ﾀﾞﾌﾞﾙ折板工法	巾　木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
庇	鉄骨部材 DP塗装の上	犬走り・階段基礎	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ(目地切@1,700)
	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ折板葺 t=0.6(重ね式･H 85･@200)		
軒天井･庇裏	折板裏面あらわし	樋	竪樋:ｶﾗｰ塩ﾋﾞ管(75φ)･ｽﾃﾝﾚｽ掴み金物
外　壁	ｶﾗｰ角波ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ鋼板 t=0.5		軒樋:ｶﾗｰ塩ﾋﾞ角樋(前高120)･ｽﾃﾝﾚｽ支持金物
		開口部	ｱﾙﾐ製
水切等	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.5 板金加工	笠　木	ｱﾙﾐ製(W=200)
屋外廊下	鉄骨部材(床:C･PL-4.5、手摺:鋼製) DP塗装	備　考	換気扇フード(設備工事)
屋外階段	鉄骨部材(段板:C･PL-4.5、手摺:鋼製) DP塗装		

室内仕上表

階	室名	床高	床	巾木・腰	壁	天井	廻縁	天井高	備考
１階	倉庫１	1FL±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	LGS65(柱型:LGS50)下地	梁型･ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄあらわし DP塗装	ー	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ裏	換気扇(設備工事)
			ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0		ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま			まで:3,100	ｽﾗｲﾄﾞﾗｯｸ･同ﾚｰﾙ
					(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)			(梁下H=2,600)	
２階	倉庫２～４	2FL±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	LGS65(柱型:LGS50)下地	梁型･折板あらわし DP塗装	ー	折板裏まで:	換気扇(設備工事)
			ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0		ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま			2,800～3,100	
					(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)			(梁下H=2,400)	



１階求積図　S=1/300



２階求積図　S=1/300

■ 床面積

（２階）　2　20.4　×　9.8　＝ 199.92

（１階）　1　20.4　×　9.8　＝ 199.92

（ 計 ）　399.84㎡

■ 建築面積

(建物)　1　20.4　×　9.8　＝ 199.92

（ 庇 ）　A　17.105×　0.5　＝　8.5525

（ 計 ）　208.475㎡

■ 消防無窓階の判定

１階：

【必要面積】　199.92×1/30　＝ 6.664　　計=6.67 ㎡

∧ ok

【有効面積】　AD-1　2.0/2×2.0×3 ＝ 6.0
AW-1　1.6/2×0.8×2 ＝ 1.28　　計=7.28 ㎡

２階：

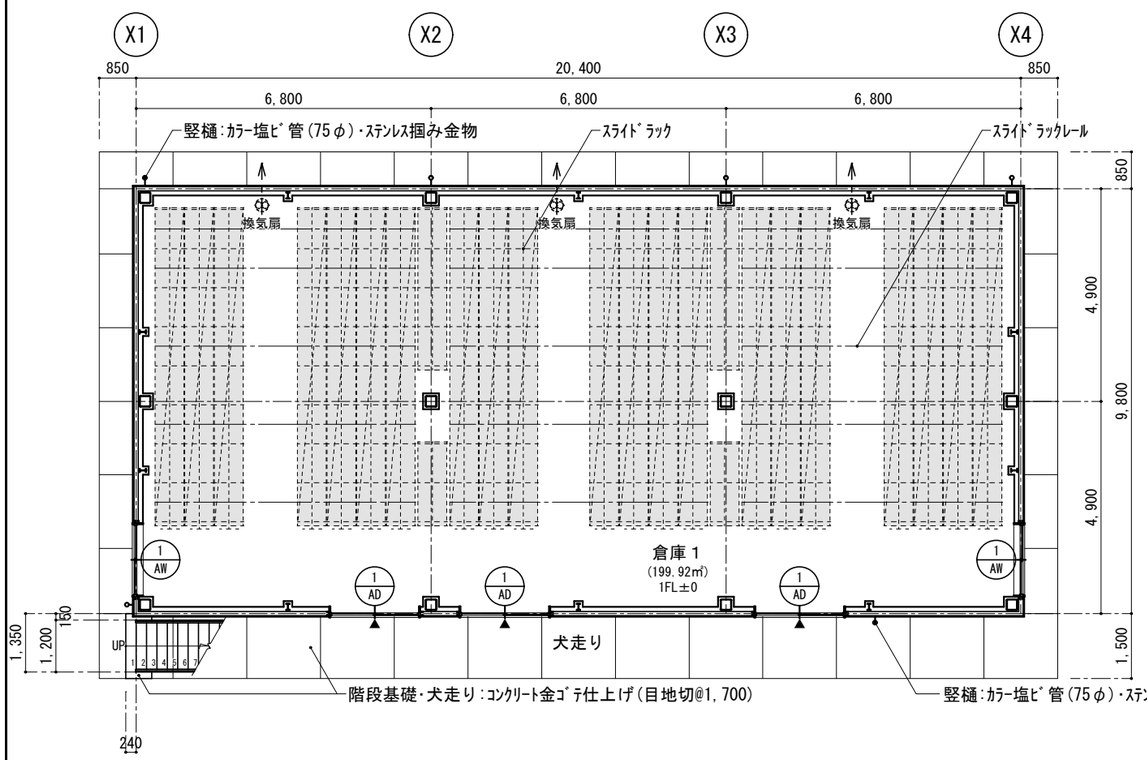
【必要面積】　199.92×1/30　＝ 6.664　　計=6.67 ㎡

∧ ok

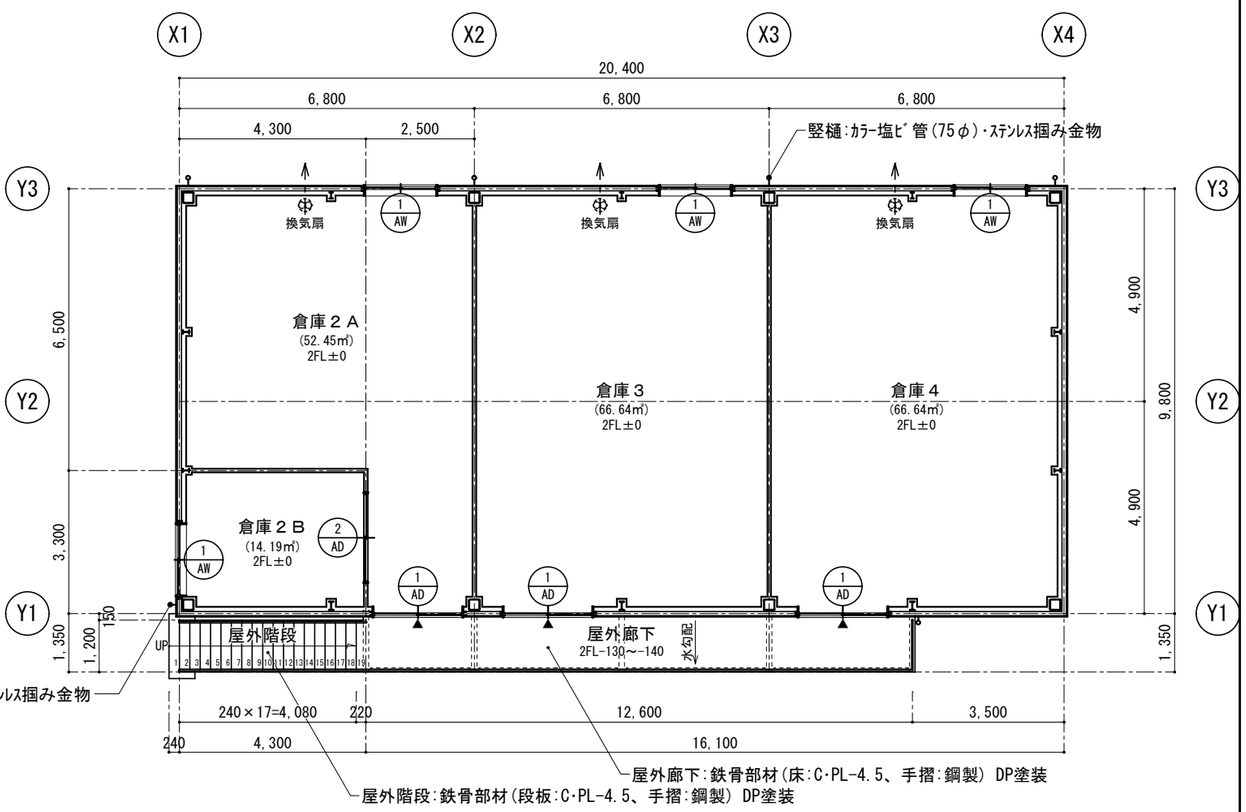
【有効面積】　AD-1　2.0/2×2.0×3 ＝ 6.0
AW-1　1.6/2×0.8×4 ＝ 2.56　　計=8.52 ㎡

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	仕上表・建物求積図・法チェック	
縮尺 A2=1/300 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 07



１階平面図　S=1/100　※ 1FL=設計GL+100



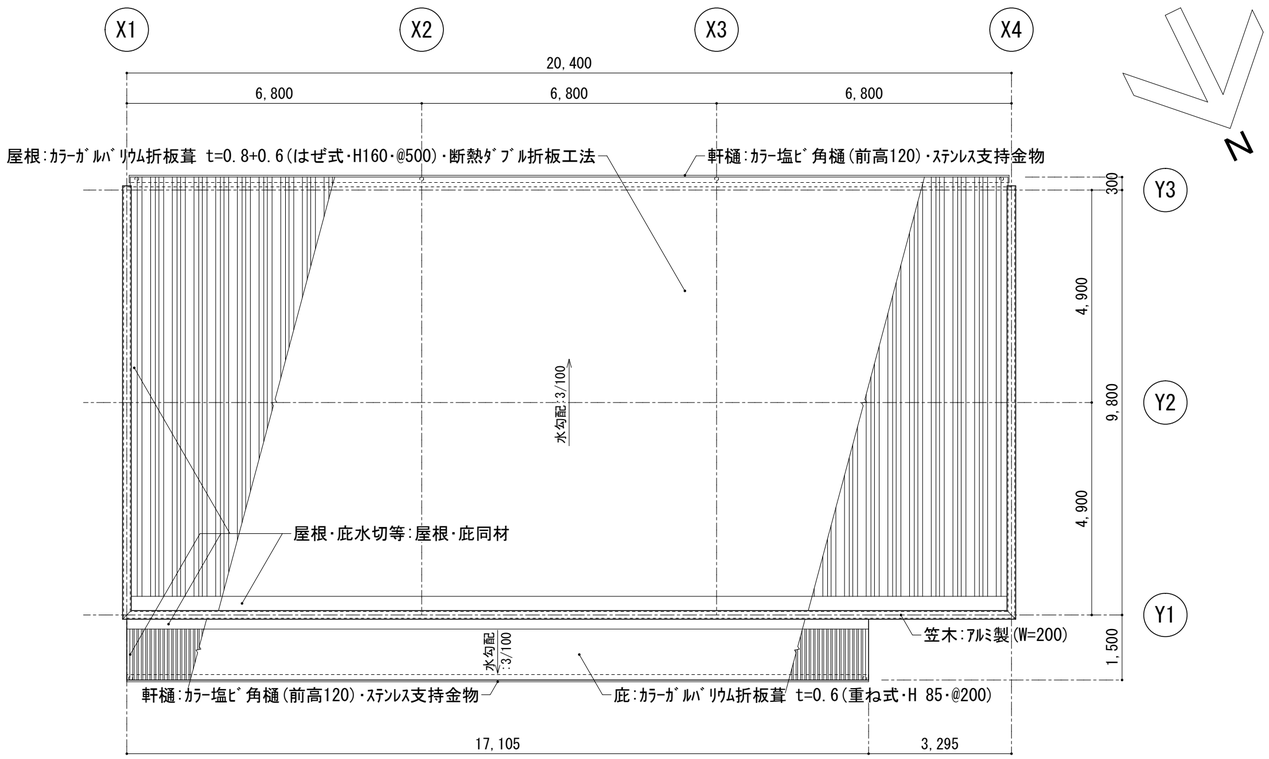
２階平面図　S=1/100　※ 2FL=設計GL+3,330

※ 屋外廊下床面のC･PLは、水が溜まらないように若干の水勾配をつけること。
（屋外廊下を１階出入口の庇として利用するため、水抜き穴等は設けないこと。）

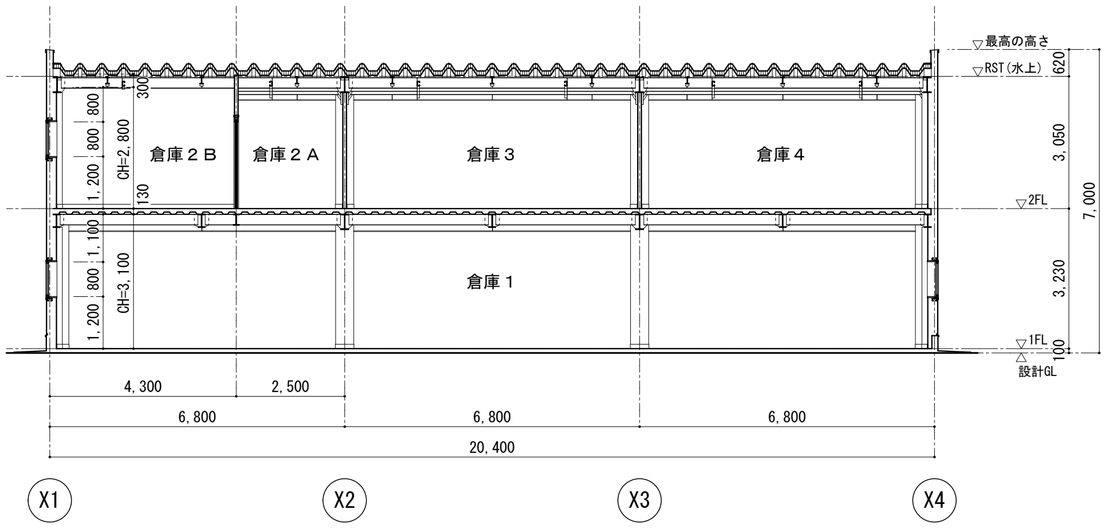
屋外階段	
踏　面	240.00
けあげ	166.67
有効幅	≧1,000

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	各階平面図		
縮尺 A2=1/100 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 08	

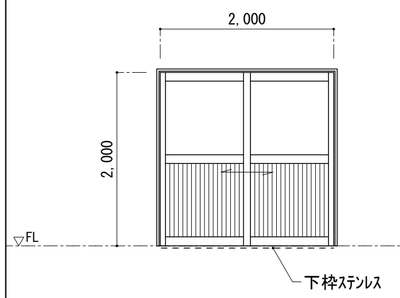
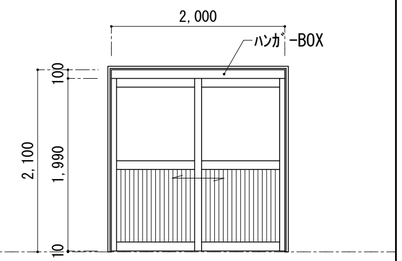


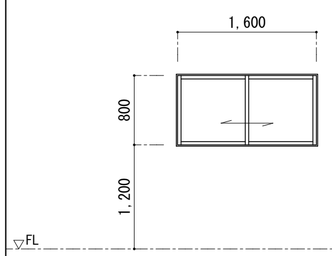
屋根平面図　S=1/100



断面図　S=1/100

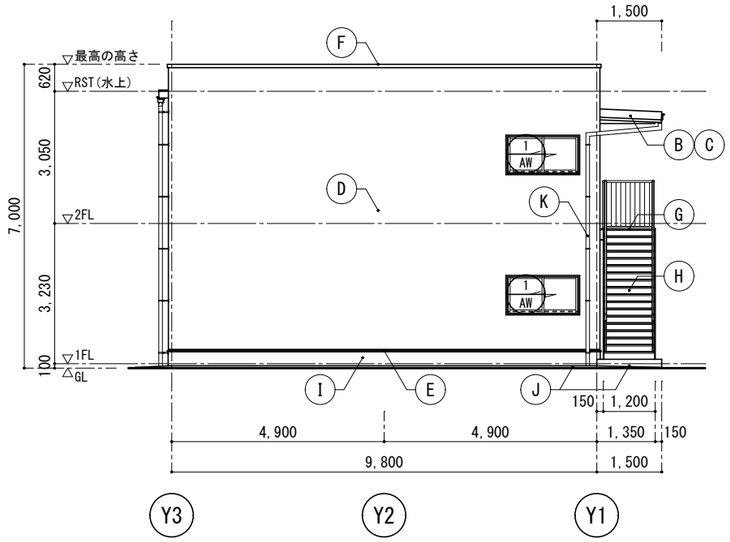
建具表　S=1/50

符　号	1/AD　1階:3 ＋ 2階:3 ＝ 計:6ヶ所	2/AD　2階のみ:1ヶ所
姿　図		
場　所	各室出入口	倉庫２Ｂ出入口
形式・見込	引違い框戸(半外付)　見込:70	軽量ﾊﾝｶﾞｰ引違い框戸(内付)　見込:70
材料・見込	ｱﾙﾐ製(ｼﾙﾊﾞｰ)･下枠ｽﾃﾝﾚｽ	ｱﾙﾐ製(ｼﾙﾊﾞｰ)･ﾉﾝﾚｰﾙﾀｲﾌﾟ
硝　子	型板網入板ｶﾞﾗｽ t=6.8･腰:ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ t=3.0	型板網入板ｶﾞﾗｽ t=6.8･腰:ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ t=3.0
金　物	ｱﾙﾐ引手･引違戸錠･ｱﾙﾐｱﾝｸﾞﾙ(3方)･付属金物一式	ｱﾙﾐ引手･引違戸錠･ｱﾙﾐｱﾝｸﾞﾙ(3方両面)･付属金物一式
備　考	額縁(3方):30×195(挽立寸法)	額縁(3方両面):30×30(挽立寸法)

符　号	1/AW　1階:2 ＋ 2階:4 ＝ 計:6ヶ所
姿　図	
場　所	各室窓
種　別	ｱﾙﾐ製引違い框戸(半外付)　見込:70
材料・見込	ｱﾙﾐ製(ｼﾙﾊﾞｰ)
硝　子	型板網入板ｶﾞﾗｽ t=6.8
金　物	ﾛｯｸ付ｸﾚｾﾝﾄ･網戸･ｱﾙﾐ水切･ｱﾙﾐｱﾝｸﾞﾙ(4方) 付属金物一式
備　考	額縁(4方):30×195(挽立寸法)

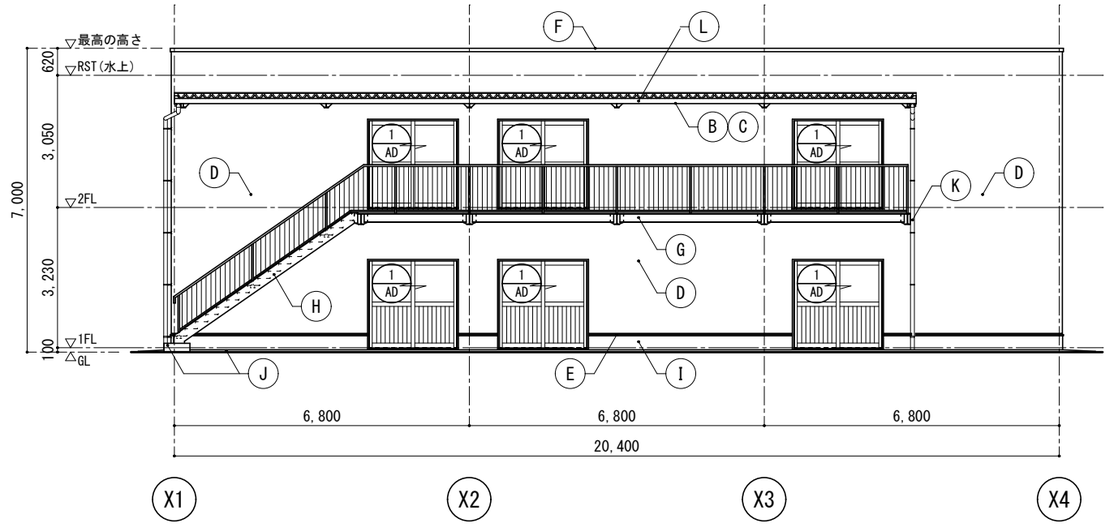
有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	屋根伏図・断面図・建具表	
縮尺 A2=1/100･50 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 09

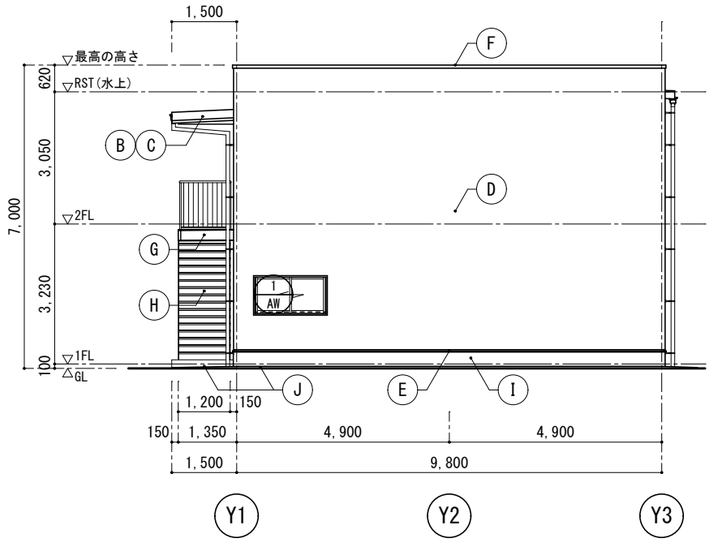


東面立面図　S=1/100

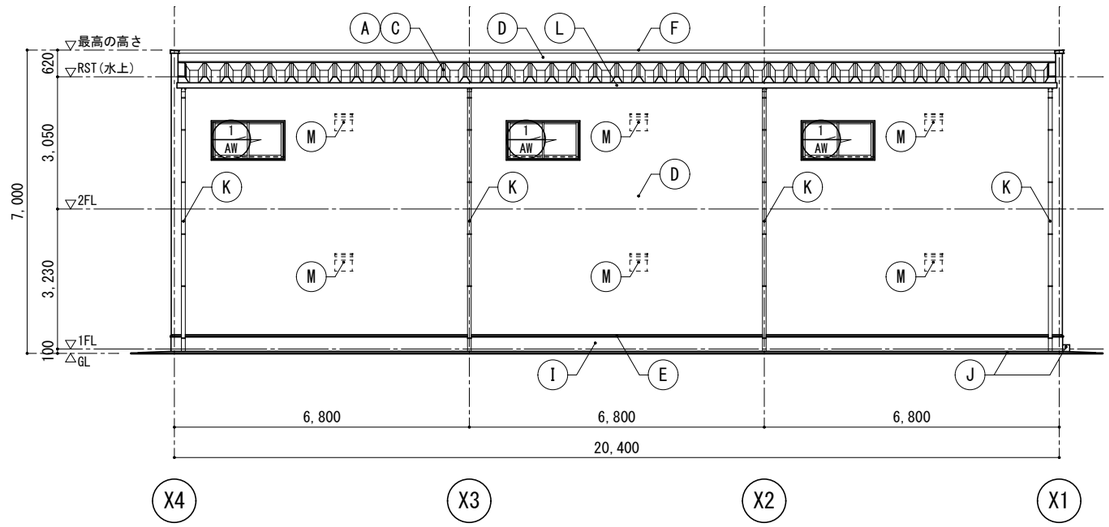
※ 道路斜線の検討
前面道路の反対側の境界線より水平距離20m超 OK
※ 隣地斜線の検討
最高の高さ=7.0＜20m OK



北面立面図　S=1/100



西面立面図　S=1/100



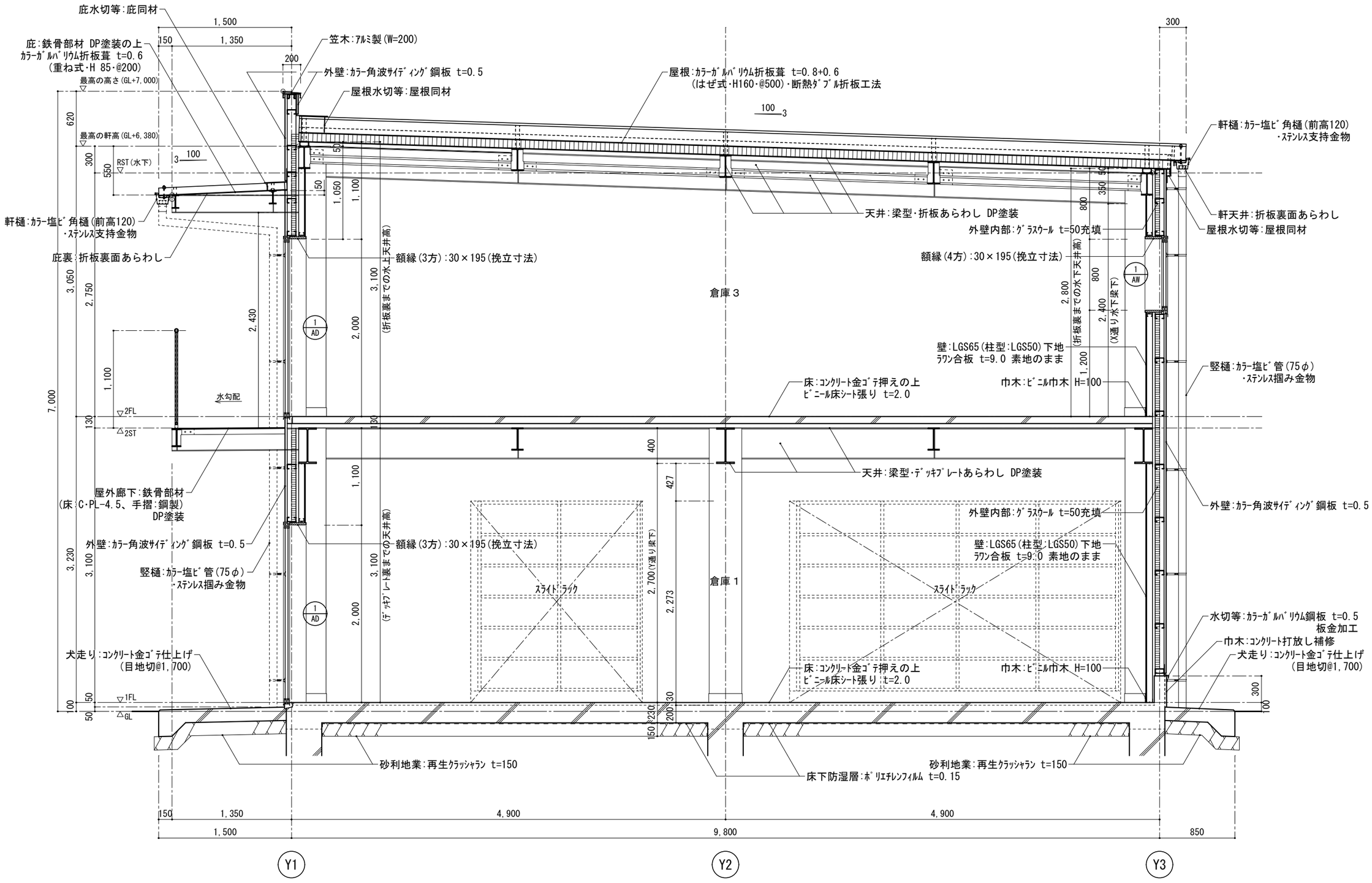
南面立面図　S=1/100

外部仕上凡例

符号	仕上げ	符号	仕上げ	符号	仕上げ	符号	仕上げ
A	屋根:ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ折板葺 t=0.8+0.6(はぜ式･H160･@500)･断熱ﾀﾞﾌﾞﾙ折板工法	E	水切等:ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.5 板金加工	I	巾木:ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	M	換気扇フード(設備工事)
B	庇:鉄骨部材 DP塗装の上 ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ折板葺 t=0.6(重ね式･H 85･@200)	F	笠木:ｱﾙﾐ製(W=200)	J	犬走り･階段基礎:ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ(目地切@1,700)		
C	軒天井･庇裏:折板裏面あらわし	G	屋外廊下:鉄骨部材(床:C･PL-4.5、手摺:鋼製) DP塗装	K	竪樋:ｶﾗｰ塩ﾋﾞ管(75φ)･ｽﾃﾝﾚｽ掴み金物		
D	外壁:ｶﾗｰ角波ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ鋼板 t=0.5	H	屋外階段:鉄骨部材(段板:C･PL-4.5、手摺:鋼製) DP塗装	L	軒樋:ｶﾗｰ塩ﾋﾞ角樋(前高120)･ｽﾃﾝﾚｽ支持金物		

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

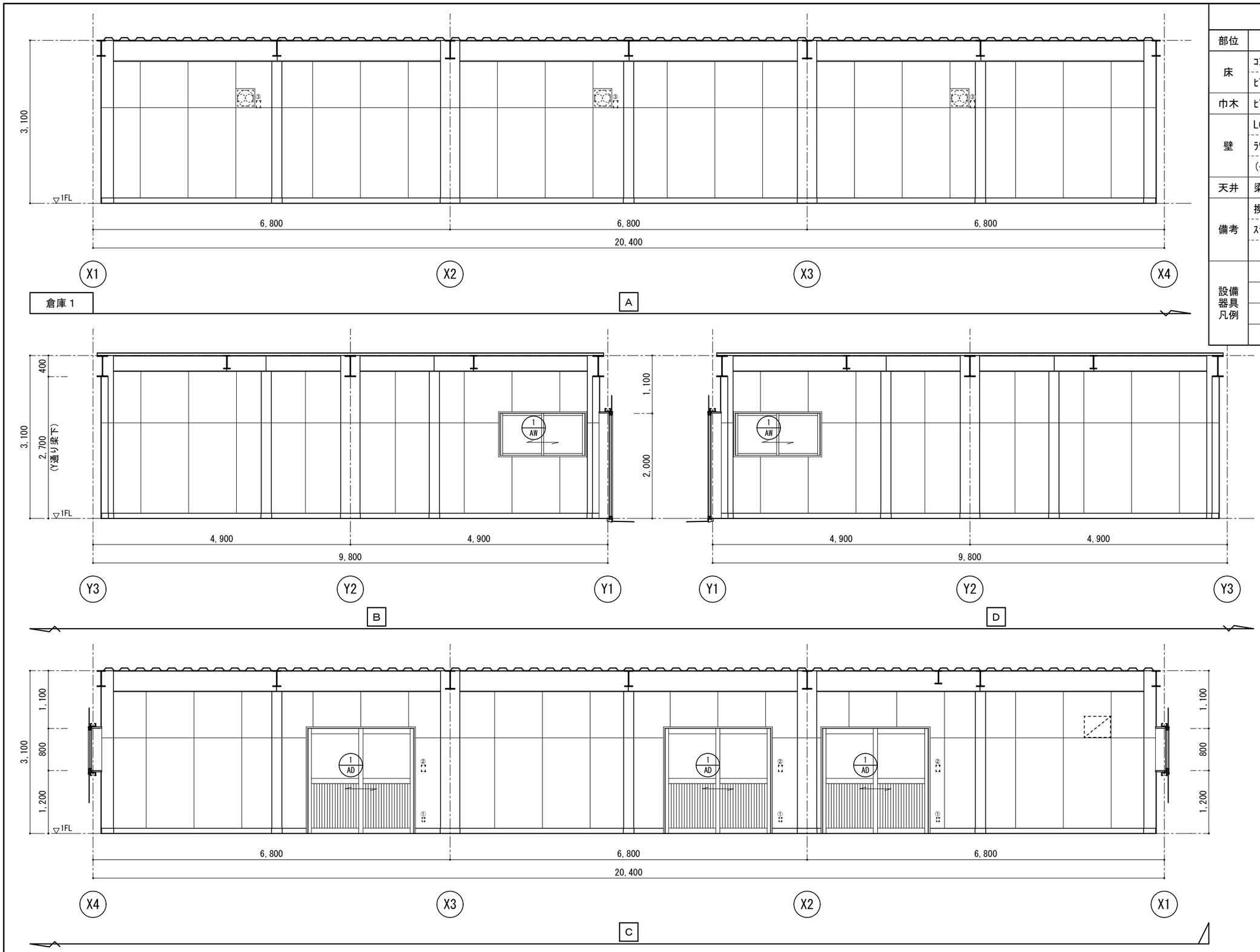
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	立面図		
縮尺 A2=1/100 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 10	



矩計図　S=1/30

※ 屋外廊下床面のC・PLは、水が溜まらないように若干の水勾配をつけること。
（屋外廊下を１階出入口の庇として利用するため、水抜き穴等は設けないこと。）

有限会社　井関中央設計 福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号 一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二	工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
	図面名称	矩計図	
	縮尺 A2=1/30 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 11

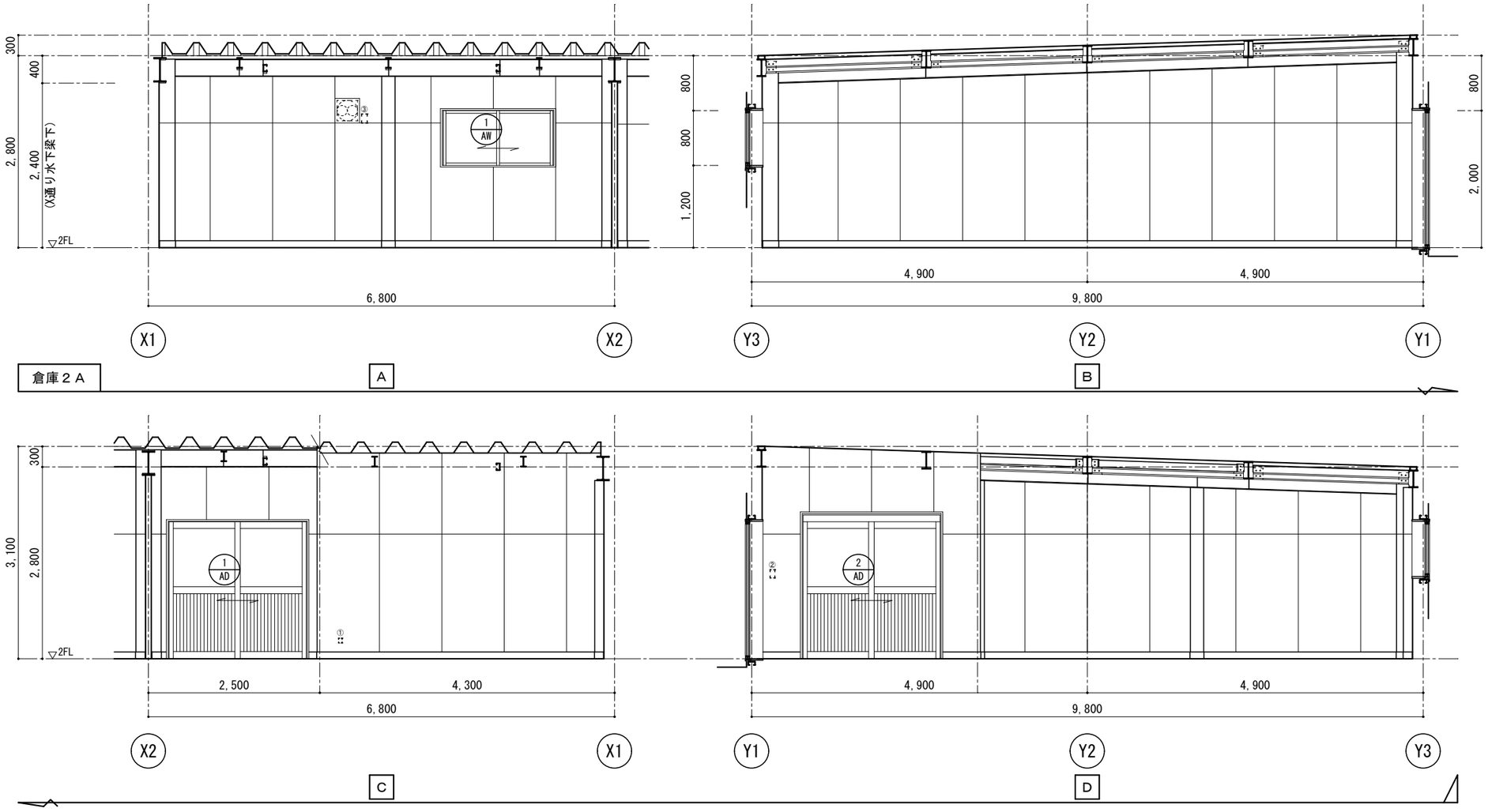


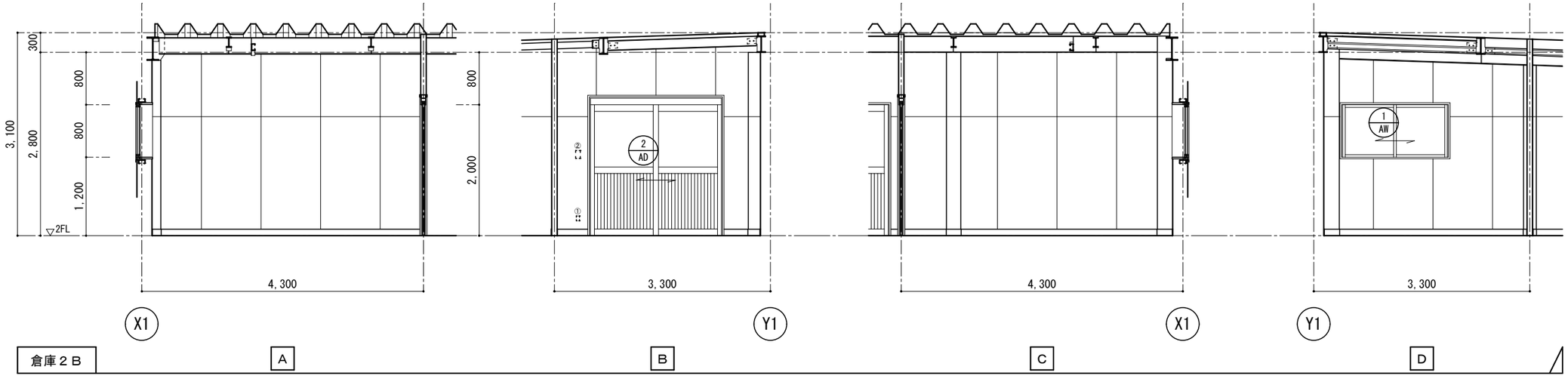
倉庫１ 内部仕上

部位	仕上げ	
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	
	ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0	
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	
壁	LGS65(柱型:LGS50)下地	
	ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま	
	(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)	
天井	梁型･ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄあらわし DP塗装	
備考	換気扇(設備工事)	
	ｽﾗｲﾄﾞﾗｯｸ･同ﾚｰﾙ	
設備器具凡例	①①	ｺﾝｾﾝﾄ
	②②	ｽｲｯﾁ
	③③	温度ｻｰﾓ
		分電盤:W500×H400×D70

有限会社 井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検 図
図面名称	展開図１	
縮尺 A2=1/50 A3=71%	年月日 平成 年 月 日	A － 12



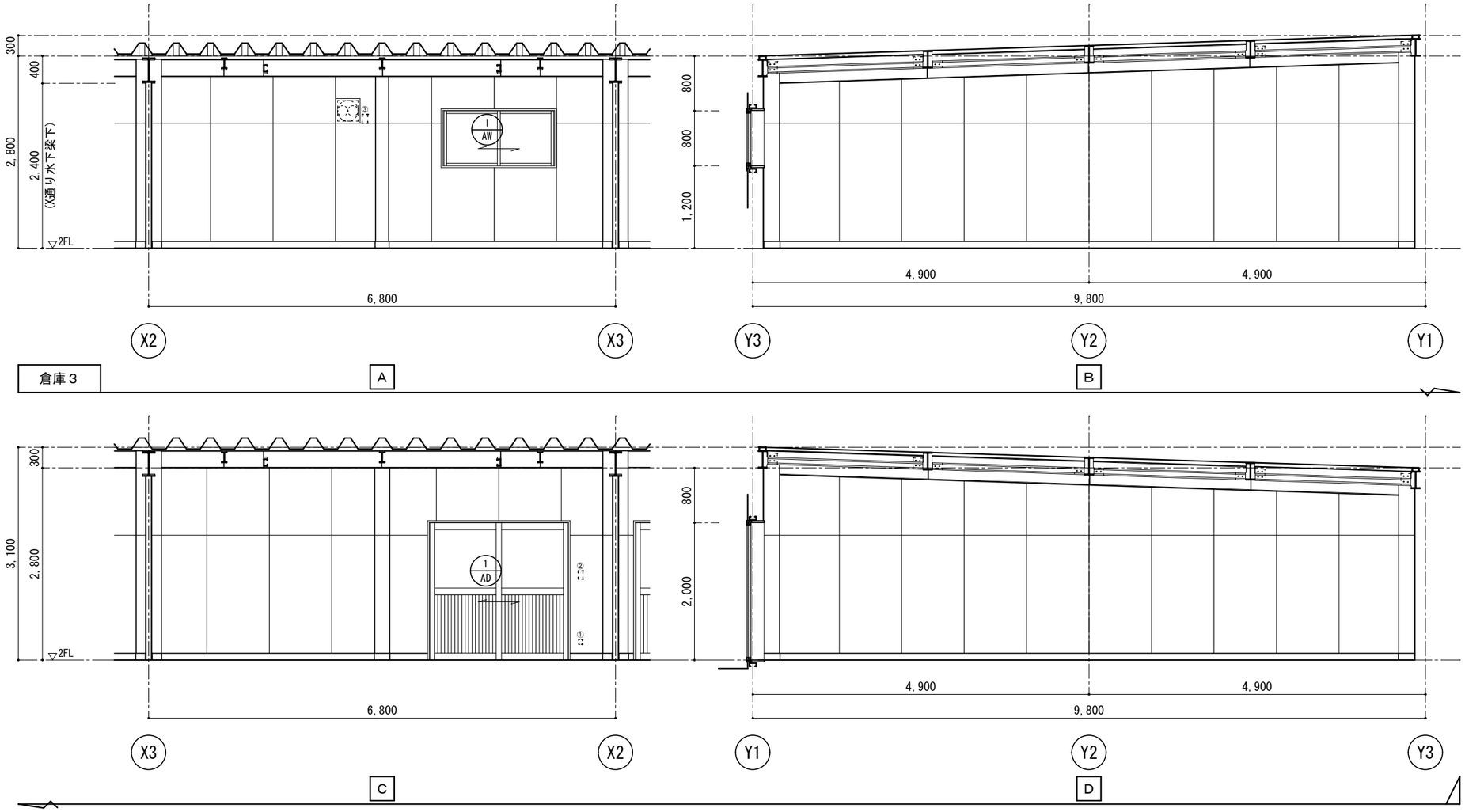


倉庫２Ａ・２Ｂ 内部仕上

部位	仕上げ	
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	
	ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0	
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	
壁	LGS65(柱型:LGS50)下地	
	ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま	
	(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)	
天井	梁型・折板あらわし DP塗装	
備考	換気扇(設備工事)	
設備器具凡例	①②	ｺﾝｾﾝﾄ
	②②	ｽｲｯﾁ
	③②	温度ｻｰﾓ

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	展開図２		
縮尺	A2=1/50 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 13

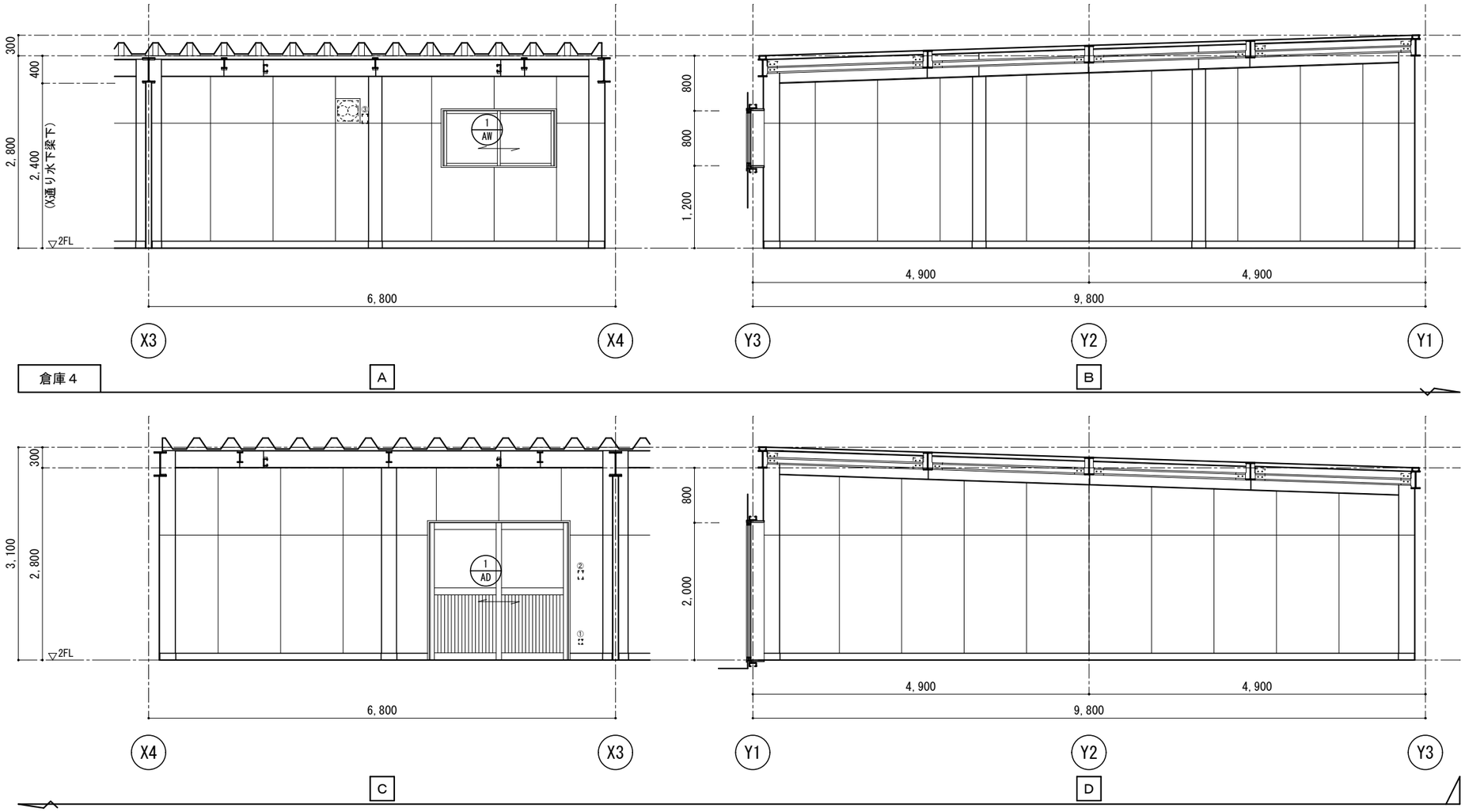


倉庫３ 内部仕上

部位	仕上げ	
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	
	ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0	
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	
壁	LGS65(柱型:LGS50)下地	
	ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま	
	(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)	
天井	梁型・折板あらわし DP塗装	
備考	換気扇(設備工事)	
設備器具凡例	①コンセント	
	②スイッチ	
	③温度サーモ	

有限会社 井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検 図
図面名称	展開図３		
縮尺 A2=1/50 A3=71%	年月日 平成 年 月 日	A － 14	

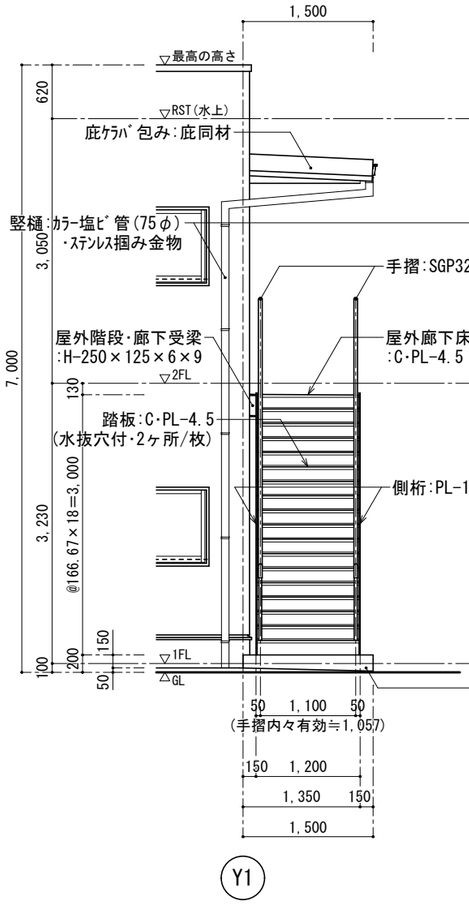


倉庫４ 内部仕上

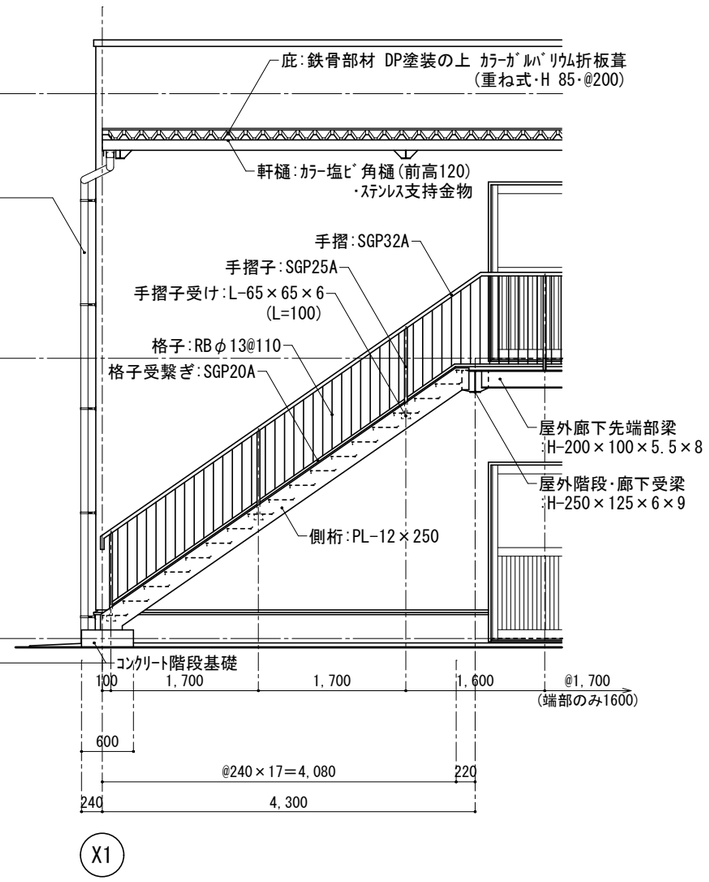
部位	仕上げ	
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押えの上	
	ﾋﾞﾆｰﾙ床ｼｰﾄ張り t=2.0	
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	
壁	LGS65(柱型:LGS50)下地	
	ﾗﾜﾝ合板 t=9.0 素地のまま	
	(外壁内部:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50充填)	
天井	梁型・折板あらわし DP塗装	
備考	換気扇(設備工事)	
設備器具凡例	①②	ｺﾝｾﾝﾄ
	②	ｽｲｯﾁ
	③	温度ｻｰﾓ

有限会社 井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

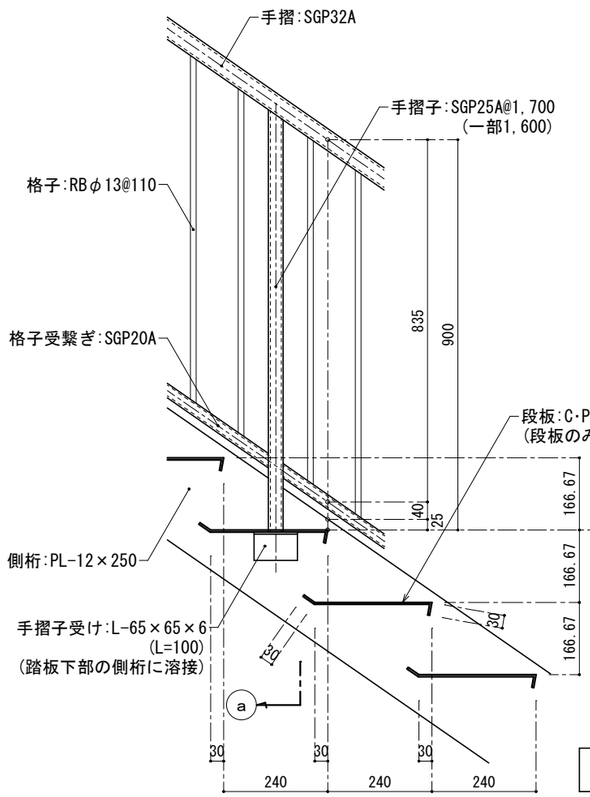
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検 図
図面名称	展開図４		
縮尺 A2=1/50 A3=71%	年月日 平成 年 月 日	A － 15	

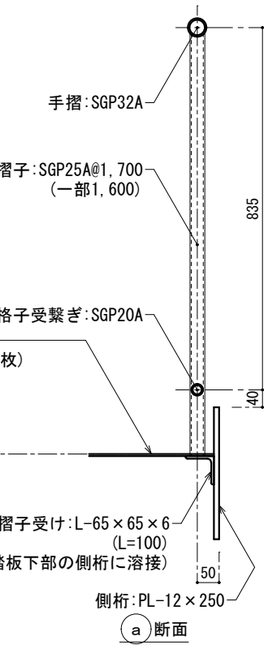


屋外階段正面姿図　S=1/50

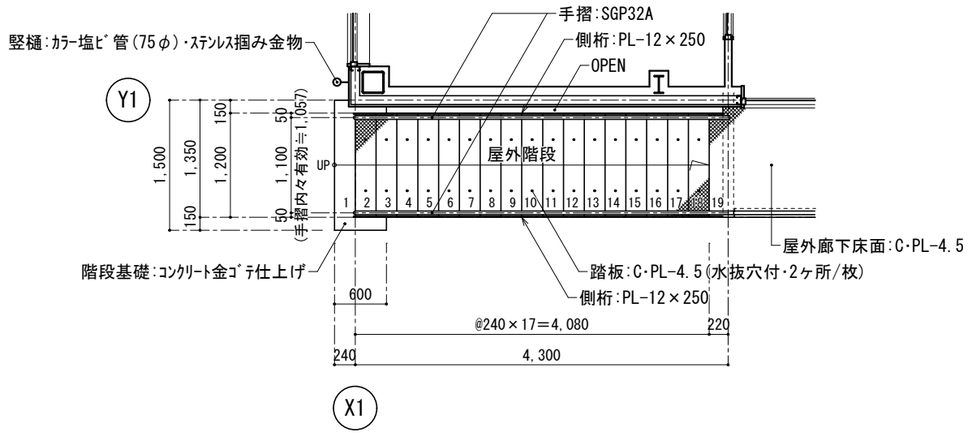


屋外階段側面姿図　S=1/50

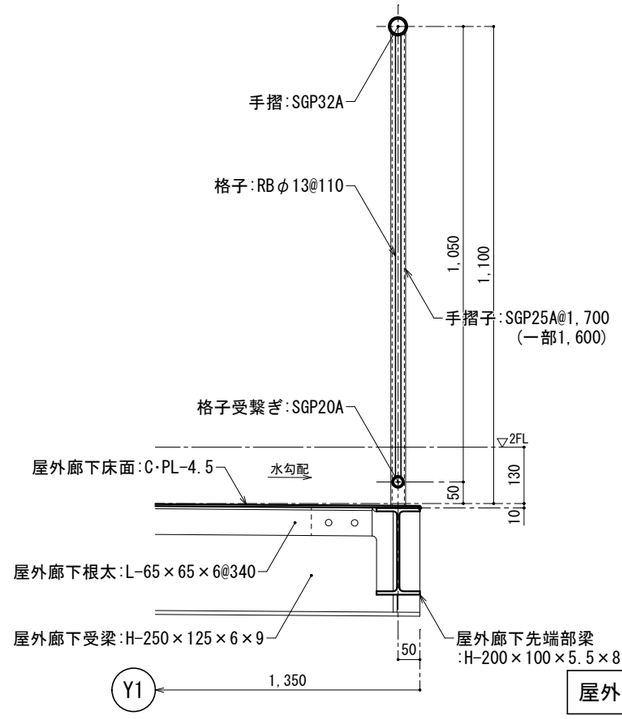




屋外階段断面詳細図　S=1/10



屋外階段平面図　S=1/50

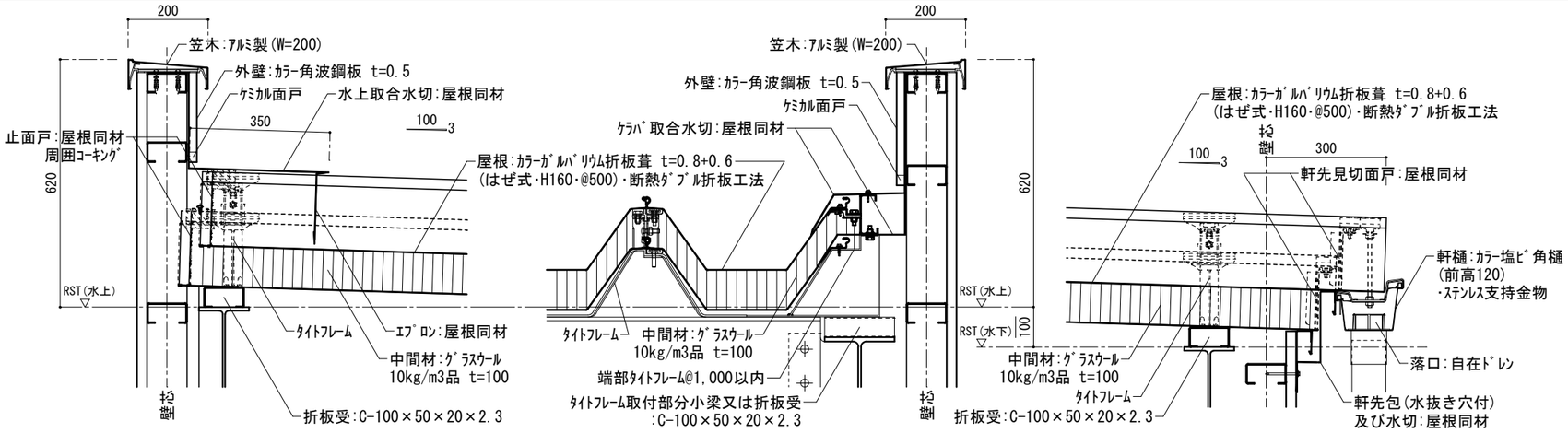


屋外廊下断面詳細図　S=1/10

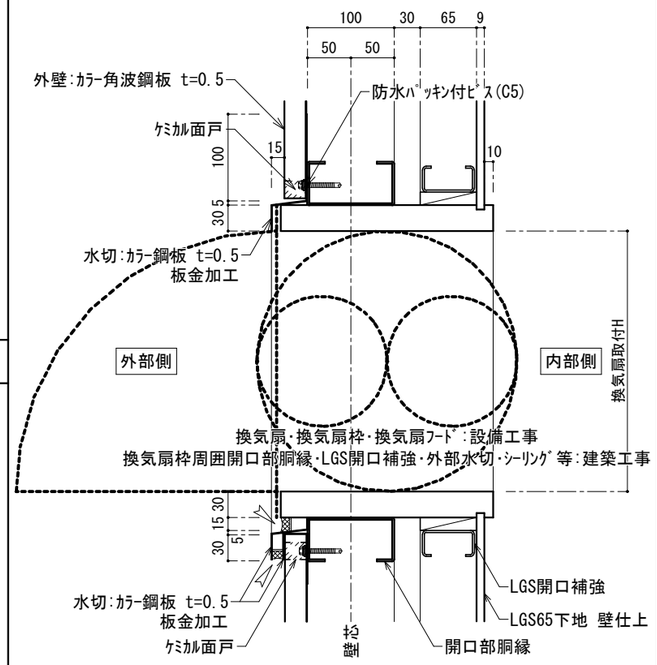
[共通事項]
※ 鉄部は全てDP塗装とする。
※ 屋外廊下床面のC・PLは、水が溜まらないように若干の水勾配をつけること。
(屋外廊下を１階出入口の庇として利用するため、水抜き穴等は設けないこと。)

有限会社　井関中央設計 福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号 一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二	工事名称　行橋市防災倉庫新設工事		検　図
	図面名称　屋外階段・廊下詳細図		
	縮尺　A2=1/50・10 A3=71%	年月日　平成　年　月　日	A － 16

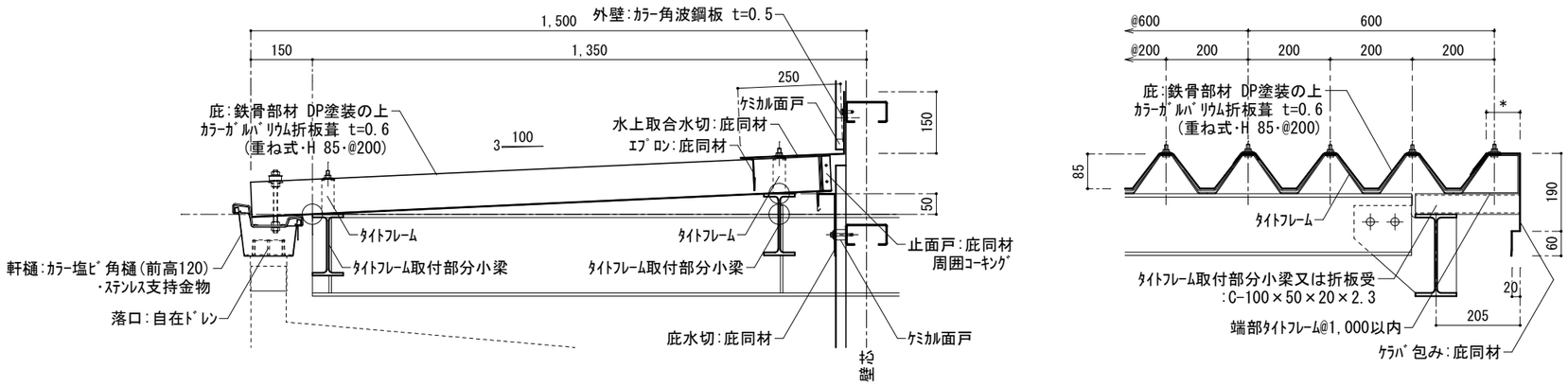
屋根周り詳細図　S=1/10



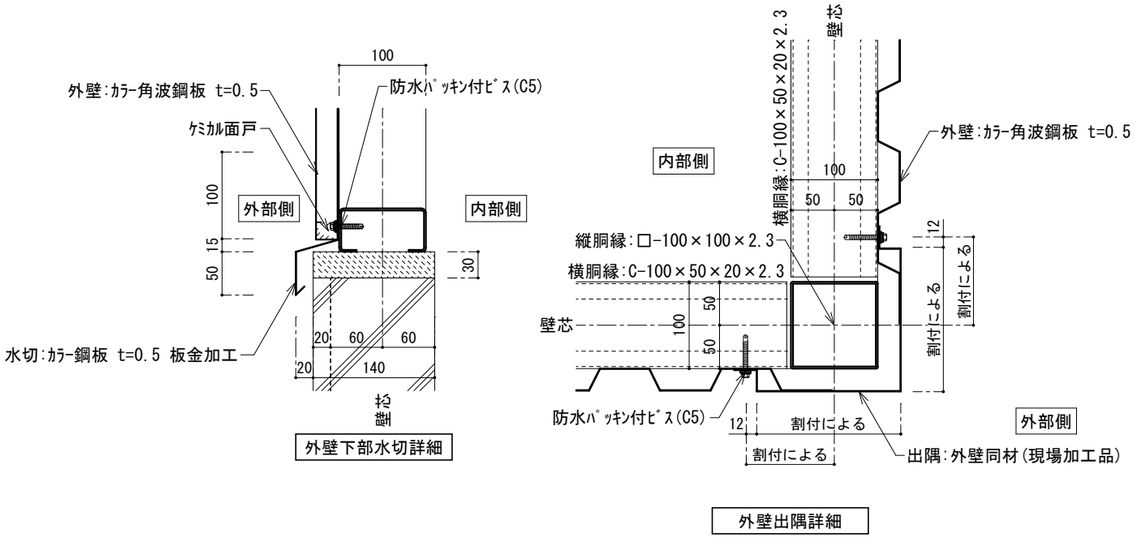
換気扇周り詳細図　S=1/5



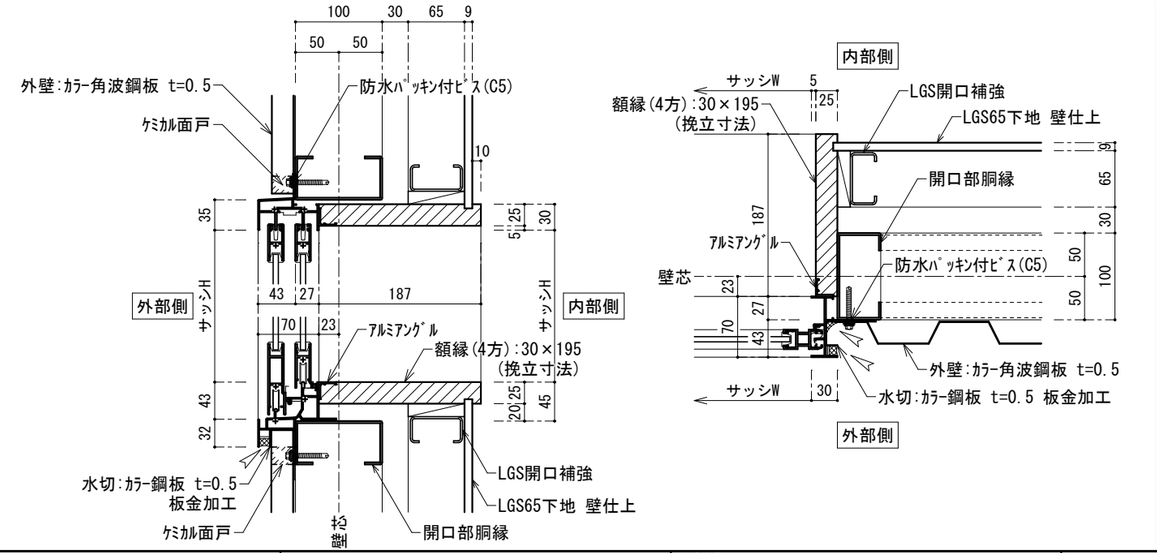
庇周り詳細図　S=1/10



外壁周り詳細図　S=1/5

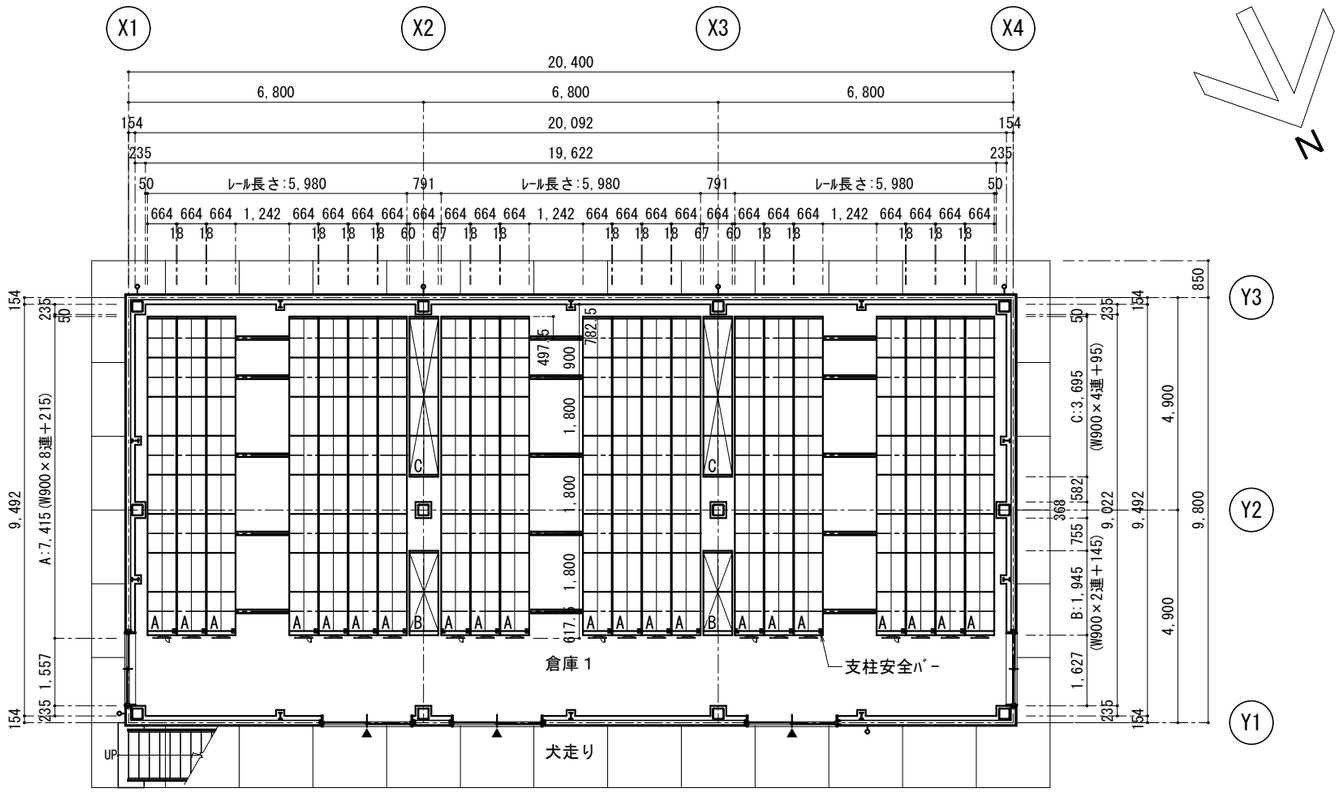


サッシ周り詳細図　S=1/5

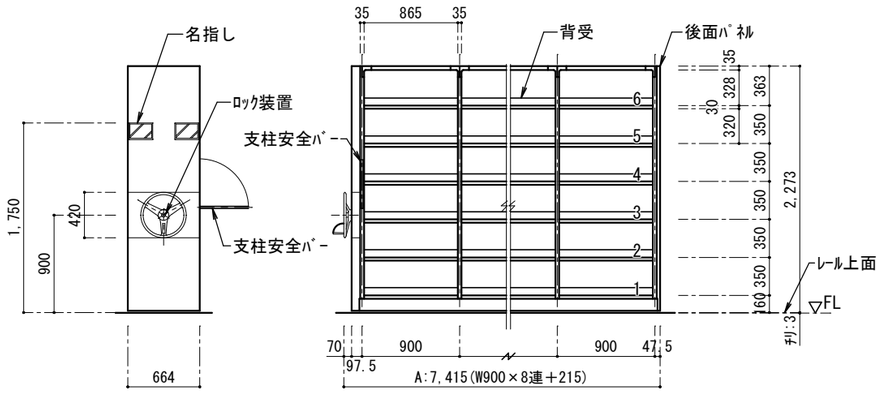


有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

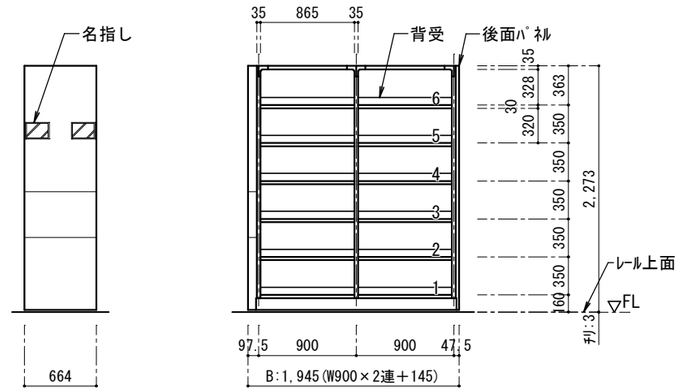
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	部分詳細図	
縮尺 A2=1/30 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 17



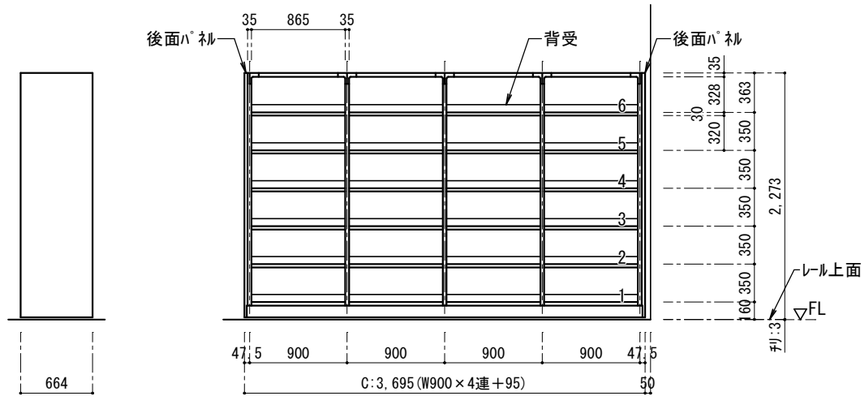
1階スライドラック配置図　S=1/100



スライドラックA姿図　S=1/40



スライドラックB姿図　S=1/40



スライドラックC姿図　S=1/40

数量表

記号	型式	台数	延連数	延段数	ファイルメーター(m)
A	可動複式8連　有効6段 金剛(株):KZU 378-347WMR同等品以上	21	336	2,016	1,743.84
B	固定複式2連　有効6段 金剛(株):KZU 372-347WIR同等品以上	2	8	48	41.52
C	固定複式4連　有効6段 金剛(株):KZU 374-347WIR同等品以上	2	16	96	83.04
	合計	25	360	2,160	1,868.4

ファイルメーター：W900 0.865m／段・W600 0.565／段

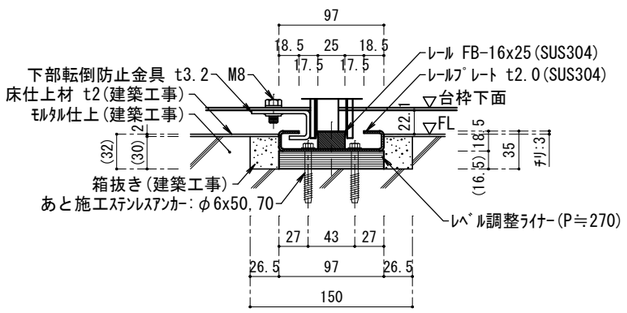
スライドラック　特記仕様(同等品以上)

- 棚は、後面パネル、背受、下部転倒防止金具、支柱安全バー　付とすること。
- 棚のハンドルは、円形ハンドル φ420とし、折り畳み式取手、センターロック方式とすること。
- 棚のハンドル,支柱安全バーには、Health Bright Evolutionを塗布することで、消臭・抗菌・防汚防カビ・抗ウイルス機能を発揮するものとすること。
- 台枠は、溶接構造とし、支柱落し込み式とすること。
- 車輪の材質は、機械構造用炭素鋼　φ118とすること。
- レールは、埋込式の耐震レール（FB－16x25 レールプレート：SUS 304）とすること。
- 車輪軸は、φ25の磨き棒鋼を使用し、両車輪軸（駆動、従動軸）を通し軸とすること。
- 駆動方式は、中間シャフトを介する後輪駆動方式とすること。
- 棚構造は天板、支柱、台枠によるフレーム構造とし、ブレースを用いない耐震ガセット方式とすること。
- 棚板は、可動式（棚受式）で互換性のあるものとし、可動ピッチを25mmとすること。
- 棚板耐荷重は100kg／段、間口耐荷重は720kg／複式1連以上とすること。
- 支柱形状はコ型･複柱式とし、複式棚は3本柱とすること。
- 棚受は、側受兼用タイプとすること。
- ISO　9001　及び、14001の適合を得た、工場で製作される製品とすること。

スライドラック　荷重資料

積載条件	W900 ～　60 kg／段	（　588 N／段）
総重量	52,640 kg	（515,900 N　）
占有面積	50.81 ㎡	
積載荷重	1,037 kg／m2	（10,170 N／m2）
レール反力	2,420 kg／m	（23,720 N／m　）

※ レール反力：レール1m当りに掛かる荷重



レール間床仕上面は図面寸法より高くならないよう施工すること。

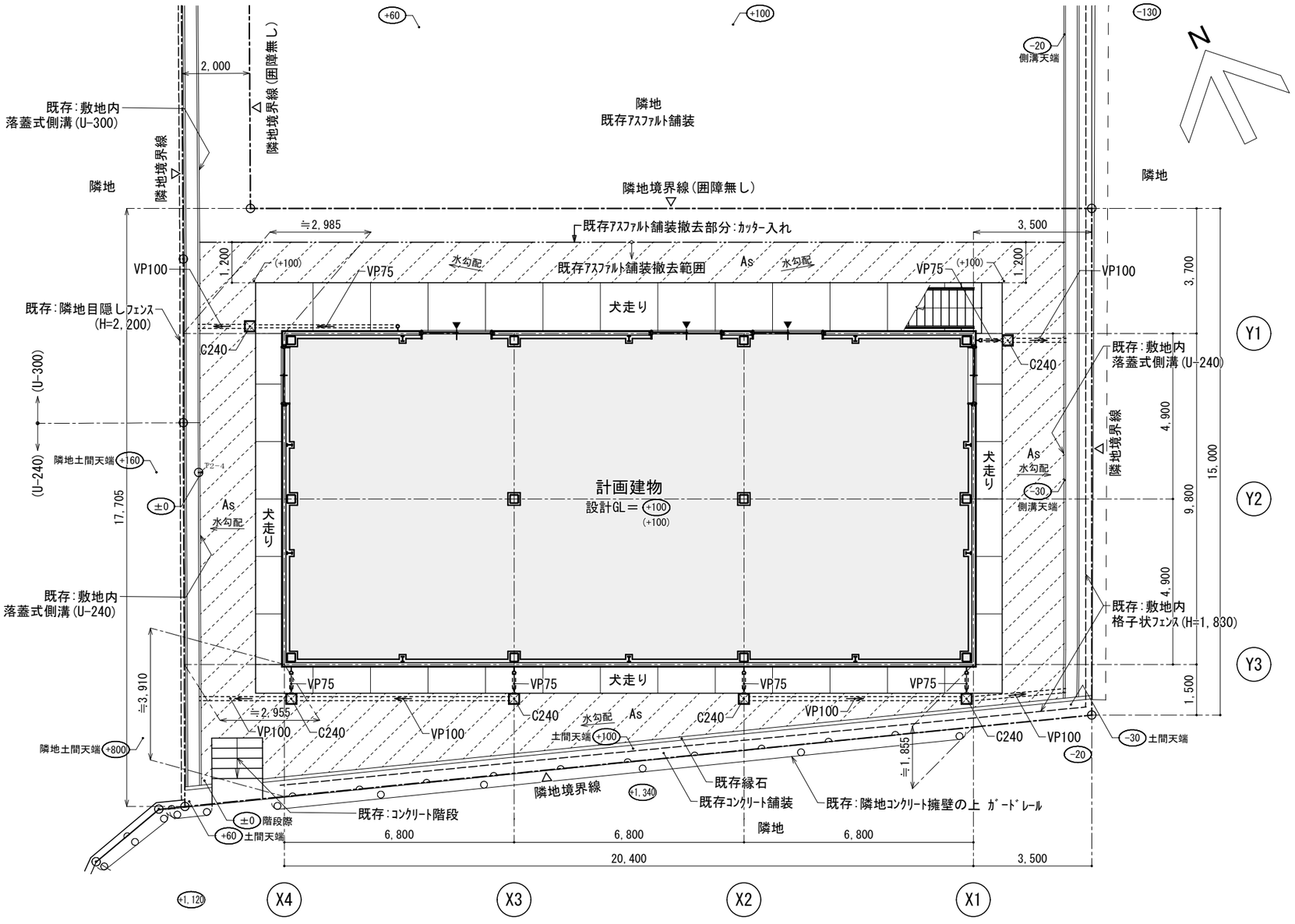
＊（台枠下面とのクリアランス保持のため）

埋込レール詳細図　S=1/4

※ 同等品を採用する場合は発注前に、荷重等の構造計算に影響する条件を確認のうえ、監督員と協議すること。

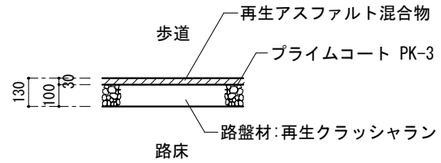
有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央3丁目5－33　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－20670号
一級建築士第159260号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検図
図面名称	スライドラック詳細図（参考図）	
縮尺 A2=1/100・40・4 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A－18

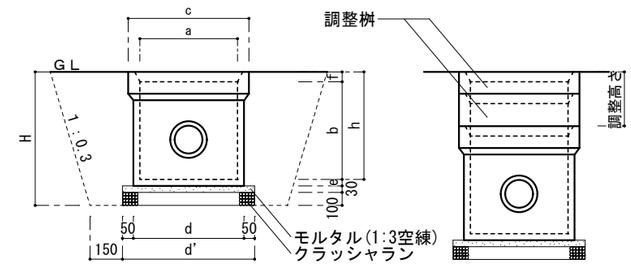


外構図　S=1/100

アスファルト舗装(A-3-10)詳細図　S=1/20



既製コンクリート角型桝詳細図　S=1/20

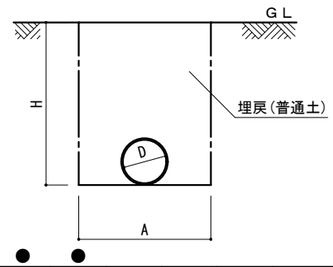


呼び名	参考寸法　mm（実寸は各メーカーの製品仕様による）								
	a	b	c	d	d'	e	f	H	h
180	180	240	250	220	320	20	30	420	270
● 240	240	300	320	290	390	30	30	490	330
300	300	360	380	350	450	30	30	550	390
360	360	420	466	420	520	30	40	620	460
420	420	420	526	480	580	30	45	625	465
450	450	450	556	510	610	30	45	655	495

排水用VP管詳細図　S=1/20

・製品はJISK6741とする。

一般型



●　●

寸法＼D	75	100	125	150	200	
A	600	600	600	600	700	
外径	89	114	140	165	216	
H（以内）	200	200	300	300	300	(一般型のみ)
		500	500	500	500	
		750	750	750	750	
		1,000	1,000	1,000	1,000	

新設外構リスト

符号	内容
——·——	既存ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去部分:ｶｯﾀｰ入れ
As	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装(A-3-10)
C240	既製ｺﾝｸﾘｰﾄ角型桝:240角
VP75	排水用VP管: 75φ(管底深さ200程度・竪樋～角型桝間)
VP100	排水用VP管:100φ(管底深さ250程度(勾配:1/125以上)・角型桝間～既存U-240に接続)

※ (+000) は、既存GLレベルを示す。
※ (+000) は、計画GLレベルを示す。
※ 出入口側犬走り周囲の新設舗装ﾚﾍﾞﾙは設計GL合せとし、既存側溝及び既存舗装方向に勾配をとること。

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央3丁目5－33　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－20670号
一級建築士第159260号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	外構図	
縮尺 A2=1/100・20 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	A － 19

構 造 設 計 標 準 仕 様

適用は ◉ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（１）工事名称　行橋市防災倉庫新設工事
　　建築場所　福岡県行橋市中央一丁目2307-2
（２）工事種別　◉ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（３）構造種別
□ 木造（W）　□ 補強コンクリートブロック造（ＣＢ）　◉ 鉄骨造（S）
□ 鉄筋コンクリート造（ＲＣ）　□ 壁式鉄筋コンクリート造（ＷＲＣ）
□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（ＳＲＣ）　□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＷＰＲＣ）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＰＲＣ）　□
（４）階　数
地下　　階　　地上　2　階
（５）主要用途　　防災倉庫
（６）屋上付属物
□ 広告塔　□ 高架水槽　□　□
□ 煙突　□ キュービクル　□ 空調室外機　□
（７）増築計画　□ 有（　　）　◉ 無
（８）付帯工事
□ 門塀　□ 擁壁　□　□　□
（９）特別な荷重
□ エレベータ　人乗（ロープ式 油圧式）　□ リフト（DW）　ton　□ ホイスト　ton
□ 倉庫積載床用　Kg/㎡　□ 受水槽　ton
（１０）構造計算ルート　Ｘ方向ルート　（ １－２ ）　Ｙ方向ルート　（ １－２ ）

2．使用構造材料

（１）コンクリート　（JIS規格品）

適用箇所	種類	設計基準強度 Ｆｃ N/mm²	品質管理強度 Ｆｃ N/mm²	スランプ cm	備考
捨コンクリート	◉普通	18	18	8	
犬走り	◉普通	21	21	15	
基礎、基礎梁、床	◉普通	21	24	15	
	□普通				
	□普通　□軽量				
押えコンクリート	□普通　□軽量				

（２）コンクリートブロック（ＣＢ）
□ Ａ種　□ Ｂ種　□ Ｃ種　厚　□100、　□ 120、　□ 150、　□ 190、
（３）鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	◉ SD295A	D16以下		◉ 重ね継手 D16以下
	□ SD295B			
	◉ SD345	D19以上		◉ ガス圧接継手 D19以上
	□			
丸　鋼	□ SR235			□ 特殊継手
溶接金網	□			（　　）

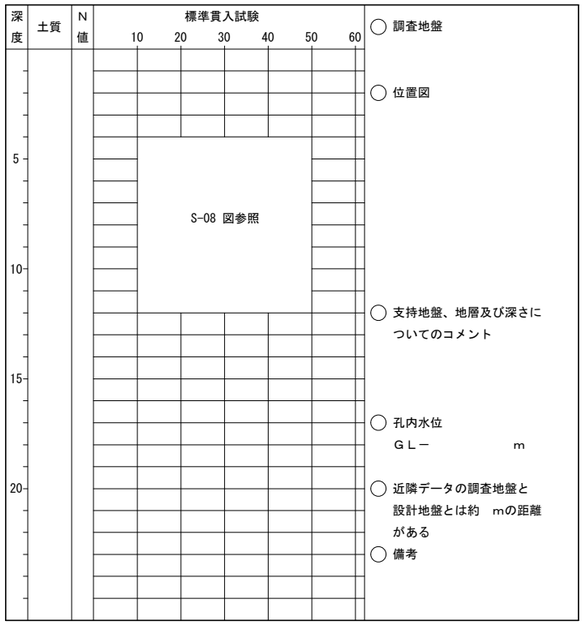
（４）鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼　材	◉ SS400　◉ SN490C　□ SN400B		□ 有 ◉ 無	□0.9F ◉1.0F
	◉ STKR400　□ STKR490　□ STK400		□ 有 ◉ 無	□0.9F ◉1.0F
	◉ BCR295　□ SM490B　□		□ 有 ◉ 無	□0.9F ◉1.0F
	◉ SSC400　□　□		□ 有 ◉ 無	□0.9F ◉1.0F
備　考				

（５）ボルト
◉ 高力ボルト　◉ Ｆ10Ｔ□ Ｓ8Ｔ ◉ Ｓ10Ｔ　認定品（ □ M12 ◉ M16 ◉ M20 □ M22 □ M24 ）
◉ 中ボルト　M12　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　□ 否
◉ アンカーボルト　ABR400　M24 L= 700mm　ナット（シングル、ダブル）
SS400　M16 L= 500mm
□ 頭付スタッド　Ｌ＝　mm
（６）屋根、床、壁　使用箇所
□ ＡＬＣ板　厚
◉ 折版　形式　H160・H85　厚 0.6　屋根・庇
厚
◉ デッキプレート　形式 QL99-50-12　厚 1.2　床
□ キーストンプレート　形式　厚
□ 瓦葺き

3．地　盤

(1) 地盤調査
◉有（□敷地内 ◉近隣）◉ボーリング調査　□平板載荷試験　□水平地盤反力係数の測定
無　（調査予定　□有　□無）　□スウェーデン式サウンディング試験
(2) 地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理調査　□平板載荷試験　□
(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
(4) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



4．地業工事

(1) 直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□ 独立基礎　試験堀　□有　□ 無
深さGL-　m、支持層－長期許容支持力度　kN/㎡　載荷試験　□有　□ 無
(2) 基礎杭 支持層－ シルト混り砂礫

杭　種	材　料	施工法	備考
□ＲＣ　□PC □ＰＨＣ□Ｈ鋼 ◉鋼管　□摩擦杭 □CPRC　□JP-NPH	PHC（□Ａ種□Ｂ種□Ｃ種） CPRC（ □Ｉ種 ） JP-NPH（ □Ａ種□Ｂ種 ） 鋼材　□ SS400　◉ STK490	□ 打ち込み □ 埋込み（セメントミルク工法） □　工法 ◉ ＣＫ－ＥＡＺＥＴ	大臣認定 国住指第3242-1号 TACP-0399
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートＦc= スランプ　cm セメント量　Kg/㎥ 鉄筋　主筋　SD HOOP　SD	□ オールケーシング　□ 拡底杭 □ リバースサーキュレーション □ アースドリル　□ ミニアース □ ＢＨ　□ 深礎（□ 手堀　□ 機械堀）	拡底杭 日本建築センター認定 第　号 年　月　日

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭（堀）（◉有　□無 ）（□打ち込み　□載荷 ）　2　本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
φ267.4×8.0	628	GL － 8.30	22	先端羽根径800mm

5，鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
◉ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前にエ事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を－回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
◉ 構造体コンクリート現場の圧縮度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現揚封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに―回を標準とする。―回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき湯合は、１回当リ６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート庄送技士または同等以上の技能を有する者か従事すること。なお、灯ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の賜合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

（２）　鉄　筋
◉ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
◉ 基礎鉄筋は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
◉ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同―日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に１回行い、１回試験は５本以上とする。
外観検査　◉ 有 □ 無、引張試験　◉ 有 □ 無、超音波深傷試験　□ 有 □ 無
◉ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、　◉ Ｈ型（タガ型）　□ Ｗ型（溶接型）
□ Ｓ型（スパイラルラル型）とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建筆物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

（３）　型　枠
◉ 材料　合板厚　12㎜を標準とする。　□
◉ 型枠存置期間

種類 / 部位		せき板				支柱		
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
セメントの種類		早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強度ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
存値期間の平均気温								
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5.0N/mm2		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注）１　片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
主）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6，鉄骨工事

（１）鉄骨工導は指示のない限り下記による
◉　日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工字技術指針」
□　鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

（２）　工事管理者の承認を必要とするもの
◉制作工場　◉製作要領書　◉工作図　□施工計画書
認定工場（大臣認定　グレードまたは都登録　ランク）
◉ 材料規格証明書または試験成績書
◉鋼材　◉高力ボルト　◉特殊ボルト □スタッドボルト
□社内検査表

（３）工事監理者が行う検査項目
（◉印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること）
□現寸検査　□組立・開先検査　□製品検査
◉建方検査

（４）　接合部の溶接は下記によること
◉　東京都アー―ク溶接」工事管理基準（建築構造設計指針第12章）
◉　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
□　日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

（５）　接合部の検査
◉　溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事管理者	備　考
◉突合せ溶接部	超音波深傷試験	30 % 箇	10 % 箇	% 箇	
□	外観（目視）検査	100 %	30 %	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

◉　高カボルトは「JIS B1186の高カボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショトブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である揚合は、赤さびは発生しないままでよい。
◉　高カボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として２度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

（６）防錆塗装
◉　防錆塗装の範囲は、高カボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被服される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、２回塗りを標準とする。
◉　現場における高カボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（７）　耐火被覆の材料
□

7．設備関係

◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場会は設計者の承認を得ること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。
◉ 建築設備の構造強度について建築基準法施行令第129条の2の4の規程に適合させること。
◉ 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
◉ 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のないように、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

8．その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
◉ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	構造設計標準仕様	
縮尺	年月日 令和　年　月　日	S － 01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

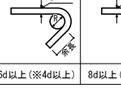
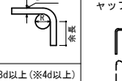
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　　D･･･部材の成　　R･･･直径

@･･･間隔　r･･･半径　℄･･･中心線　l_o部材の内寸法距離　h_o･･･部材間の内法高さ

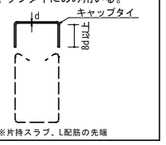
ST･･･あばら筋　HOOP･･･帯筋　S.HOOP･･･補強帯筋　　φ･･･直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の予長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)

折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。

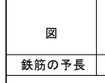
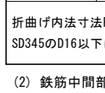


※片持スラブ、L配筋の先端

折まげ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B

SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D16 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			28φ～32φ D29～D38	8d以上

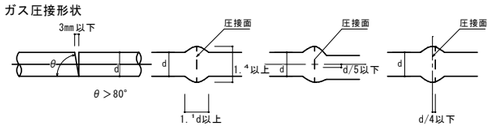
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下ば筋 (L_3)		
			小梁	スラブ	
SR235	21　22.5　24	35d フックつき	25d フックつき	15d フックつき	35d フックつき
	16　18	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21　22.5　24	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	16　18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

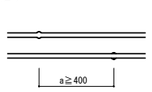
継　　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

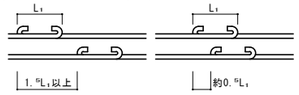
ガス圧接形状



圧接継手

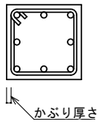


重ね継手(下図のいずれかとする)



(4) かぶり厚さ（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄部のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。



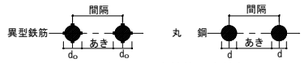
部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40 (1)	30 (20)
	はり 柱 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50 (2)	40 (2) (30)
	擁壁		50 (3)	40
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁		50	40 (4)
	基礎・擁壁		70	60 (4)

(注) (1) 耐久性上有効な仕上げがある場合、工事管理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げがある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質及び施工方に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) ( )内は仕上げがある場合。

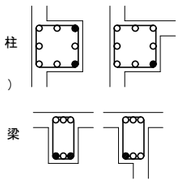
(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異型鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



図の● 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a, 丸鋼　b, あばら筋,帯筋　c, 煙突の鉄筋

d, 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)

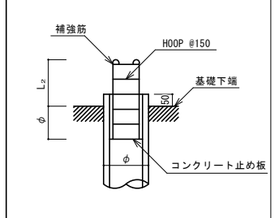
e, 単純梁の下端筋

f, その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭 （地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

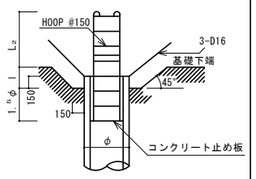
所定の場所に止まった場合



所定より低く止まった場合

但し l≦φの場合

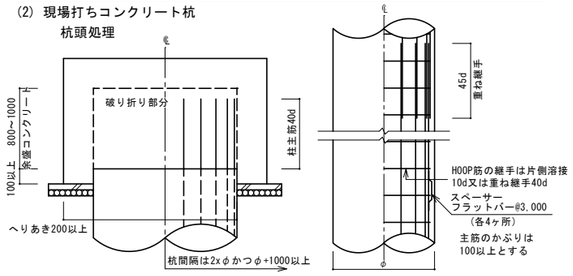
l＞φの場合は工事管理者の指示による



杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@150				

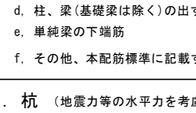
(2) 現場打ちコンクリート杭

杭頭処理



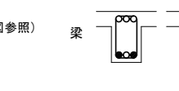
４．基　　礎

(1) 直接基礎

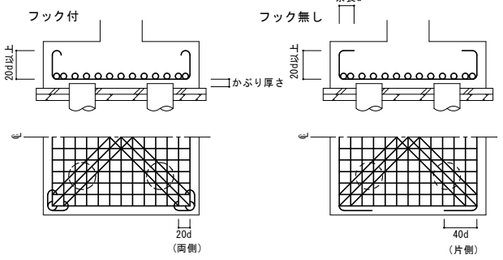


ベース筋
a=D1+2dの範囲
主筋間隔は200以下

bの範囲
主筋間隔の1.5倍かつ300以下

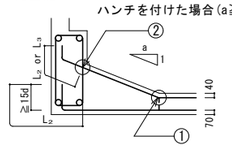


(2) 杭 基 礎



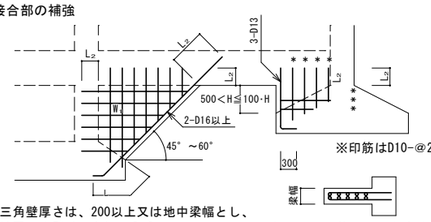
(3) べた基礎

ハンチを付けた場合(a≧3)



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上端と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し上のある場合は4070とする

(4) 基礎接合部の補強



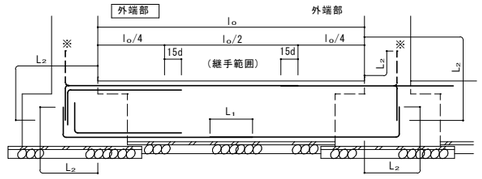
※印筋はD10-@200とする

W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

H≦500は※印筋は不用とする

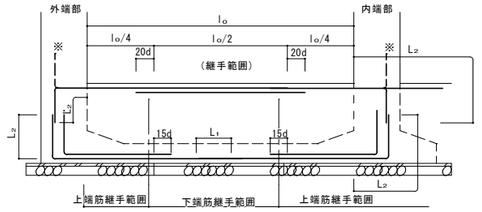
５．地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



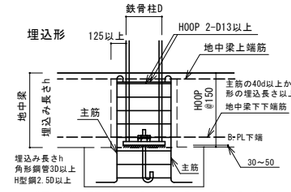
※上端筋の定着は、やむを得ない場合上向きとすることができる

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

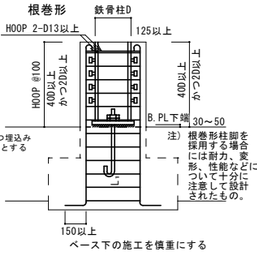


(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋

地中梁の主筋、スタッドボルト(スタッドジベル)による、おさまりに注意する



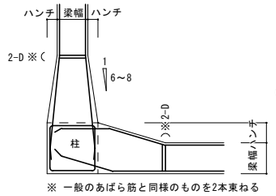
(半固定として行政指導されることもあるので留意すること)



注) 根巻形柱脚を採用する場合には耐力、変形、性能などについて十分に注意して設計されたもの。

ベース下の施工を慎重にする

(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

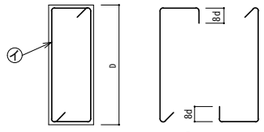


※ 一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

(5) せいの高い梁のあばら筋

加工要領図

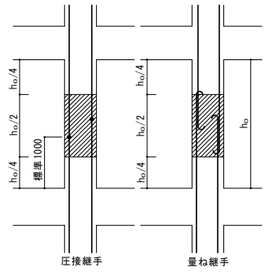
Dが1500を超える場合



①の拡大図

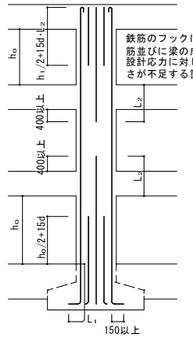
６．柱

(1) 柱主筋の継手



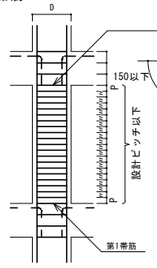
継手の好ましい位置

(2)柱主筋の定着



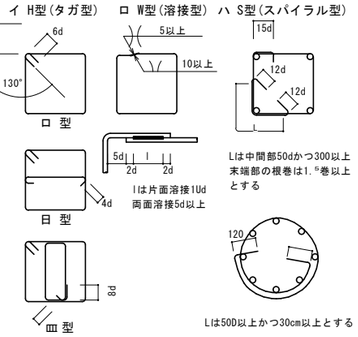
鉄筋のフックは柱頭の四隅の鉄筋並びに梁の成が小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所に付ける

(3) 帯筋



注1 第1帯筋は、梁づらに入れる
注2 W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3 フックおよび継手の位置は、交互とする

イ H型(タガ型)　ロ W型(溶接型)　ハ S型(スパイラル型)



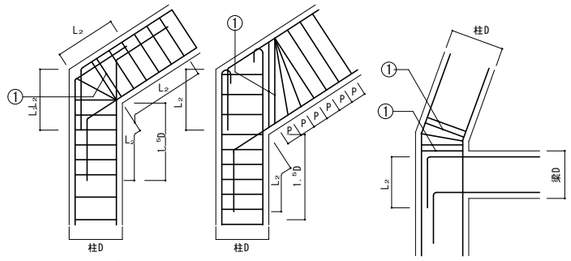
lは片面溶接10d
両面溶接5d以上

Lは中間部50dかつ300以上
末端部の根巻は1.6巻以上とする

Lは50D以上かつ30cm以上とする

(4) 斜め柱・斜め梁

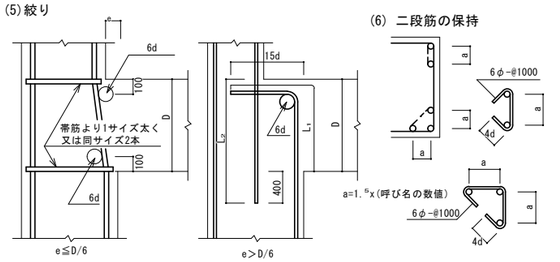
○ 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一　○ 柱幅と斜材幅がj異る　○ 柱脚で斜材となる



注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする

注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5)絞り



(6) 二段筋の保持

(構造設計者) 設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

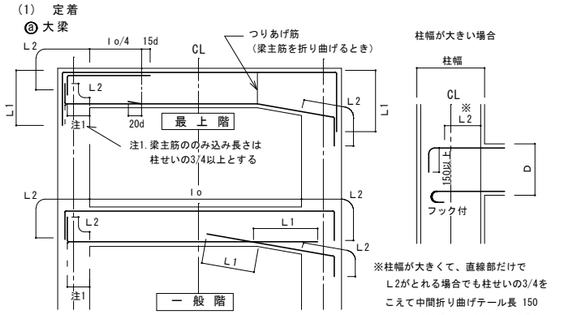
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	
縮尺	年月日 令和　年　月　日	S － 02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

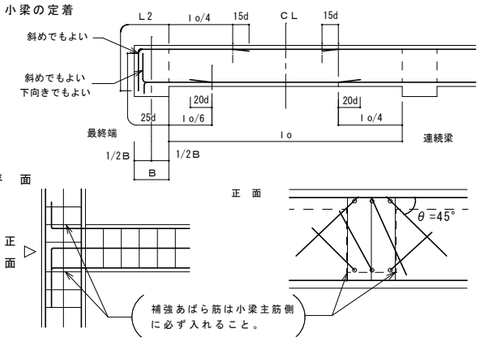
７，大梁、小梁、片持梁

（1） 定着

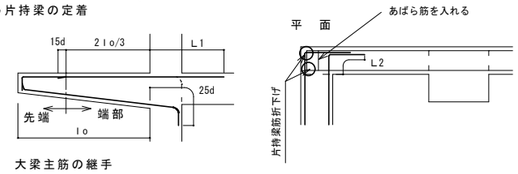
ⓐ 大梁



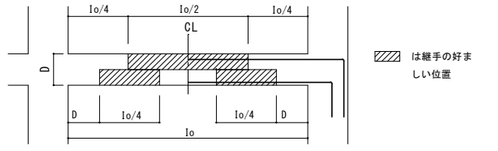
ⓑ 小梁の定着



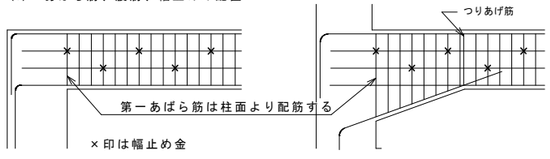
ⓒ 片持梁の定着



（2） 大梁主筋の継手



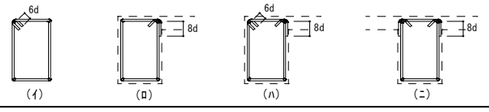
（3） あばら筋、腹筋、幅止めの配置



つりあげ筋は、一般のあばら筋より、１サイズ太い
鉄筋か、又は、同サイズを２本巻きとする

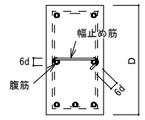
（4） あばら筋の型

あばら筋の形は下図（イ）とする。ただし、L形梁の場合は、（ロ）又は（ハ）、
T形梁の場合は、（ロ）～（ニ）とすることができる。



（5） 幅止め筋の本数、加工

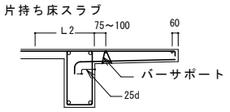
腹 筋	D＜600不要	
	600≦D＜900	2−D10(9φ) 一段
	900≦D＜1200	4−D10(9φ) 二段
	1200≦D	D10(9φ)@300以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000以内で割り付ける	



８，床 板

（1） 定着および継手

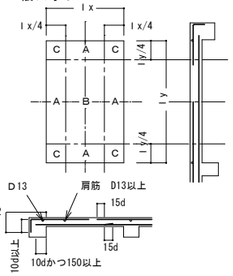
○ 片持ち床スラブ



継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短 辺 方 向	B
	長 辺 方 向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

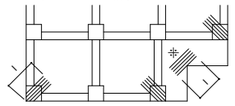
○ 一般スラブ



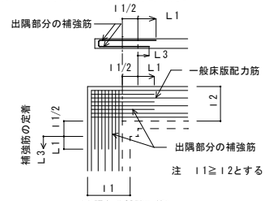
ⓐ 補強筋は各5-D10、又はスラブ主筋の同一径で l＝1,500とし、上端筋の下に配筋する。

ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

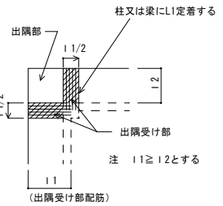
（2） 屋根スラブの補強



（3） 片持ちスラブ出隅部補強

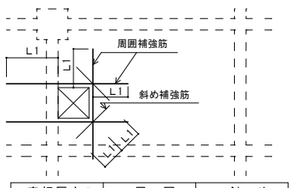


（出隅部分補強配筋）

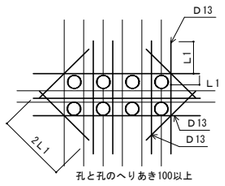


（出隅受け部配筋）

（4） 床板開口部の補強 （開口の径500以上の場合）

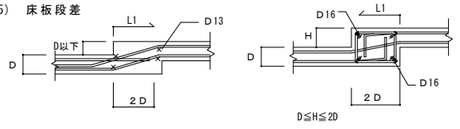


床板厚さD	周 囲	斜 め
D≦150	各 2-D13	各 1-D13
150＜D≦200	各 2-D13	各 2-D13
200＜D≦300	各 2-D19	各 2-D16

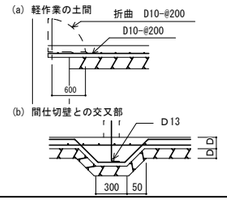


注） 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口を避けて補強する。

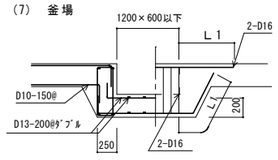
（5） 床板段差



（6） 土間コンクリート



（7） 釜場



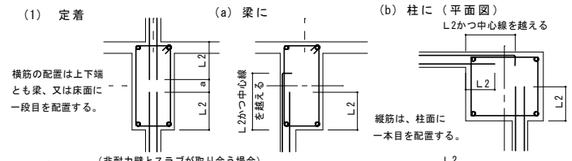
（8） 打継ぎ補強

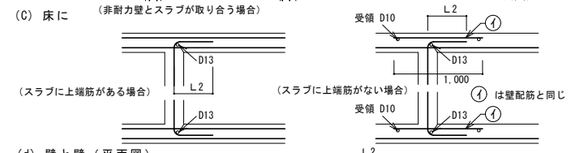
● 設計配筋間隔の1/2ﾋﾟｯﾁ 長さ2L1以上

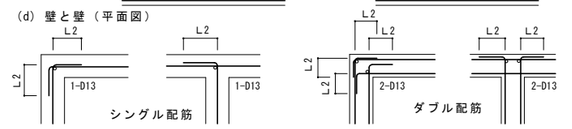
● 無筋部分 D10-@200 長さ800以上

９，壁

（1） 定着

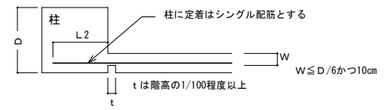




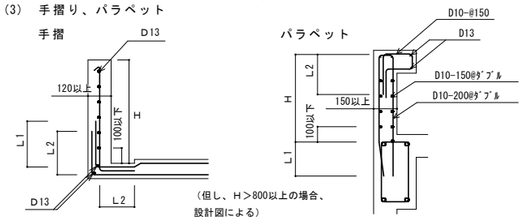


（2） スリット部 （設計図に記入のあるとき）

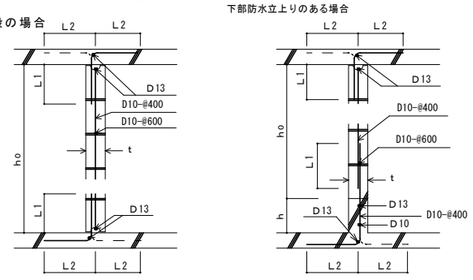
スリット部の鉄筋の被り厚さは
2-(4)かぶり厚さの表、最小かぶ
り厚さ以上とする。



（3） 手摺り、パラペット



（4） コンクリートブロック帳壁



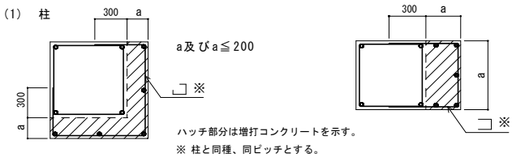
注） h0≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く。

注） hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≦h≦400

注） 継手部は必ずモルタルをてん充すること。

１０，柱、梁増打コンクリート補強

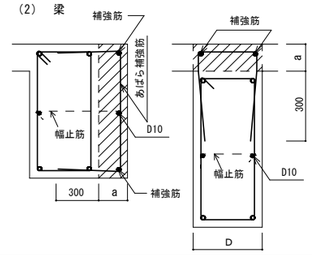
（1） 柱



●印は補強筋

ハッチ部分の面積A cm² 補強タテ筋	A＜500	500≦A＜1000	1000≦A＜1500
	3−D16	4−D16	6−D16

（2） 梁



●補強筋は、梁主筋の１段落し径（D16以上）とする。

●あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。

●腹筋D10ピッチは、梁の腹筋とあわせる。

●D≧400の場合は補強筋を３本とする。

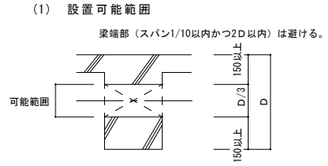
● aは100～200程度。

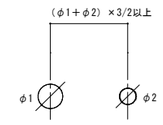
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。

●ハッチ部分は、増打コンクリートを示す。

１１，梁貫通孔補強

（1） 設置可能範囲



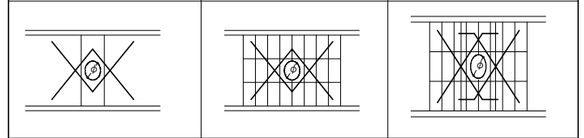


貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は、
設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（2） 鉄筋形標準配筋

鉄筋標準配筋 但し φ≦D/3とする

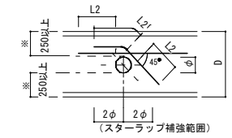
80＜φ≦100	100＜φ≦150	150＞φ＞250
折 筋 2−（2−D13）	折 筋 2−（2−D13）	斜 筋 4−（2−D13）
縦 筋 ST 2−D13−100@	縦 筋 ST 2−D13−100@	縦 筋 ST 2−D13−100@
	横 筋 2−（2−D13）	横 筋 2−（2−D13）
		上下 縦筋 ST 2−D13



φ＞250

孔補強の有効範囲と
定着長さのとり方

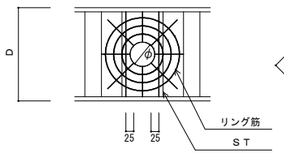
※ 部分について計算で
確認された場合は右
記の位置、寸法によ
らなくて良い



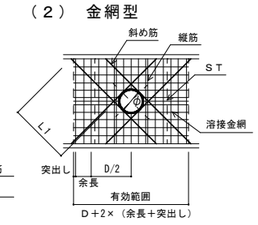
●梁幅が400を超える場合は
補強筋でD13はD16又は、
2−D13は3−D13と、各々
読みかえる。

（3） 既製形 （使用するときには設計者及び工事監理者と打ち合わせのこと）

（１） リング型

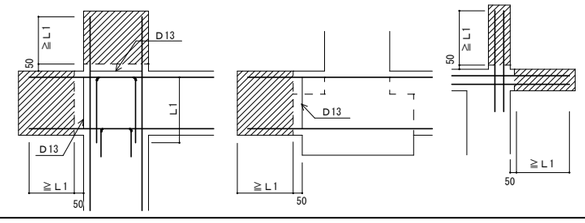


（２） 金網型



１２，増築予定

（1） 柱、梁 （2） 地中梁 （3） 床板、壁



（構造設計者） 設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社 井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５−３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１−２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検 図
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	
縮尺	年月日 令和 年 月 日	S − 03

鉄　骨　構　造　標　準　図　（1）

1．一般事項

(1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

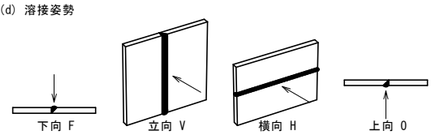
(2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事管理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

(3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

(4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者

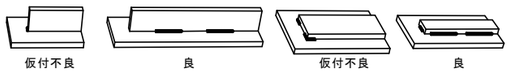
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする

- (b) 溶接機器
  - (ｲ) 交流アーク溶接機 300A～500A
  - (ﾛ) アークエアーガウジング機(直流)
  - (ﾊ) サブマージアーク溶接機１式
  - (ﾆ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
  - (ﾎ) 溶接電流を測定する電流計
  - (ﾍ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
  - アーク手溶接(MC)
  - ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
  - セルフ(ﾉﾝｶﾞｽ)シールドアーク半自動溶接(NGC)
  - アークエアーガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢

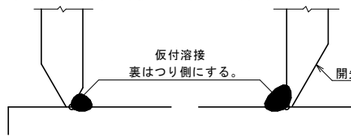


- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (ｲ) 仮付位置

組立て溶接は溶接の初、終端、遇角部など用度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

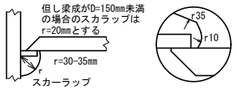


- (ﾛ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(f) 溶接施工
- (ｲ) エンドタブ
  - Ⅰ) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
  - Ⅱ) エンドタブの材質は、母材と同質とする
  - Ⅲ) エンドタブの長さは、MC：35mm以上
    NCG、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
  - Ⅳ) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る

- (ﾛ) 裏あて金
  材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ﾊ)スカラップ 半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする



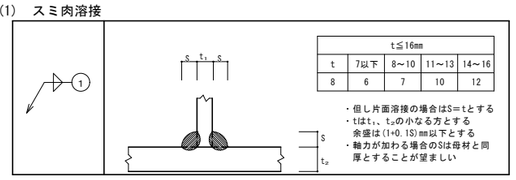
- (ﾆ) 裏はつり
  基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の承認を励行し、部材に確認マークを付ける
- (ﾎ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

(5) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの摩擦面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接基準図

（注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S：脚長　（単位 mm）

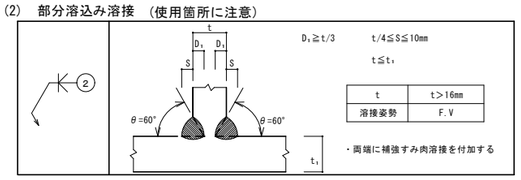
(1) スミ肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

- 但し片面溶接の場合はS＝tとする
- tはt₁，t₂の小なる方とする
  余盛は(1+0.1S)mm以下とする
- 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶込み溶接　（使用箇所に注意）



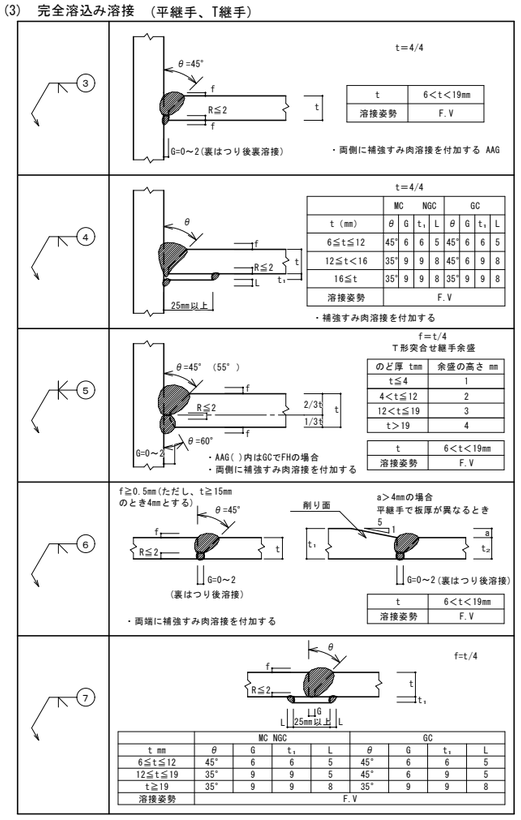
$D_1 \geq t/3$　　$t/4 \leqq S \leqq 10mm$

$t \leqq t_1$

t	t>16mm
溶接姿勢	F.V

- 両端に補強すみ肉溶接を付加する

(3) 完全溶込み溶接　（平継手、T継手）



t＝4/4

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

t＝4/4

	MC		NGC		GC			
t (mm)	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6≦t≦12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

- 補強すみ肉溶接を付加する

f＝t/4
T形突合せ継手余盛

のど厚 tmm	余盛の高さ mm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>19	4

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

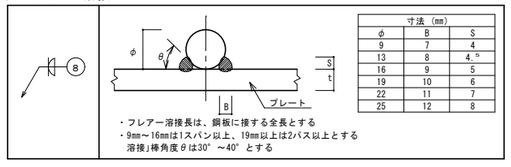
- AAG( )内はGCでFHの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

f＝t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6≦t≦12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t≧19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

- 両端に補強すみ肉溶接を付加する

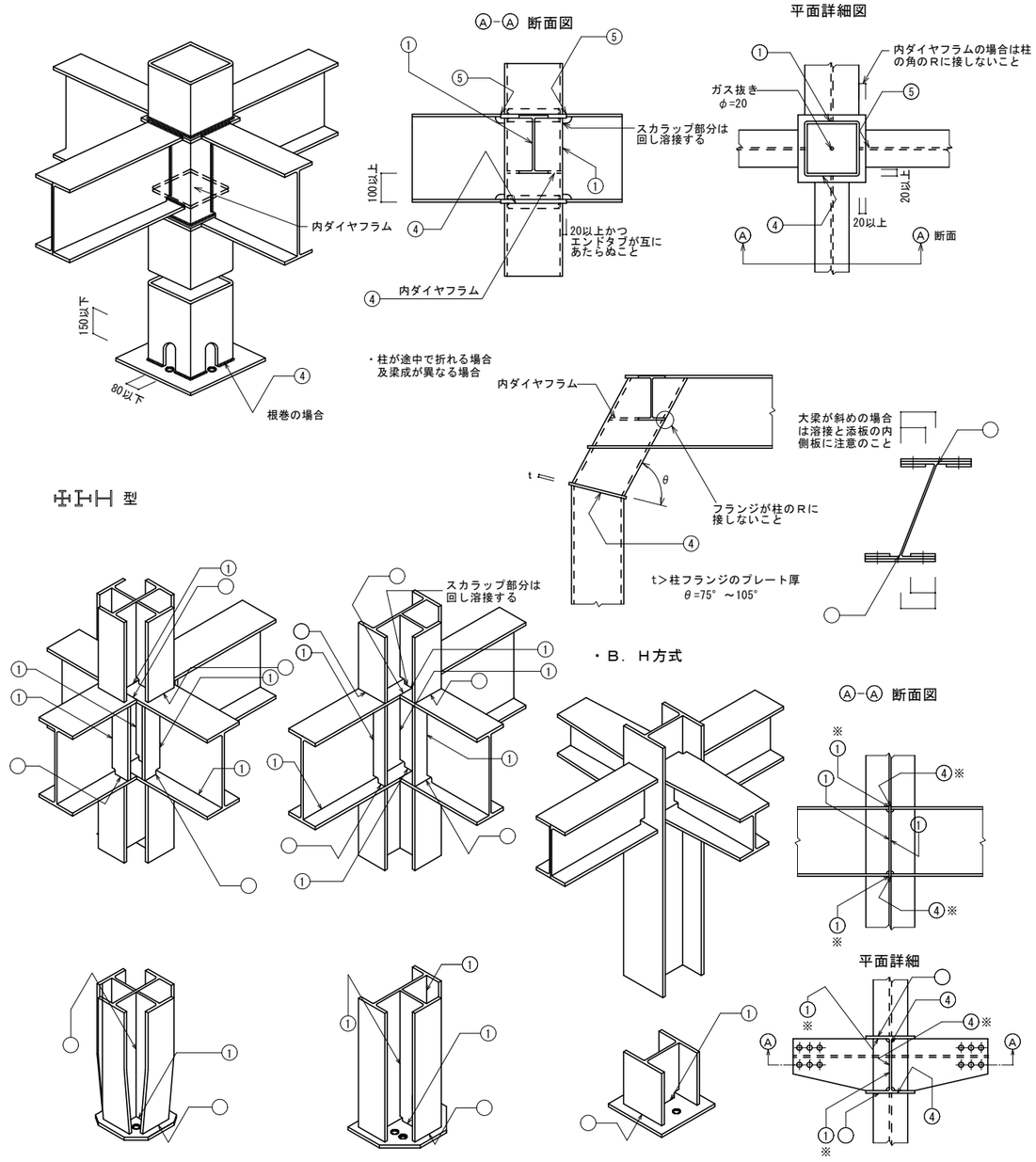
(4) フレアー溶接



寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

- フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
- 9mm～16mmは1スパン以上、19mm以上は2パス以上とする
  溶接ｊ棒角度θは30°～40°とする

- 溶接記号番号を○中に記入のこと
- ＢＯＸ型（通しダイヤフラムの場合）



※全周すみ肉溶接又は完全溶込み（裏あて金付）

（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	鉄骨構造標準図　（1）	
縮尺	年月日　令和　年　月　日	S － 04

鉄　骨　構　造　標　準　図　（２）

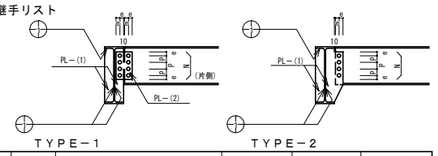
３．継手基準、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離(e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ(P) 最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	30	45	60	70

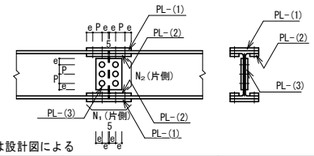
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上ならばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・主動ガス切断機の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断機・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
		鉄骨部材リスト参照			

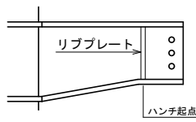
(3) 梁剛接合継手リスト
(SCSS-H97による)



注）端部をBHとする場合の部材は設計図による

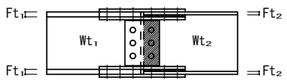
符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径
	鉄骨部材リスト参照					

(4) ハンチ部の継手



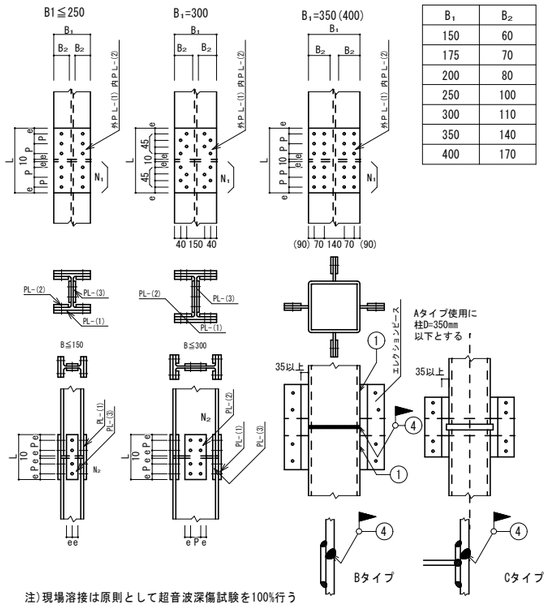
ハンチ勾配は普通1：4程度であるが構造図による

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



Ft_1-Ft_2, Wt_1-Wt_2 ≧1mmフィラープレート採用のこと

(5) 継手リスト



B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注)現場溶接は原則として超音波深傷試験を100%行う

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径

(6) 鉄筋ブレース（JIS規格品とする…JISA5540～5542…1982）

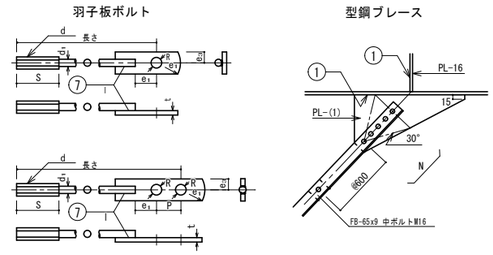
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び(d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d_1	最大		$10.^{81}$	$12.^{65}$	$14.^{65}$	$16.^{33}$	$18.^{33}$	$20.^{33}$	$21.^{99}$
	最小		$10.^{64}$	$12.^{46}$	$14.^{46}$	$16.^{11}$	$18.^{11}$	$20.^{11}$	$21.^{77}$
調整ねじ長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容さ+0. -0.5mm		R	13	17	17	$21.^{5}$	$21.^{5}$	$23.^{5}$	$21.^{5}$
はしあき（最小）	(2)	C_1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） (1)	e_2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	$4.^{5}$	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） (1)	e_2	19	25	25	$32.^{5}$	$32.^{5}$	$37.^{5}$	$37.^{5}$
	板厚	t	$4.^{5}$	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)		e_3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		l	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト（F10T）又は JIS B 1180 中 8g $10.^{9}$						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M20	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

注 (1) e_1、e_2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とがセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面（支圧）接合とする

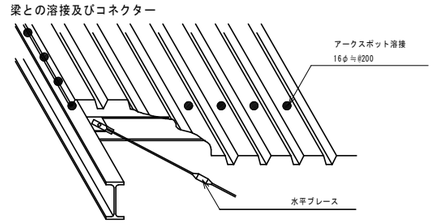
(b)型鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N-径	

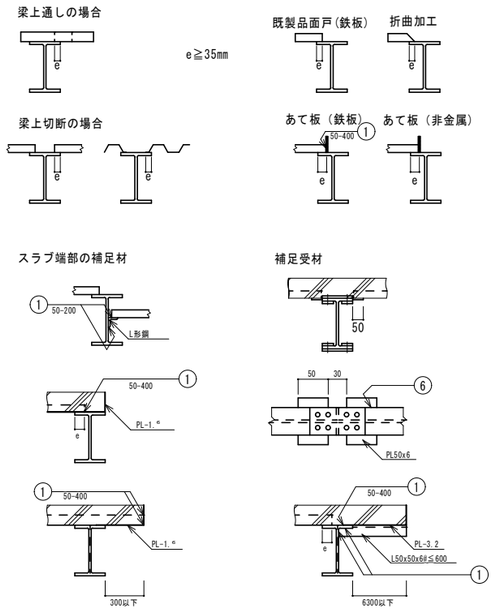


(7) デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成は理のときは構造図参照）

梁との溶接及びコネクター

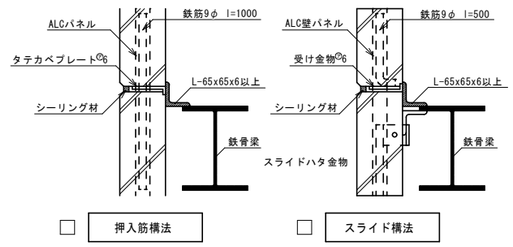


受梁へのかかり寸法および端部処理

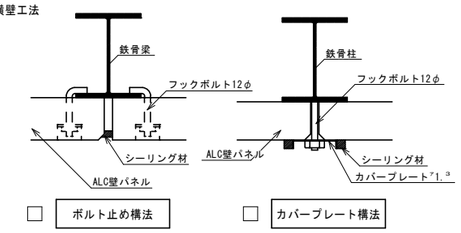


(8) ALC取付け要領

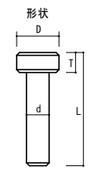
縦筋工法



横壁工法

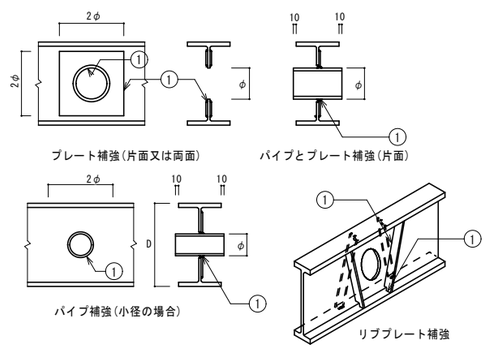


(9) 頭付きスタッド（JIS1198）
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材 呼び名	軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

(10) 梁貫通補強
・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
・梁端部(スパンのl/10以内かつ2D以内)は避ける
・φ≦0.4D



(11)その他

（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検図
図面名称	鉄骨構造標準図　（２）	
縮尺	年月日 令和　年　月　日	S－05

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様①
合成スラブ工業会仕様

JFE 建材 株式会社

［耐火認定FP60FL-9095,9101,FP120FL-9107,9113用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
ＱＬデッキ ☑ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 □ｴﾝｶ有り □無し	☑1.2 □1.6	☑表面防錆処理(一次塗装)*1　ＱＬプライマー(P) □亜鉛めっき　[□Z12 □Z27] □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)[□Y18 □Y27] □その他(　　)　□無し

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または３種相当）

材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ

材料／コンクリート

種　　類	☑普通コンクリート　□軽量コンクリート（□1種　□2種）
設計基準強度	☑18　□21　□（　）N／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□60 □70 ☑80 □85 □90 □95 □100 □（　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

☑溶接金網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１　☑φ6-150×150　□φ6-100×100
□異形鉄筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７　□D10-200×200　□（　）

接　　合

☑焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198　□φ13　□φ16　□φ19　□φ22　各長さ・ピッチは特記による ※最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする。
□そ　の　他	

耐　　火

	１ 時 間	２ 時 間
連続支持	☑FP060FL－9095	□FP120FL－9107
単純支持	☑FP060FL－9101	□FP120FL－9113
そ の 他 □指定なし	□（　） □（　）	□（　） □（　）

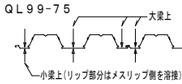
特　　記

支保工有無 ☑無　□有	その他：

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

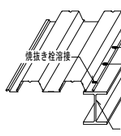
「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$Aw = \frac{1.5Qa}{Qb} \times 1000mm$$ かつ600mm 以下

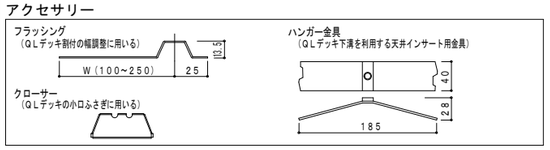
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）
Qb：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa（N）
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

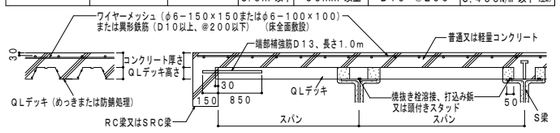


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10～@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99－50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ6－100x100	4,400N/m² 以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99－50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	D10－@200	5,400N/m² 以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	D10－@200	5,400N/m² 以下 注2)



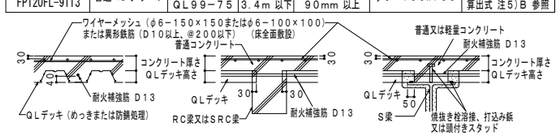
【単純支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋　：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10～@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99－50	2.7m 以下			算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm² 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（D10～@200）	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99－50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99－75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照



注１）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注２）スパンが３．４ｍを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）で結合する。
注３）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注４）梁の耐火被覆　梁に１．２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注５）許容積載荷重Ｗ　算出式

ℓ：支持スパン（m）

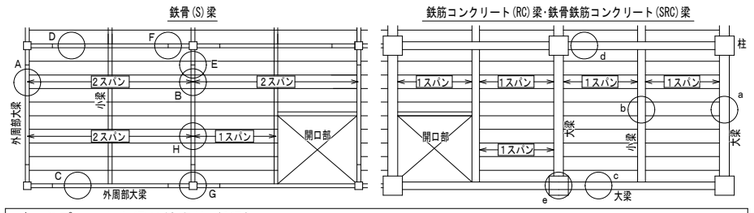
［A］QL99－50	［B］QL99－75
$W=5,400 \times (\frac{2.7}{\ell})^2$ かつ9,800 N/m² 以下	$W=5,400 \times (\frac{3.4}{\ell})^2$ かつ9,800 N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

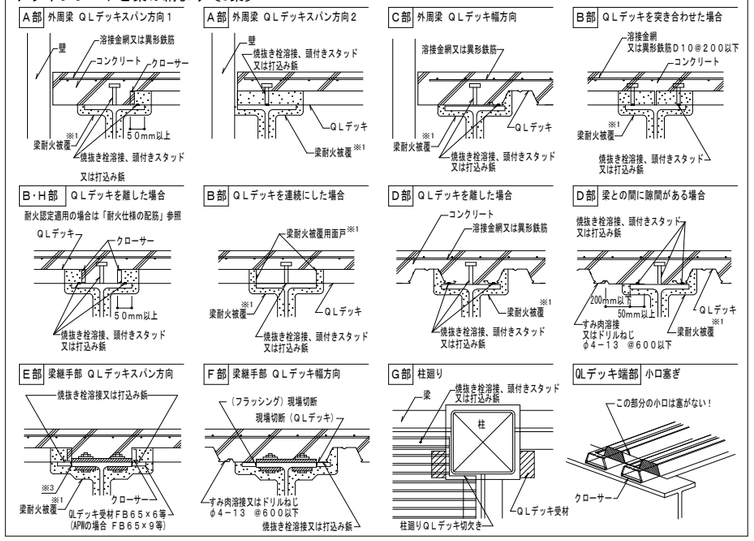
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小げり等によって、ほぼ等間隔(スパン比３：２を超えない程度※)に支持されるものとする。
※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

標　準　納　まり

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※２はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※３ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

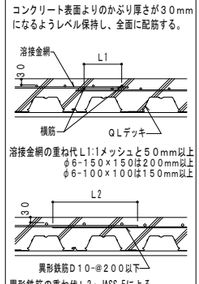


デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



スラブの配筋

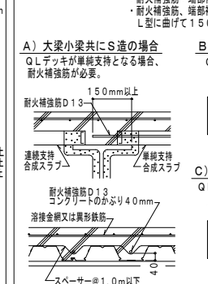
コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。



耐火仕様の配筋

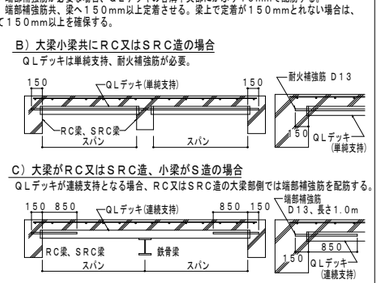
・ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、及べ１５０mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

A）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。

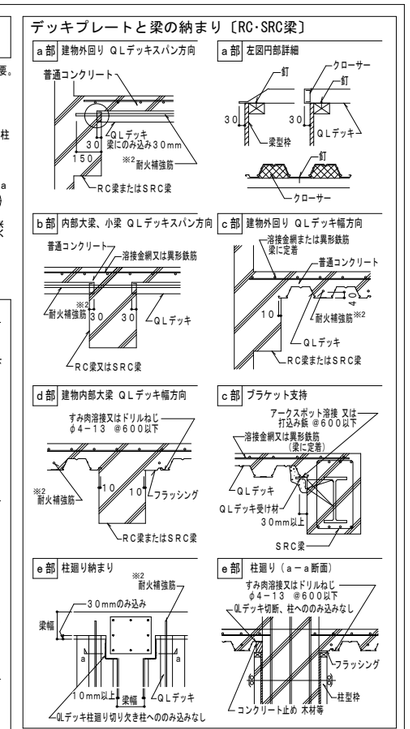


※配筋のスペーサーはφ４．０mm以上鉄線またはセメントブロックを用いて開隙は１．０m以下とする。

B）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。



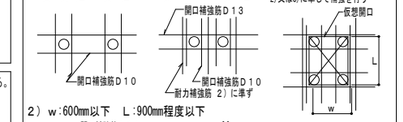
デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



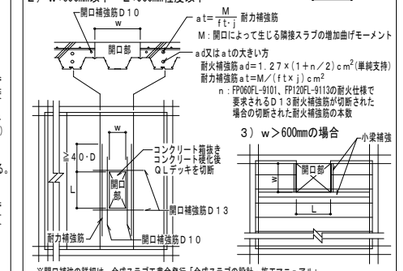
開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合

A)開口間隔≧３×開口径　B)開口間隔＜３×開口径　C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う



2）w:600mm以下　L:900mm程度以下



※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」
（1）合成スラブの設計　4．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

施　工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
QLデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかみ代は、５０mm以上あることを確認する。
（頭付きスタッドの場合は３０mm以上）
3）デッキプレート長手方向の大梁のかみ代は、５０mm以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止める。
2）デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合八(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 AW２５０A以上　エンジン溶接機 ２３０A以上
（２）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmのもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０A(標準２１０A)
（４）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順・要　領
1	アーク発生	QLデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	QLデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてQLデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら運棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０A(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］―ＣＯ２アークスポット溶接 ―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８KVA以上　３相　２００V
発電機の場合　　３５KVA以上　３相　２００V
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ1.2mm
（３）標準溶接条件：下表

QLデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（A）	電圧（V）	アークタイム（秒）
1.2mm	6～9mm未満	300～320	33～35	3.0～4.0x1度打ち
	9mm以上	300～320	33～35	3.0～4.0x2度打ち
1.6mm	6～9mm未満	300～320	34～36	3.5～4.5x1度打ち
	9mm以上	300～320	34～36	4.0～4.5x2度打ち

注１．デッキプレート　板厚１．２、１．６mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２．CO2ガス流量：２０ℓ／分以上

検　　査

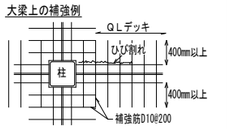
【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上　A.P.W：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ の 他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

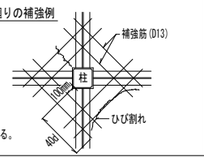
[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から 80～90mmと厚くする。)
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1)水セメント比を小さくする。
[例] 単位水量　175リットル/m³以下
ベースコンクリートスランプ　10cm
高性能ＡＥ減水剤　スランプ 15cm
2)溶接金網の位置一かぶり厚さ30mm－を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



柱廻りの補強例



施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

注１：普通コンクリート、D10-200×200、表面処理が亜鉛めっきの場合
注２：表を超える場合は、別途支保工が必要です。

QL99-50　（単位：m）

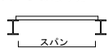
コンクリート厚(mm)		60				70				80				90				100			
板厚(mm)		1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	2.38	2.52	2.75	2.33	2.47	2.69	2.29	2.42	2.64	2.24	2.38	2.59	2.21	2.33	2.55						
	2連続	3.20	3.39	3.67	3.10	3.32	3.62	3.01	3.26	3.55	2.93	3.18	3.49	2.85	3.09	3.43						
	3連続	2.95	3.13	3.41	2.89	3.06	3.34	2.84	3.00	3.28	2.78	2.95	3.22	2.74	2.89	3.16						

QL99-75　（単位：m）

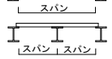
コンクリート厚(mm)		60				70				80				90				100			
板厚(mm)		1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	3.13	3.31	3.62	3.07	3.25	3.55	3.02	3.19	3.49	2.96	3.13	3.43	2.92	3.08	3.38						
	2連続	3.57	3.91	4.31	3.46	3.80	4.25	3.37	3.70	4.19	3.28	3.60	4.14	3.20	3.52	4.09						
	3連続	3.64	3.79	4.06	3.58	3.74	4.00	3.52	3.69	3.95	3.46	3.64	3.90	3.40	3.60	3.85						

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】



【連続支持】



2020/03/01

（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準（参考図）	
縮尺	年月日　令和　年　月　日	Ｓ － 06

先端羽根付き鋼管杭　　回転埋設工法

スクリューパイル ＣＫ-EAZET仕様書

地業工事特記仕様書（ 先端羽根付き鋼管杭: スクリューパイル ＣＫ-EAZET）

１．工法の概要

本工法は、杭本体先端部に掘削刀、掘削爪及びらせん状の羽根を取り付けた鋼管杭を回転埋設させることによって、杭先端羽根部を未掘削地盤に食い込ませながら地中にねじり込み掘進させ、杭本体体積分の土砂を杭側方向に押圧し、無排土で所定の支持地盤に設置させる杭基礎工法である。
なお、本工法は、国土交通大臣認定工法である。
工程の概要は、下記の通りである。

（１）杭の建て込み：杭を吊り込んで杭芯に合わせ、杭をセットする。
（２）杭の固定：杭先端を杭芯にセットしたら、杭体を振れ止め装置で固定する。
（３）回転埋設：杭の鉛直性を確認したら、正回転(右回転）を杭に与えて羽根の推進力で杭を埋設させる。
（４）埋設完了：所定深さまで回転埋設が終わったら、モーターを逆回転（左回転）させ、キャップをはずして施工を完了する。

２．一般事項

１）本工事は、本特記仕様書による。
２）杭仕様は、下記による。

杭径(Do)　(mm)	杭本体部肉厚(t)　(mm)	羽根径(D)　(mm) 羽根肉厚(ts)　(mm)	杭長(L=)　(m)	杭本数(本)	設計支持力　(kN/本)
φ267.4	8.0	800　/　25	7.0	22	628 （長期）
		/			
		/			

３）本杭施工に先立ち、試験杭を行う（通常１本）。試験杭の本数・位置は、杭伏図による。
４）載荷試験を行う場合は、「建築工事共通仕様書：４－２－３」による。
５）上記によるほかは、施工計画書による。

３．施工業者

４．施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を作成し、これに基づき工事を実施する。計画書は、次の内容を記載する。

（１）工事概要　（２）施工管理組織図　（３）工程表
（４）杭構造図　（５）施工概要・施工順序　（６）施工管理項目
（７）施工機械・器具使用　（８）安全管理基準　（９）作業員名簿

５．試験杭

試験杭は、本杭の施工に先立ち、次の事項について確認する。

（１）杭設置地盤の状況
（２）杭回転埋設状況と土質柱状図との整合性
（３）支持層の確認（掘削時の回転トルクの変化、貫入量）
試験杭に採用した杭が、設計条件を満足する場合には、これを本杭とする。

６．本杭における支持層の確認

支持層の確認は、次の方法に基づいて行う。

（１）標準貫入試験調査結果に基づき確認する。
（２）杭回転駆動装置モータの油圧値（トルク値）により確認する（トルク値ーＮ値の関係図より）。
（３）回転埋設時の杭１回転あたりの貫入量より確認する（必要トルクが得られない場合）。

７．施工機械・器具

施工機械・器具は、杭径、杭長、地盤、敷地の広さ等を考慮し、埋設作業が、十分にできる機械を選定する。

８．施工精度

（１）杭頭のズレは、±１００ｍｍ以内とする。
（２）杭高止まり量については、監督員に報告し、設計管理者とメーカーの協議の上処置を決める。
（この時、「支持層への根入れの確認」や「支持層地盤の不陸」等を考慮し、処置を決めるものとする。）
（３）杭の低止まりに関しても設計管理者とメーカーの協議により杭の健全性をチェックする。

９．施工記録および施工報告書

施工記録は、杭施工にあたり、各杭の施工状況を記録し、杭の施工終了後に施工報告書を作成し提出する。

（１）工事件名　（２）工事場所　（３）施工年月日
（４）施工機械　（５）杭番号　（６）杭規格・数量
（７）杭設置深さ　（８）回転終了時のトルク値　（９）土質柱状図　（１０）その他必要事項

※杭仕様・搬入・施工に関しては、メーカーと相談の上決定するものとする。

杭伏図

※ S-09図参照

土質柱状図

※ S-08図参照

杭長リスト

※ S-09図参照

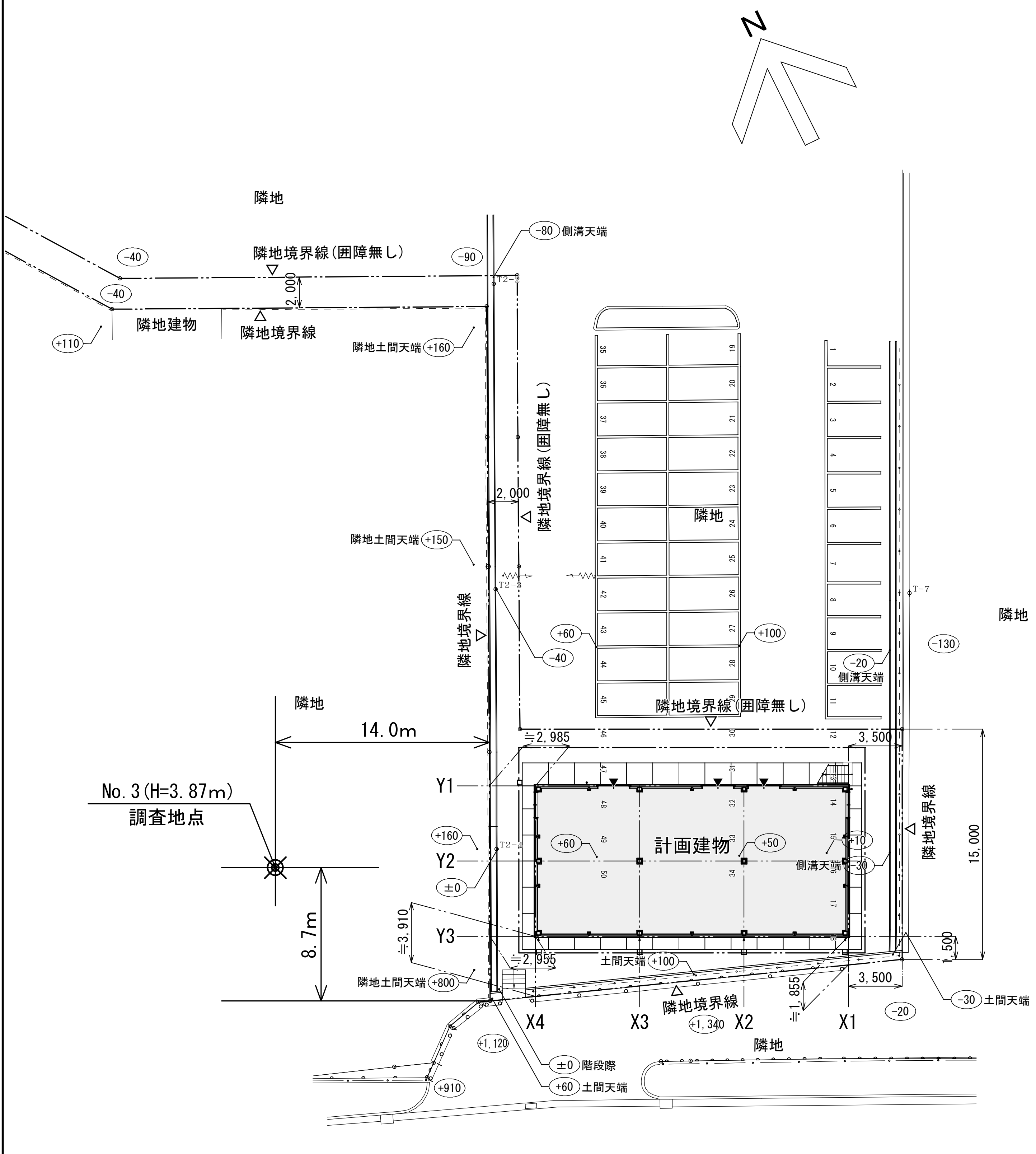
工法の名称　スクリューパイル CK-EAZET
国土交通大臣認定番号TACP-0399（ 平成24年3月19日）
先端地盤： 砂質地盤（ 砂礫地盤を含む）

（ 一財）ベターリビング評定番号CBL　FP005-07（ 平成30年6月26日）
先端地盤： 砂質地盤（ 礫質地盤を含む）

（構造設計者） 設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	スクリューパイル CK-EAZET仕様書（参考図）	
縮尺	年月日　令和　年　月　日	S － 07



※ (+000) は、既存GLレベルを示す。
※ 設計GL＝(+100)とする。

※ 設計GL＝（H=3.85m）とする。

ボーリング位置図　S=1/250

調　査　名　行橋警察署庁舎新築設計業務に伴う地盤調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

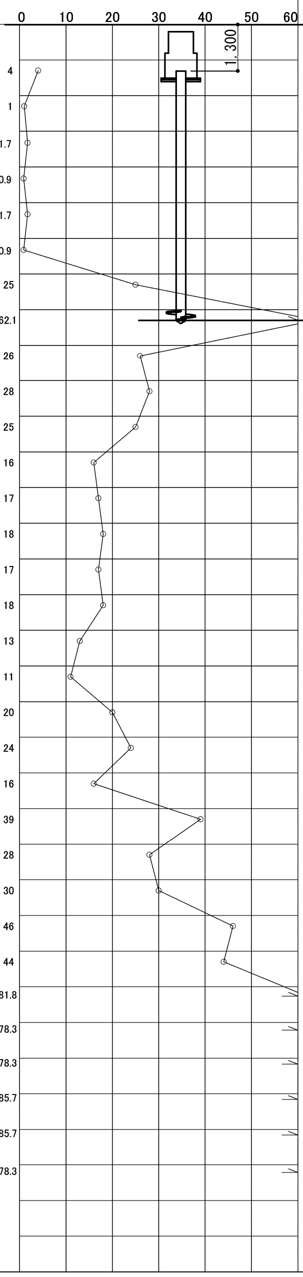
ボーリング名	No.3	調査位置	福岡県行橋市中央１丁目１番地２	北　緯	°　'　"
発注機関		調査期間	平成28年10月31日～平成28年11月1日	東　経	°　'　"
調査業者名	株式会社東建ジオテック TEL 092-781-7961	コア鑑定者		ボーリング責任者	薦野　憲太朗
孔口標高	H 3.87m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南
地盤勾配	0° 水平0° 鉛直 90°	使用機種 試錐機	YBM-05	ハンマー落下用具	半自動モンケン
総掘進長	32.00m	エンジン	ヤンマーNFAD-8K	ポンプ	YBMGP-5

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
3.57	0.30	0.30	埋土(礫)	暗褐			アスファルト舗装および砕石である。
2.17	1.40	1.70	シルト質細砂	暗灰	緩い		粒径均一である。含水量はやや少ない。径2～5mmの細礫を混じる。
1.67	0.50	2.20	砂	暗灰			粒径不均一である。含水量は多い。
1.17	0.50	2.70	粘土	暗灰		非常に軟い	比較的均質である。含水量は多い。
-0.93	2.10	4.80	砂礫	暗灰	非常に緩い		径2～10mmの亜角礫を主体。礫が7割, 砂が3割で構成される。含水量は多い。貝殻片を少量混入する。
-2.73	1.80	6.60	シルト質細砂	暗灰	非常に緩い		粒径均一である。含水量は多い。貝殻片を少量混入する。下部では細粒分が多くなる。
-6.93	4.20	10.80	シルト混り砂礫	暗褐 黄褐	中位 非常に密な 中位		径10～50mmの亜角礫を主体。礫は大きいもので径100mmに及ぶ。礫の中には指圧で潰せる脆いクサリ礫を混じる。礫が5割, 砂が3割, 細粒分が2割で構成される。含水量は少ない。礫と礫間が密着する。
-17.93	11.00	21.80	礫混り粘土質粗砂	灰 淡黄灰 黄褐灰 淡褐灰	中位		径5～40mmの亜角礫を点在。礫の中には指圧で潰せる脆いクサリ礫を混じる。クサリ礫は結晶片岩を起源とする。粒径不均一である。含水量はやや多い。14m付近では粘土を多く混じる。17～19mでは含水量が多い。
-25.83	7.90	29.70	粘土質砂礫	茶褐灰	密な 中位 密な 非常に密な		径5～40mmの亜角礫を主体。礫の中には指圧で潰せる脆いクサリ礫を混じる。クサリ礫は結晶片岩を起源とする。礫が4～5割, 砂が3～5割, 細粒分が1～2割で構成される。含水量は少ない。部分的にマサ土に酷似する。
-28.46	2.63	32.33	マサ	褐灰			粗粒花崗岩が著しく風化してマサ土化している。標準貫入試験試料は粗砂状を呈する。所により指圧で潰せる軟質な弱風化部を礫状に含む。

孔内水位(m)／測定月日：10/31 1.10

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15～1.45	1	1	2	4/30	4
2.15～2.45	1/30			1/30	1
3.15～3.50	1/20	1/15		2/35	1.7
4.15～4.50	1/35			1/35	0.9
5.15～5.50	1/20	1/15		2/35	1.7
6.15～6.50	1/35			1/35	0.9
7.15～7.45	5	7	13	25/30	25
8.15～8.44	13	19	28/9	60/29	62.1
9.15～9.45	8	9	9	26/30	26
10.15～10.45	9	10	9	28/30	28
11.15～11.45	8	9	8	25/30	25
12.15～12.45	5	6	5	16/30	16
13.15～13.45	6	5	6	17/30	17
14.15～14.45	7	6	5	18/30	18
15.15～15.45	5	6	6	17/30	17
16.15～16.45	6	6	6	18/30	18
17.15～17.45	3	4	6	13/30	13
18.15～18.45	4	3	4	11/30	11
19.15～19.45	7	6	7	20/30	20
20.15～20.45	6	6	12	24/30	24
21.15～21.45	4	7	5	16/30	16
22.15～22.45	11	13	15	39/30	39
23.15～23.45	6	8	14	28/30	28
24.15～24.45	7	9	14	30/30	30
25.15～25.45	13	13	20	46/30	46
26.15～26.45	9	14	21	44/30	44
27.15～27.37	21	29	10/2	60/22	81.8
28.10～28.33	23	26	11/3	60/23	78.3
29.05～29.28	25	27	8/3	60/23	78.3
30.05～30.26	20	34	6/1	60/21	85.7
31.05～31.26	19	37	4/1	60/21	85.7
32.10～32.33	15	34	11/3	60/23	78.3



設計GL：H=3.850 ＝孔口-0.020

杭先端＝GL-8,300

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	P3-1	○	物理
2.20～2.45	P3-2	○	物理
4.15～4.50	P3-3	○	物理
6.15～6.50	P3-4	○	物理
7.15～7.45	P3-5	○	物理
12.15～12.45	P3-6	○	物理
18.15～18.45	P3-7	○	物理
21.15～21.45	P3-8	○	物理
23.15～23.45	P3-9	○	物理
30.05～30.26	P3-10	○	物理

掘進月日：10/31、11/1

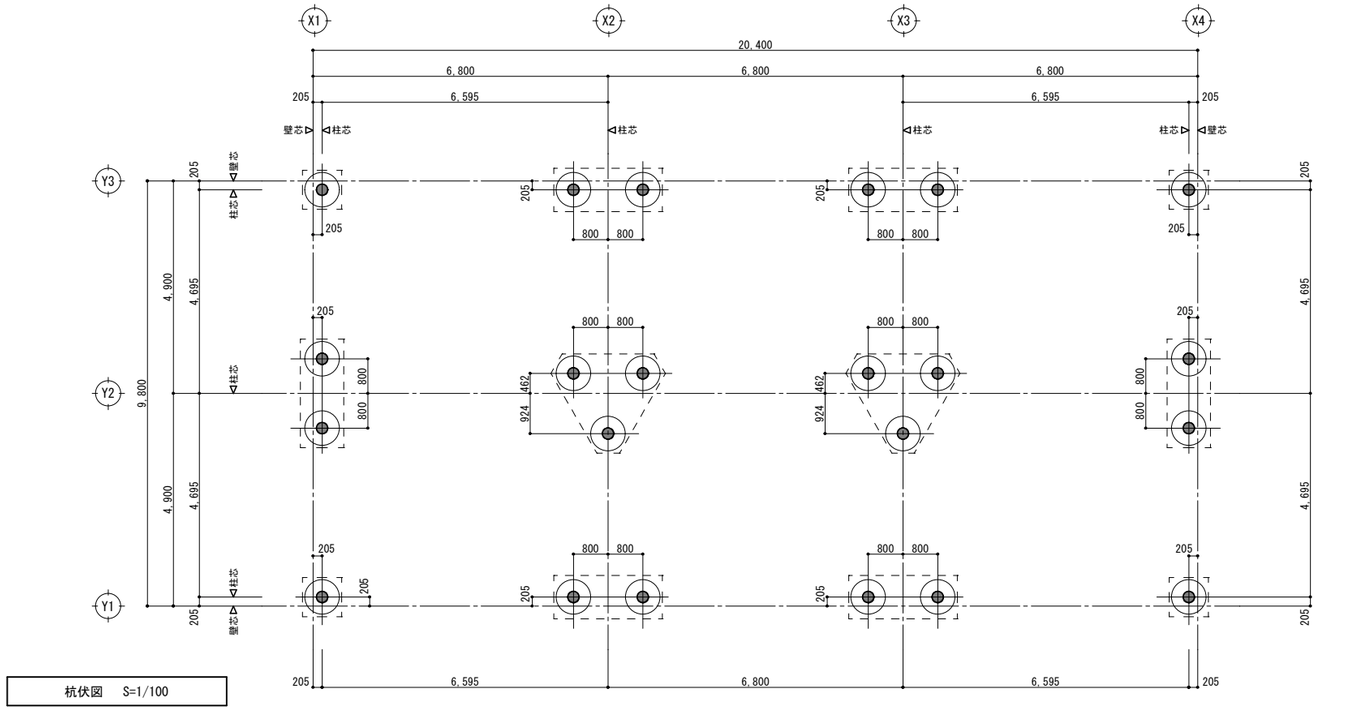
株式会社東建ジオテック

ボーリング柱状図　S=1/150

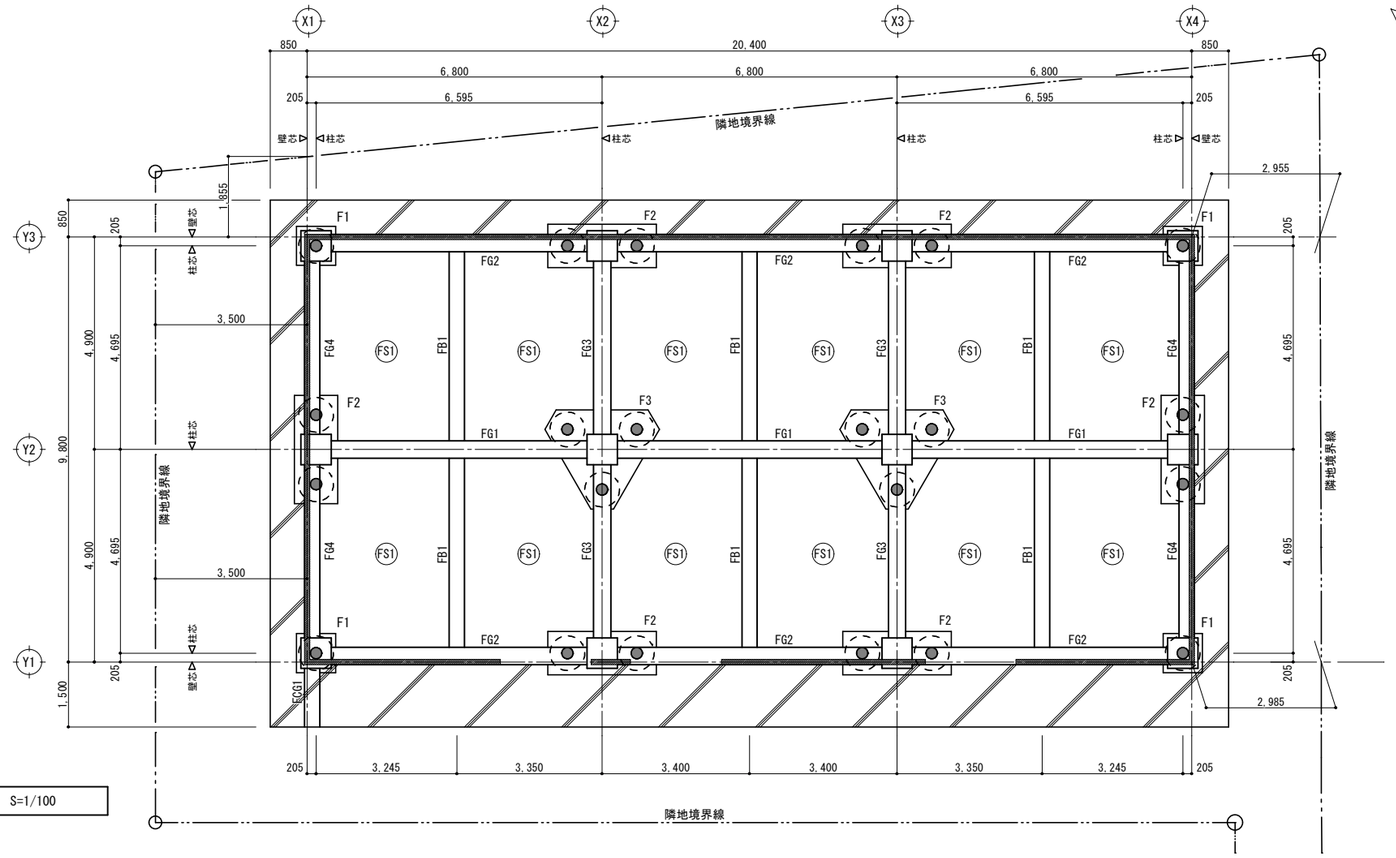
（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	ボーリング位置図・柱状図		
縮尺 A2=1/250,150 A3=71%	年月日 令和　年　月　日	S - 08	

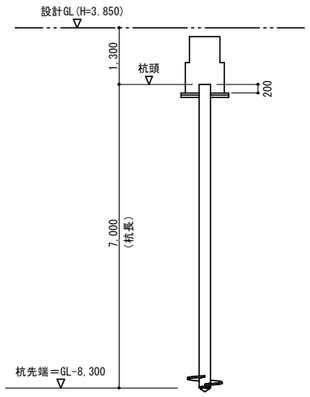


杭伏図　S=1/100



基礎伏図　S=1/100

N

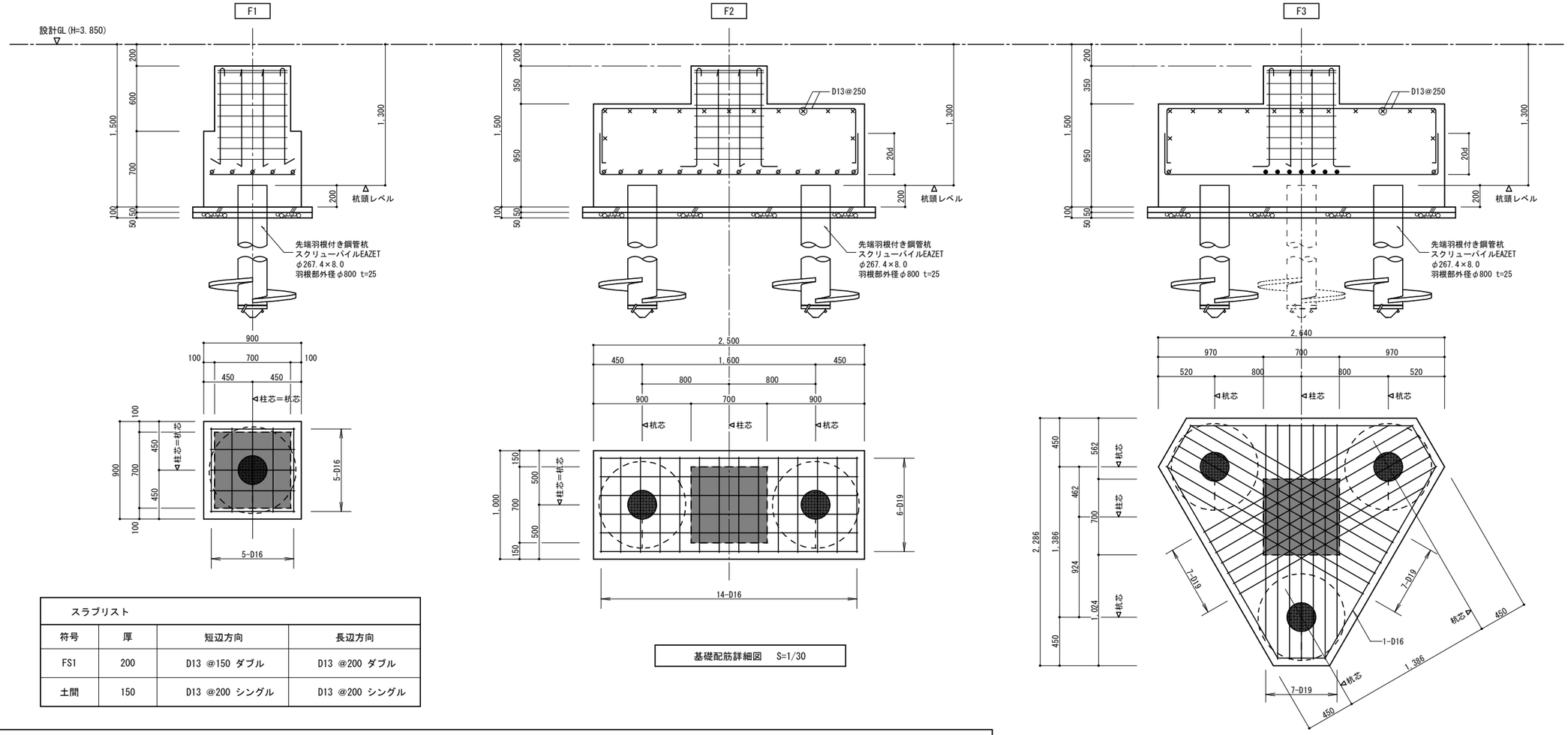
杭 仕 様			
杭種	ＣＫ－ＥＡＺＥＴ （先端羽根付き鋼管杭 スクリューパイルＥＡＺＥＴ） ［国住指第3242-1号 TACP-0399］		
杭詳細	鋼管（材質）		φ267.4×8.0（STK490）
	先端羽根部	径	800mm
		厚（材質）	25mm （SM490A）
	杭支持力	長期	628 kN/本
		短期	1256 kN/本
断面図			
杭本数	２２ 本		
試験堀	試験堀は２箇所とする。 （位置は工事監理者の指示による） 設計支持地盤：シルト混り砂礫 設計平均Ｎ値：N=25		

凡 例	
	土間 範囲を示す

（構造設計者） 設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	杭伏図・基礎伏図	
縮尺	A2=1/100 A3=71%	年月日 令和　年　月　日
	S － 09	

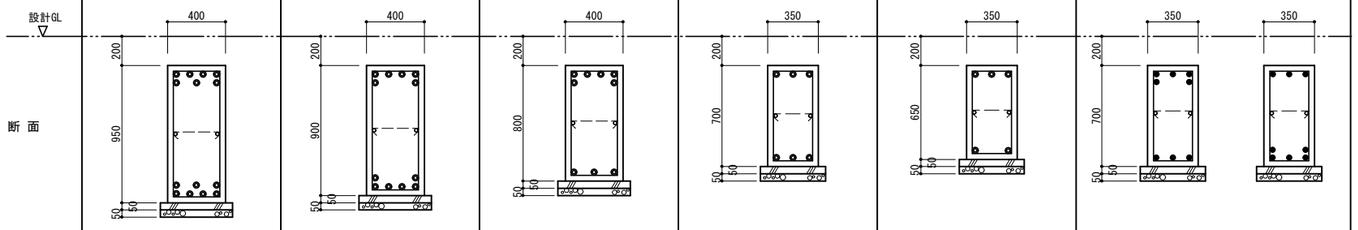


基礎配筋詳細図　S=1/30

スラブリスト			
符号	厚	短辺方向	長辺方向
FS1	200	D13 @150 ダブル	D13 @200 ダブル
土間	150	D13 @200 シングル	D13 @200 シングル

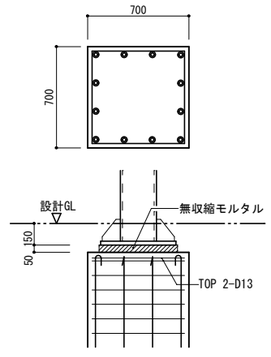
地中梁配筋図

1．特記無き限り鉄筋コンクリート構造配筋詳細図による。
2．腹筋の幅止筋 D10@600 以内とする。

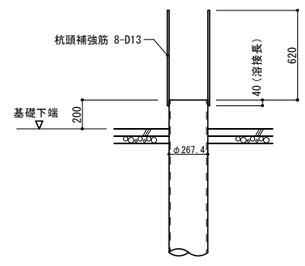
符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FCG1	FB1	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端 部	中 央
断 面							
B×D	400 × 950	400 × 900	400 × 800	350 × 700	350 × 650	350 × 700	
上端筋	7 - D22	6 - D22	6 - D22	3 - D22	3 - D22	5 - D19	3 - D19
下端筋	7 - D22	6 - D22	3 - D22	3 - D22	2 - D22	3 - D19	5 - D19
腹 筋	2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10	
スターラップ	D13@200	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200	D10@200	

柱脚ポスト配筋図

1．特記無き限り鉄筋コンクリート構造配筋詳細図による。

符 号	1C25
断面図	
主 筋	12−D22
HOOP	D13 @100

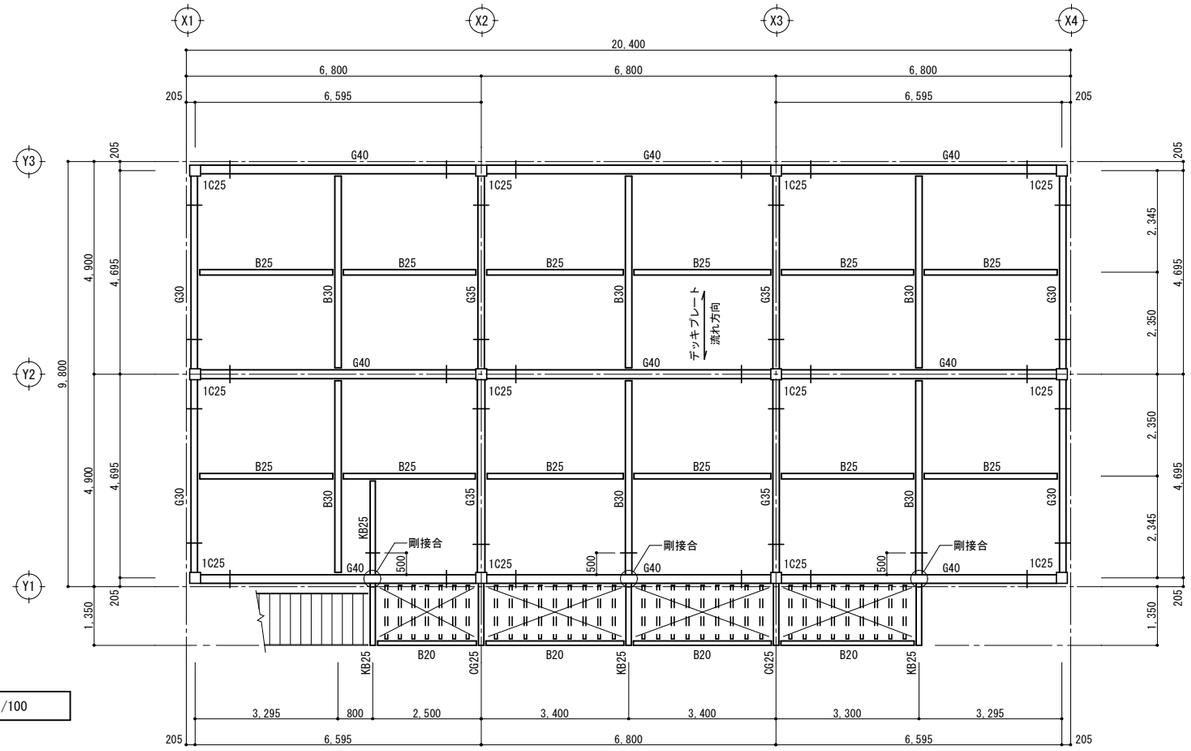
杭頭補強図



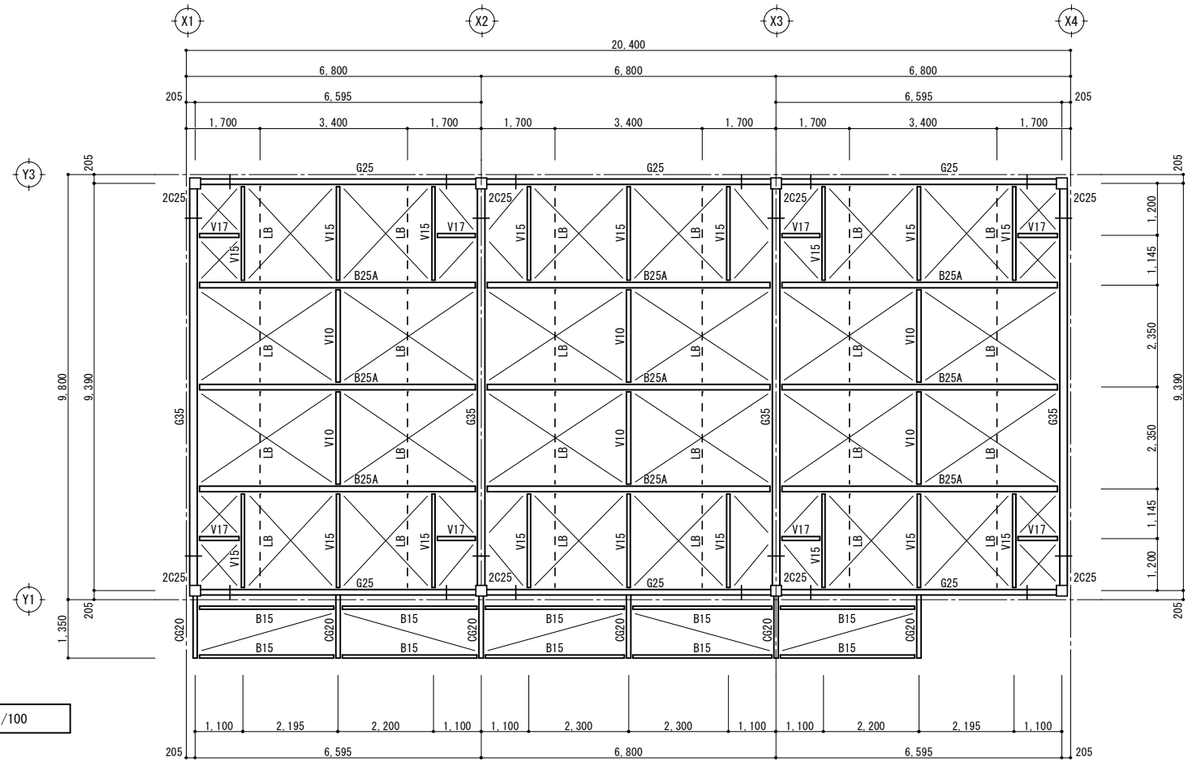
（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

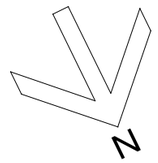
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	基礎詳細図	
縮尺	A2=1/30　A3=71%　年月日 令和　年　月　日	S － 10



１階柱２Ｆ梁伏図　S=1/100



２階柱ＲＦ梁伏図　S=1/100

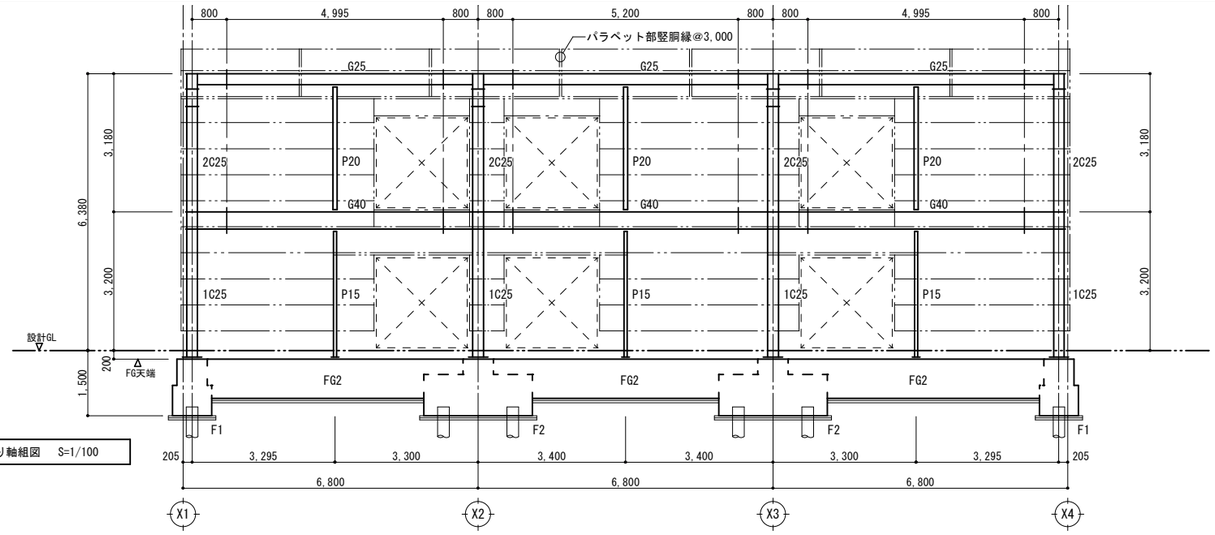


1C25	□ － 250×250×12	BCR295
2C25	□ － 250×250×9	BCR295
P20	H － 200×100×5.5×8×8	SS400
P15	H － 150×75×5×7×8	SS400
G40	H － 400×200×8×13×13	SS400
G35	H － 350×175×7×11×13	SS400
G30	H － 300×150×6.5×9×13	SS400
G25	H － 250×125×6×9×8	SS400
CG25・KB25	H － 250×125×6×9×8	SS400
CG20	H － 200×100×5.5×8×8	SS400
B30	H － 300×150×6.5×9×13	SS400
B25・B25A	H － 250×125×6×9×8	SS400
B20	H － 200×100×5.5×8×8	SS400
B15	H － 150×75×5×7×8	SS400
V17	H － 175×90×5×8×8	SS400
V15	H － 150×75×5×7×8	SS400
V10	□ － 100×100×2.3	STKR400
LB（照明受）	C － 100×50×20×2.3	SSC400
階段側桁	PL － 12 × 250	SS400
根太	L － 65×65×6　@340	SS400
胴縁	C － 100×50×20×2.3 @600	SSC400
屋根ブレース	1-M12	
デッキプレート	QLデッキ　QL99-50-12	

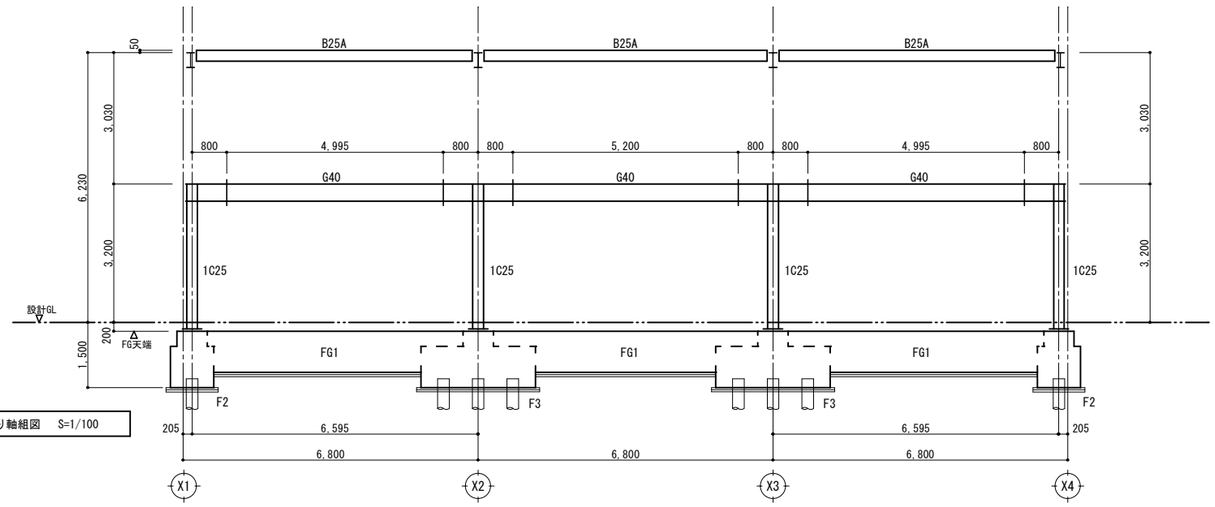
（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

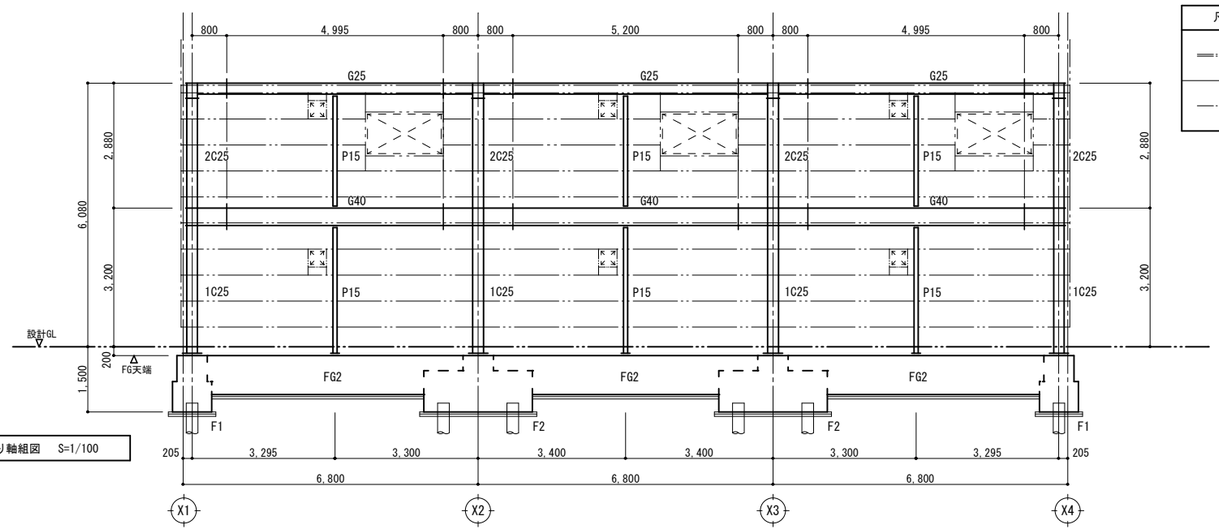
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	梁伏図		
縮尺 A2=1/100 A3=71%	年月日 令和　年　月　日	S － 11	



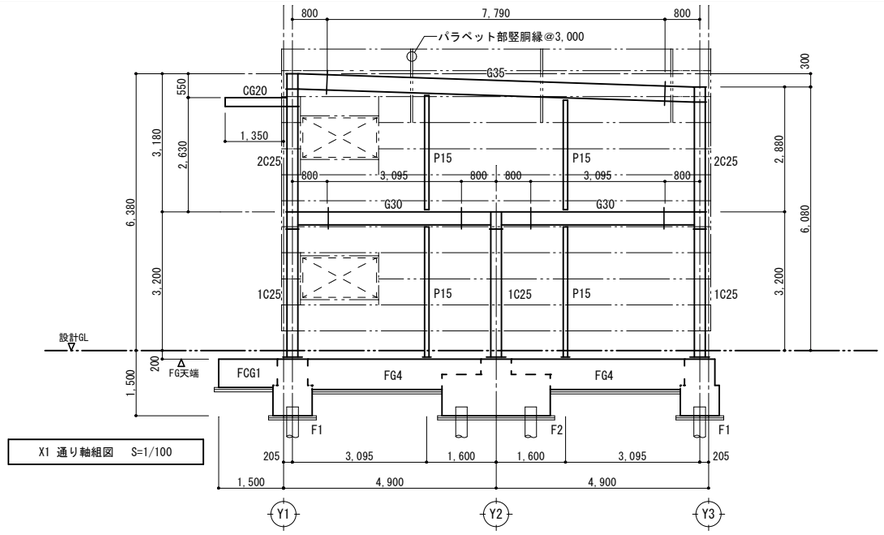
Y1 通り軸組図　S=1/100



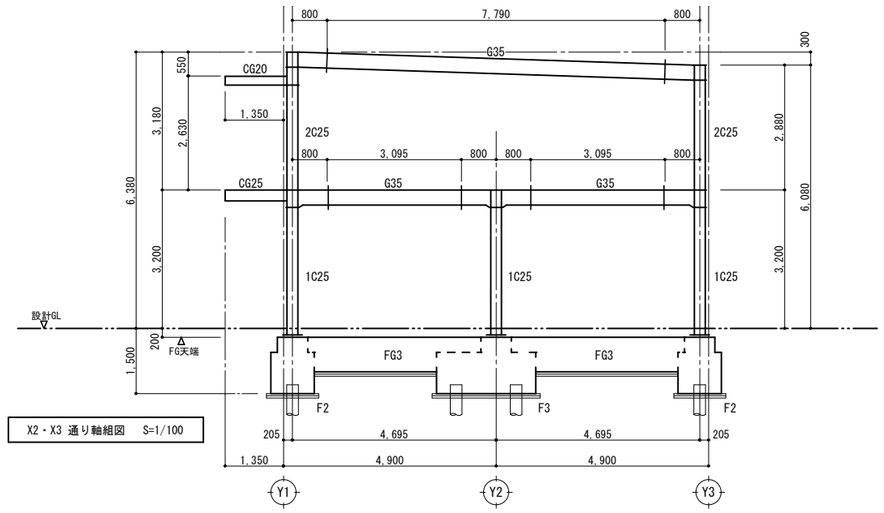
Y2 通り軸組図　S=1/100



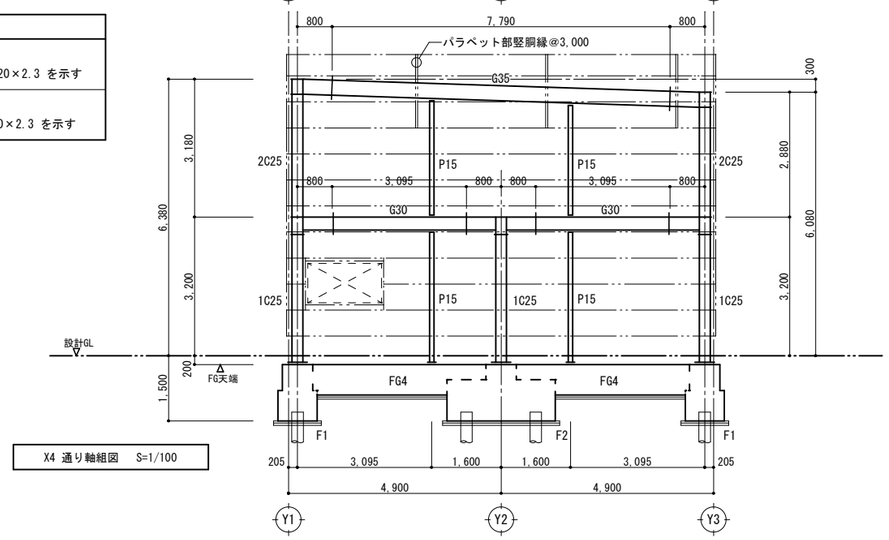
Y3 通り軸組図　S=1/100



X1 通り軸組図　S=1/100



X2・X3 通り軸組図　S=1/100



X4 通り軸組図　S=1/100

凡 例	
═══	胴縁 2C-100×50×20×2.3 を示す
───	胴縁 C-100×50×20×2.3 を示す

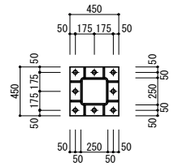
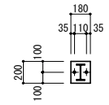
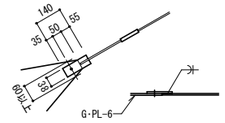
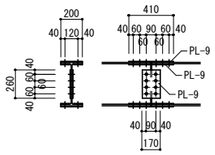
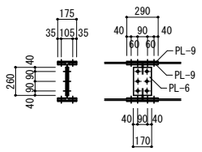
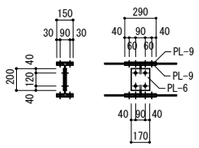
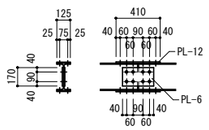
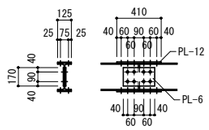
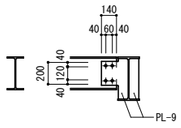
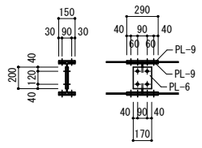
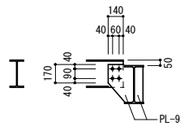
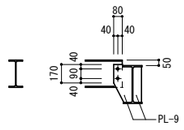
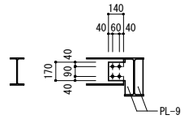
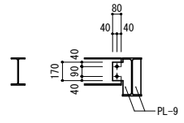
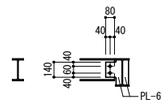
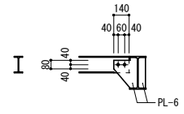
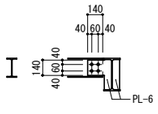
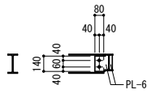
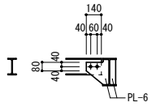
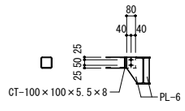
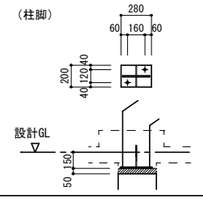
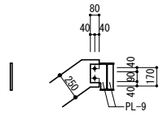
（構造設計者） 設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社　井 関 中 央 設 計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	軸組図		
縮尺 A2=1/100 A3=71%	年月日 令和　年　月　日	S － 12	

鉄骨部材リスト

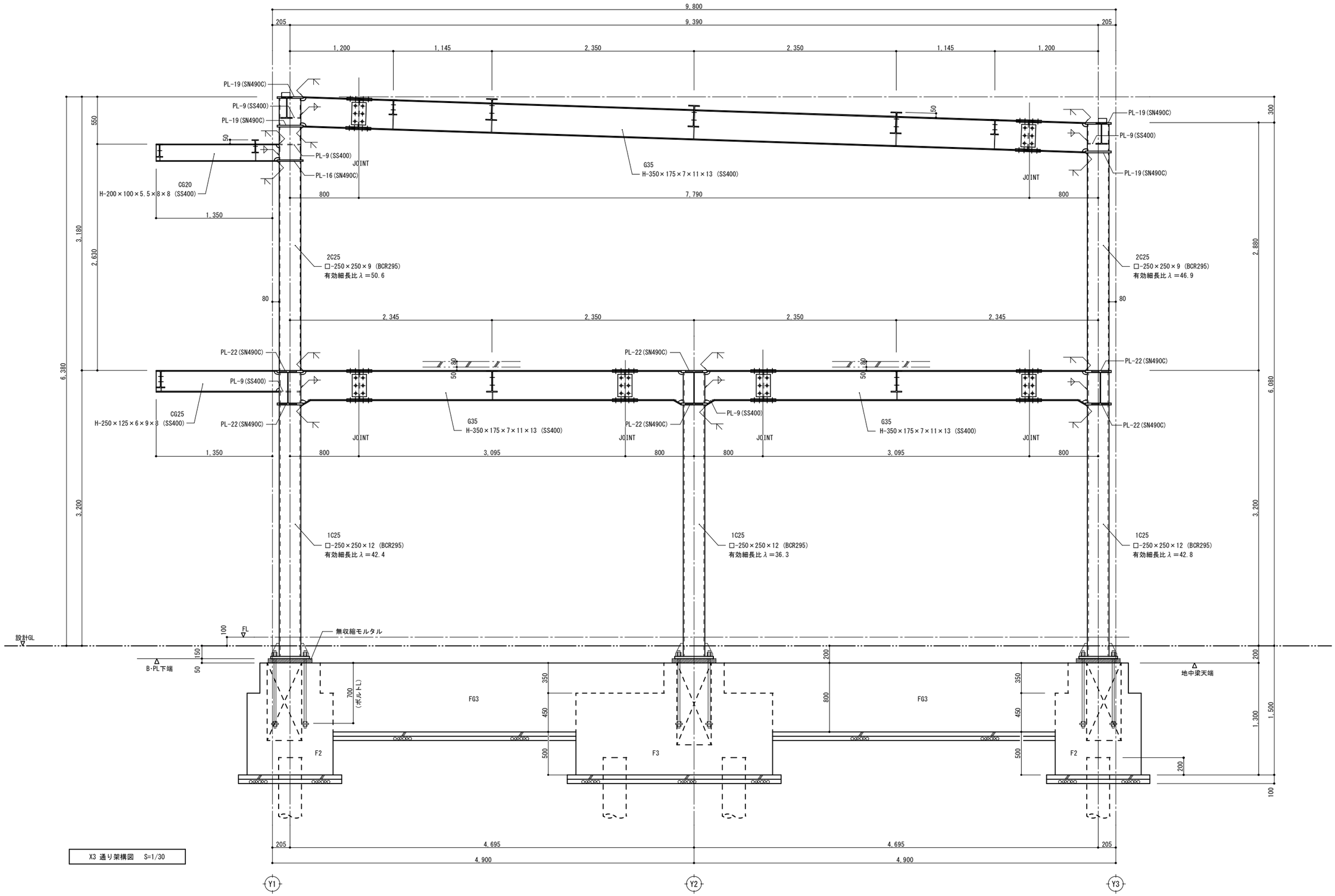
※1 特記なき限り構造設計標準仕様および鉄骨構造標準図による
※2（高力ボルト）リスト中 HTB と表記したものは F10T 又は S10T とする

符号	1C25	2C25	P20	P15		屋根・床ブレース	デッキプレート	胴縁
断面	（柱脚） 	□	I	（柱脚） 		（仕口） 	普通コンクリート山上80mm 溶接金網 φ6－150×150 	C ジョイント部等はダブル使いとする （位置は軸組図参照）
鋼材	□ － 250×250×12 (BCR295)	□ － 250×250×9 (BCR295)	H － 200×100×5.5×8×8 (SS400)	H － 150×75×5×7×8 (SS400)		M12 ターンバックル付	QLデッキ QL99-50-12	C － 100×50×20×2.3 (SSC400)
柱脚	BPL-28×450×450 (SN490C) Riv·PL-9 H=150 (SS400) A·Bolt 8-M24 定着長L=700 (ABR400) Wナット締 定着板 16×75×75			BPL-9×180×200 (SS400) A·Bolt 2-M16 定着長L=500 (SS400) Wナット締 フック付		JISブレース	焼き抜き栓溶接により梁に接合 （ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準参照）	横胴縁 @606以下
GPL,BOLT			PL-6 HTB 2-M16	PL-6 HTB 2-M16		PL-6 FB-4.5X38X140 HTB 1-M12		PL-4.5 SS400 2-M12
符号	G40	G35	G30	G25	CG25・KB25	CG20		
断面	（継手） 	（継手） 	（継手） 	（継手） 	（継手）  ※仕口溶接	I ※仕口溶接		
鋼材	H － 400×200×8×13×13 (SS400)	H － 350×175×7×11×13 (SS400)	H － 300×150×6.5×9×13 (SS400)	H － 250×125×6×9×8 (SS400)	H － 250×125×6×9×8 (SS400)	H － 200×100×5.5×8×8 (SS400)		
FPL,BOLT	2PL-9X200X410 4PL-9X80X410 HTB 24-M20	2PL-9X175X290 4PL-9X70X290 HTB 16-M20	2PL-9X150X290 4PL-9X60X290 HTB 16-M20	2PL-12X125X410 HTB 24-M16	2PL-12X125X410 HTB 24-M16			
WPL,BOLT	2PL-9X260X170 HTB 8-M20	2PL-6X260X170 HTB 6-M20	2PL-6X200X170 HTB 4-M20	2PL-6X170X290 HTB 8-M16	2PL-6X170X290 HTB 8-M16			
符号	B30		B25A		B25		B20	B15
断面	（仕口） 	（継手） 	（X1-X4 端 仕口） 	（その他仕口） 	（X1-X4 端 仕口） 	（その他仕口） 	（仕口） 	（仕口） 
鋼材	H － 300×150×6.5×9×13 (SS400)		H － 250×125×6×9×8 (SS400)		H － 250×125×6×9×8 (SS400)		H － 200×100×5.5×8×8 (SS400)	H － 150×75×5×7×8 (SS400)
FPL,BOLT		2PL-9X150X290 4PL-9X60X290 HTB 16-M20						
WPL,BOLT	PL-9 HTB 4-M20	2PL-6X200X170 HTB 4-M20	PL-9 HTB 4-M20	PL-9 HTB 2-M20	PL-9 HTB 4-M20	PL-9 HTB 2-M20	PL-6 HTB 2-M16	PL-6 HTB 2-M16
符号	V17		V15	V10	LB（照明受）	階段側桁		根太
断面	（G35側 仕口） 	（その他仕口） 	（仕口） 	（仕口） 	C	（柱脚） 	（仕口） 	⌐
鋼材	H － 175×90×5×8×8 (SS400)		H － 150×75×5×7×8 (SS400)	□ － 100×100×2.3 (STKR400)	C － 100×50×20×2.3 (SSC400)	PL － 12×250 (SS400)		L － 65×65×6 (SS400)
GPL,BOLT	PL-6 HTB 4-M16	PL-6 HTB 2-M16	PL-6 HTB 2-M16	PL-6 SS400 2-M12	PL-4.5 SS400 2-M12	BPL-9×280×200 (SS400) Riv·PL-6 H=200 (SS400) A·Bolt 2-M16 定着長L=500 (SS400) Wナット締 フック付	PL-9 HTB 2-M20	PL-4.5 SS400 2-M12
備考								@340以下

（構造設計者）設計資格者：宇都宮一正
一級建築士大臣登録：第282382号
構造設計一級建築士：第5521号

有限会社 井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３ ℡0930-24-6868
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号 井関 憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検 図
図面名称	鉄骨部材リスト		
縮尺 A2=1/40 A3=71%	年月日 令和 年 月 日	S － 13	



X3 通り架構図　S=1/30

(構造設計者) 設計資格者：宇都宮一正 一級建築士大臣登録：第282382号 構造設計一級建築士：第5521号	有限会社　井関中央設計 福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号 一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二	工事名称　行橋市防災倉庫新設工事	検　図
		図面名称　架構詳細図	
		縮尺　A2=1/30　A3=71%　年月日　令和　年　月　日	S － 14

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ.工　事　名　称　　行橋市防災倉庫新設工事

Ⅱ.工　事　概　要

1．総合発注の有無　　本工事は、以下の工事を含む。（詳細は、図面参照のこと）

・ 建築工事

・ 機械設備工事

・

2．工 事 場 所　　行橋市中央一丁目２３０７－２

3．建 物 概 要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	防火対象物の種別	備考
防災倉庫	S	2	３９９．８４		

4．工 事 種 目　（ ○印を付けたものを適用する ）

工事種目 ＼ 建物別	工事種別 防災倉庫			屋外	備考
⊙電灯設備	新設 一式	一式	一式		
・動力設備	一式	一式	一式		
・避雷設備	一式	一式	一式		
・受変電設備	一式	一式	一式		
・静止形電源設備	一式	一式	一式		
・発電設備	一式	一式	一式		
・構内情報通信網設備	一式	一式	一式		
・構内交換設備	一式	一式	一式		
・情報表示設備	一式	一式	一式		
・映像・音響設備	一式	一式	一式		
・拡声設備	一式	一式	一式		
・誘導支援設備	一式	一式	一式		
・呼出設備	一式	一式	一式		
・テレビ共同受信設備	一式	一式	一式		
・防犯設備	一式	一式	一式		
・自動火災報知設備	一式	一式	一式		
・中央監視制御設備	一式	一式	一式		
・遠隔量水器設備	一式	一式	一式		
・デマンド監視・制御設備	一式	一式	一式		
・太陽光発電設備	一式	一式	一式		
⊙換気設備	新設 一式	一式	一式		
⊙構内配電線路	新設 一式	一式	一式		
・構内通信線路	一式	一式	一式		
・					

Ⅲ.工　事　仕　様

1　適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

（1）「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（2）「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（3）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（4）「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（5）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（6）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（7）「公共住宅建設工事共通仕様書（平成２８年版）」　国土交通省住宅局住宅総合整備課監修

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。
ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は担当者と協議すること。

2　補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

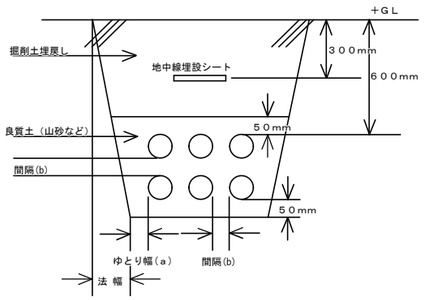
（1）「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
（2）「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　平成３１年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
（3）「建築工事標準詳細図（建築工事編　平成２８年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（4）「電気設備工事監理指針（令和元年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（5）「機械設備工事監理指針（令和元年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（6）「建築工事監理指針（令和元年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（7）「建築改修工事監理指針（令和元年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（8）「建築設備耐震設計・施工指針（２０１４年版）」　独立行政法人　建築研究所監修
（9）「建築工事安全施工技術指針・同解説」　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（10）「建設廃棄物処理指針」　厚生労働省生活衛生局
（11）「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」　環境省大気保全局（環境省アスベスト飛散防止対策研究会）

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更、又は工事価格の変更が生じる場合は担当者と協議すること。

3　特　記　仕　様

（1）項目は、○印のついたものを適用する。
（2）特記事項のうち選択する事項は、○印のついたものを適用する。

項目	特記事項
①機材	この工事に使用する機材は、監督職員の承諾を受ける。 なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。
②電気工作物	・一般用電気工作物　　⊙事業用電気工作物
③電気保安技術者	事業用電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。
④工事に必要な資格 （建設業法に関することを除く）	⊙第１種電気工事士　　・第２種電気工事士(もしくは上位資格) ・特種電気工事資格者(非常用予備発電装置) ・消防設備士甲種４類　　・工事担任者　第　種(もしくは上位資格)
⑤官公庁その他への手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、 及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。
⑥工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力（仮設電力及び試運転調整用電力等を含む）・水及び諸手続等 の費用は、すべて請負者の負担とする。
⑦残土処分	・構内指示の場所に敷均し　・構内指示の場所に堆積　・構外搬出適切処理
⑧他工事との取合い	・施工区分表による　⊙図面詳細による
９．再使用機器	取外し再使用機器は、原則として清掃並びに絶縁抵抗測定を行った後、取り付けること。 但し、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督職員に報告すること。
⑩耐震施工	設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」（２０１４年版）によるも のとする。
１１．合成樹脂製可とう電線管	環境対応型合成樹脂製可とう管（ＰＦ管）の一重管とする。なお、打込配管として使用する場合、 原則として呼び径を22まで とする。 また鉄筋等への結束には樹脂被覆を施したバインド線を用いること。
⑫．プレートの材質	⊙金属製（防水形配線器具を除く）　・樹脂製
１３．フロアプレート	ベースは、水平高低調整付（空転防止リング付）とする。　・砲金製　・アルミ製
１４．ハイテンション	・上下動形　・外部固定形　・内部固定形
⑮露出配管等の塗装	屋内においては水性塗料を原則とし、屋外においても低VOC塗料の使用に努めること。
１６．呼び線	長さ　１ｍ　以上の入線しない電線管には電線太さ　１．２ｍｍ　以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。
⑰．表示	スイッチ・コンセント及びプルボックスで用途の判別し難いものは、表示する。
１８．地中線埋設シート	地下埋設の線路には、標識シートを２倍長以上重ね合わせて布設するものとする。
１９．地中埋設標	電力用（矢指色：赤色）　・樹脂製　・コンクリート製　・鉄製 通信用（矢指色：黄色）　・樹脂製　・コンクリート製　・鉄製
⑳．地中埋設配管（ＧＬ－６００の場合）	

・根切り深さが1.5m未満の場合は直堀工法とし、1.5m以上の場合には法付工法とする。

法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。

・床堀幅は、埋設管類などの外径（底面）の寸法にゆとり幅×2を加えたものとする。

ゆとり幅（a）及び埋設管相互の間隔（b）は、下表を参照のこと。

ゆとり幅（a）	根切り深さ 1m未満	根切り深さ 1以上1.5m未満	根切り深さ 1.5m以上
地中電線管類	０．２ｍ	０．４ｍ	０．３ｍ
地下埋設物	０．５ｍ	０．５ｍ	０．５ｍ

埋設管の呼び径	間隔（b）（左右・上下）
５０以下	50mm
１５０　〃	70mm
２００　〃	100mm

２１．接地極

強電配線・弱電配線・その他配管等について、定められた離隔を考慮すること。

多条敷設により埋設管同士を密着させる場合は、「JIS C 3653（附属書含む）」及び「電気設備に関する技術基準を定める省令」における関連事項に適合した資材の使用、及び施工を行うこと。

また、電線相互の接近により誘導障害が生じるおそれがある場合は、多条敷設は行わないこと。

接地極の材料は下表による。接地極の近くに接地極埋設標９０×１４０×１．５ｔ（黄銅製・刻印）を設置すること。なお、接地棒 EB（１４）φ の長さは１,５００mm以上とし、１０φ・１４φは、Ｗ＝４０として差し支えない。

接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極
・共同	EA･C･D	Ω以下	
・共同	EA･D	Ω以下	
・Ａ種	EA	１０Ω以下	14φ×1,500-3連結×3箇所
・Ｂ種	EB	Ω以下	14φ×1,500-2連結×2箇所
・Ｃ種	EC	１０Ω以下	
・Ｄ種	ED	１００Ω以下	
・避雷設備	EL	１０Ω以下	
・高圧避雷器	ELH	１０Ω以下	
・低圧避雷器	ELL	１０Ω以下	
・交換機用	Et	１０Ω以下	
・通信用	EAt	１０Ω以下	
・通信用	ECt	１００Ω以下	EB（１０）φ × １（L=1,500mm）
・測定用	E0		EB（１０）φ × １（L=1,500mm）

２２．構内交換設備工事範囲

避雷設備の接地抵抗値は、総合抵抗とする。

本工事における構内交換設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

・構内交換装置　・電話機取付け　（　　台 ）

・配管配線まで本工事　・配管のみ本工事　・配線のみ本工事

２３．電話機への配線

電話機１台につき次のものを見込む。

・TIVF(TIVE)　0.65-2C　m　・EM-TIEF(TIEE)　0.65-2C　m

・EBT　0.4-2P　m　・EM-BTIEE　0.4-2P　m

・２号ワイヤプロテクタ　m

２４．構内情報通信網設備工事範囲

本工事における構内情報通信網設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

・構内情報通信網装置　・ネットワーク管理装置　・配管配線まで本工事

・配管のみ本工事

２５．LANケーブルの色

・幹線LAN：赤色　・校務LAN：黄色　・生徒LAN：水色

２６．機器と配線の接続

拡声設備において、増幅器などの入出力路と配線との接続は、コネクタなどを取付けて行うこと。

２７．インターロック

自動火災報知設備において、感知器が作動した場合に受信機及び連動制御機と連動して空調機並びに送排風機を停止させる。

２８．ガス漏れ警報装置受信機

・単独　（・自立形　・壁掛形 ）

２９．ガス漏れ警報装置検知器

・液化石油ガス用　・都市ガス用

３０．防犯設備工事範囲

・配管のみ本工事　・機器取付調整まで本工事

３１．躯体貫通場所

躯体貫通箇所においては探査機を使用し、コンクリート内配筋を避け貫通すること。

３２．発電機回路コンセント

発電機回路に接続されるコンセントは、回路種別が識別できるものとする。

３３．マンホールハンドホール蓋

蓋中央部に県章を刻印すること。また、用途別に「高圧」「電気」「弱電」の刻印をすること。

３５．建築副産物の処理について

資源の有効利用・環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制・再利用・適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

３６．その他

指定副産物（原則として、再資源化施設へ持込むもの）

・がれき類
　（コンクリート塊）
　（アスファルト コンクリート塊）
・木くず
・建設発生土
・汚泥

その他の副産物

・廃プラスチック
・ガラス・陶磁器くず
・廃石こうボード
・金属くず
・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」（環境省大気保全局）に従い、収集・運搬・処分を行うこと。

・廃ＰＣＢ等

「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

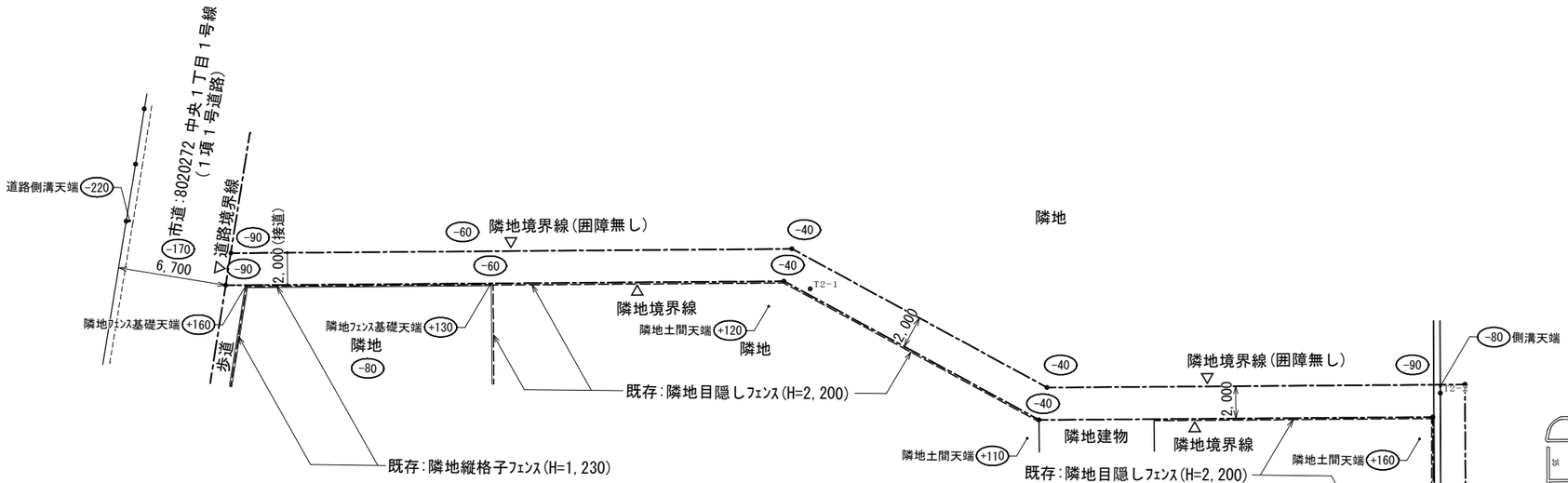
※ 参考受入場所は、現場説明書による。

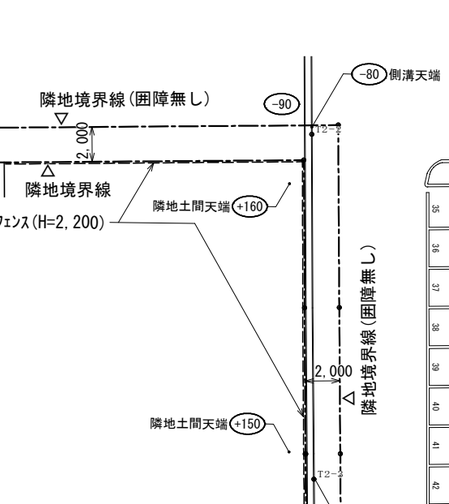
建築副産物の処理内容

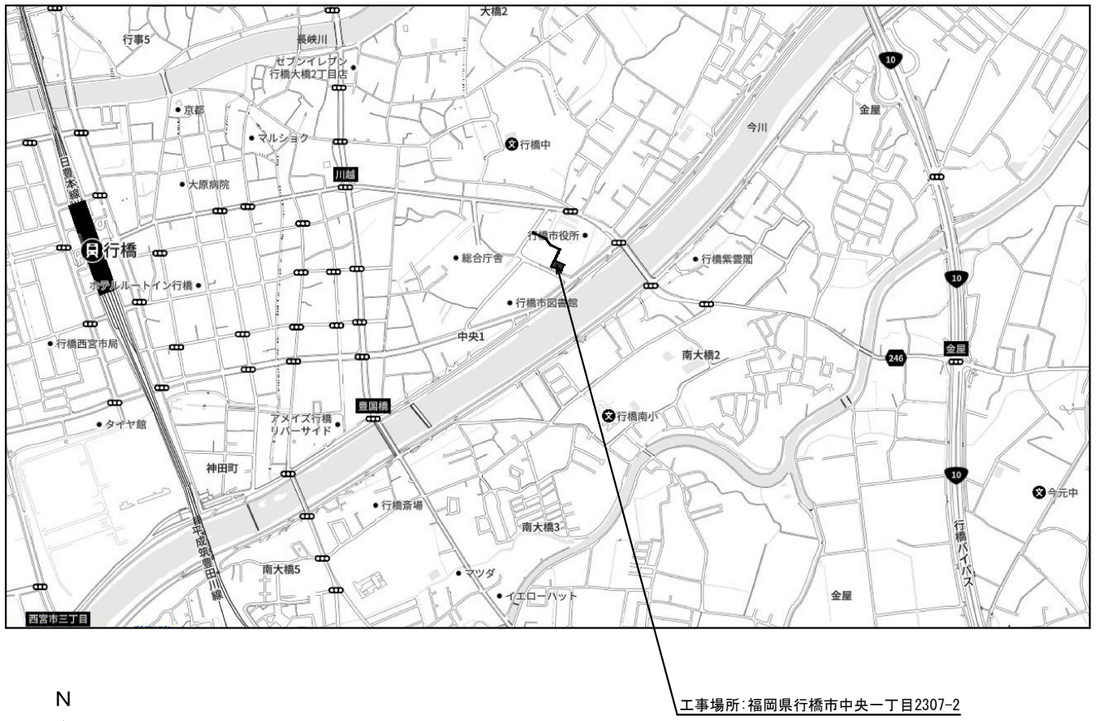
処理内容	備考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

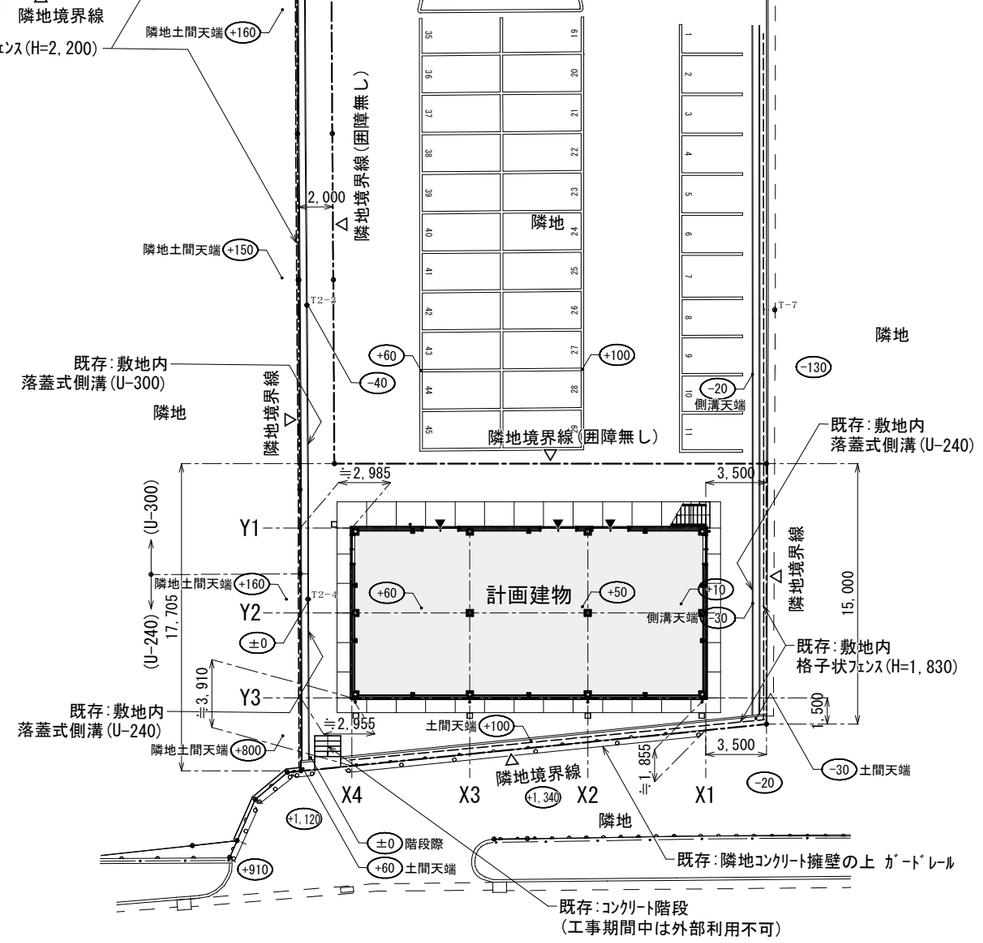
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検図
図面名称	電気設備工事　特記仕様書	
縮尺 A2=NO SCALE A3=NO SCALE	年月日 平成　年　月　日	E － 01







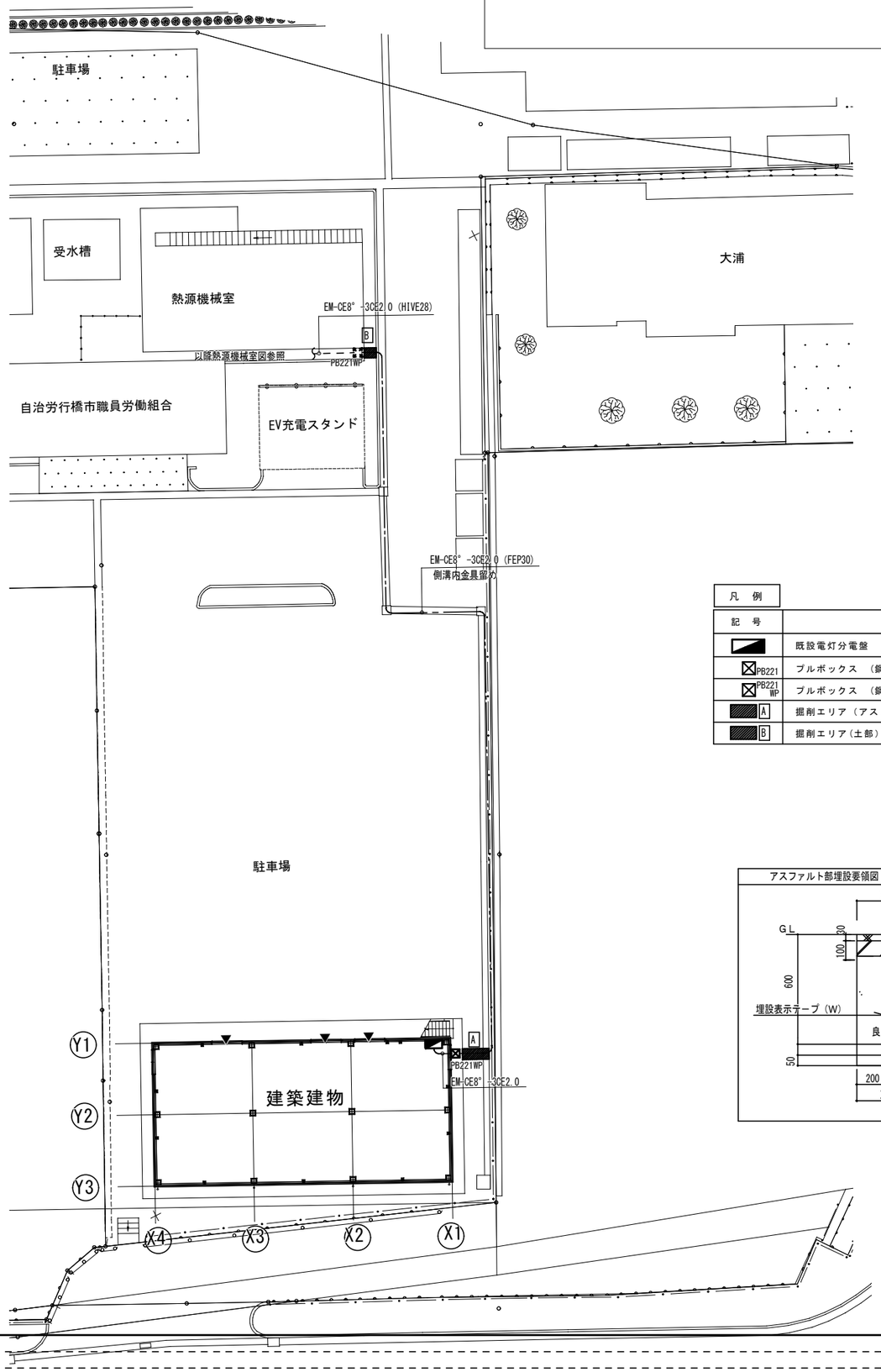
付 近 見 取 図

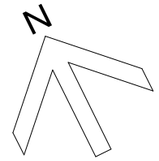


配置図 S=1/250

※ (+000) は、既存GLレベルを示す。
※ 設計GL＝(+100) とする。

有限会社 井関中央設計 福岡県行橋市中央3丁目5－33 ℡0930-24-6868 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1－20670号 一級建築士第159260号 井関 憲二	工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検 図
	図面名称	付近見取図・配置図	
	縮尺 A2=1/250 A3=71%	年月日 平成 年 月 日	E － 02

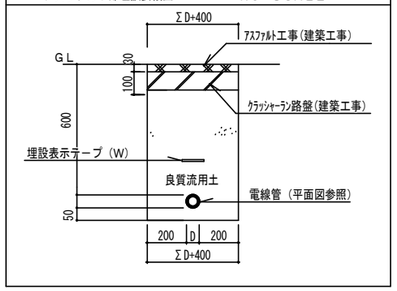




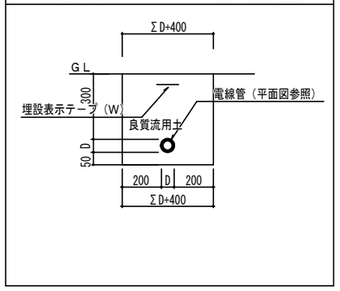
凡　例

記　号	名　　称	備　　考
	既設電灯分電盤	
PB221	プルボックス　（鋼板製）	PB200 x 200 x 100
PB221 WP	プルボックス　（鋼板製）	PB200 x 200 x 100
A	掘削エリア（アスファルト）	
B	掘削エリア（土部）	

アスファルト部埋設要領図　　NO SCALE



土部埋設要領図　　NO SCALE



有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事	検　図
図面名称	構内配電線路	
縮尺 A2=1/250 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	E － 03

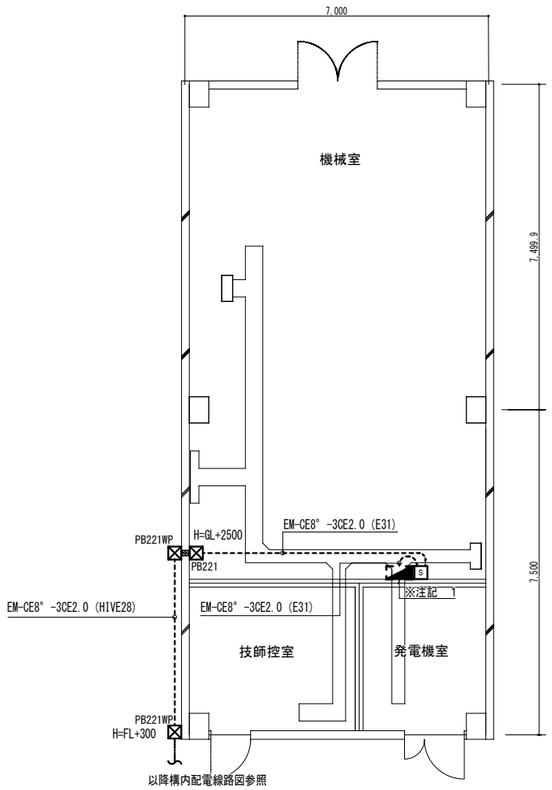
凡　例

記　号	名　　称	備　　考
	既設電灯分電盤	
S	新設手元開閉器盤（屋内型、鋼板製）	MCCB3P30AF/30AT x 1
PB221	プルボックス　（鋼板製）指定色塗装付	PB200 x 200 x 100
PB221 WP	プルボックス　（ＳＵＳ製、防水型）	PB200 x 200 x 100
	壁貫通　38Φ x 150L	
------	露出配管配線（指定色塗装付）	

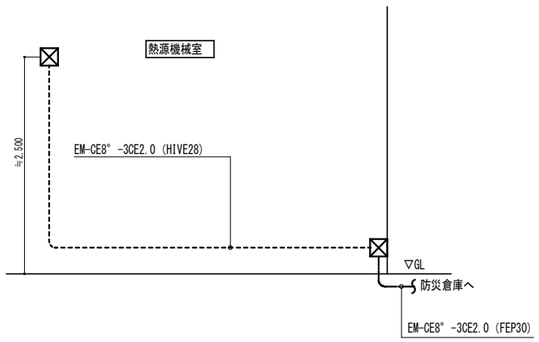
（注記１）

既設電灯分電盤の主幹の1次側より幹線分岐を行い手元開閉器の取り付け位置は

主幹から３ｍ以内に設置することとする。既設電灯分電盤廻りの面ハツリ補修を含む。



熱源機械室　　S=1/100



熱源機械室外壁展開図　　S=1/50

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	熱源機械室　電灯幹線設備　１階平面図		
縮尺 A2=1/100 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	E － 04	

１φ３Ｗ　１００／２００Ｖ

ＥＬＣＢ３Ｐ　３０ＡＦ
３０ＡＴ

回路番号	遮断器 種別	Ｐ	ＡＦ	ＡＴ	容量	負荷名称
①	MCCB	2	30	20	４６９　ＶＡ	１Ｆ 電灯
②	MCCB	2	30	20	４５０　ＶＡ	２Ｆ 電灯
③	MCCB	2	30	20	３００　ＶＡ	１Ｆ コンセント
④	MCCB	2	30	20	３００　ＶＡ	２Ｆ コンセント
⑤	MCCB	2	30	20	１９５　ＶＡ	１Ｆ 換気扇
⑥	MCCB	2	30	20	１９５　ＶＡ	２Ｆ 換気扇
⑦	MCCB	2	30	20		予備
⑧	MCCB	2	30	20		予備

１Ｌ－１　（樹脂製）

照明器具姿図

A	FSS1-4-37	B	LDL20-1 直付型　防湿,防雨型
一般タイプ、４０００ｌｍタイプ 消費電力２５Ｗ、定格出力型、電圧１００～２４２Ｖ 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 昼白色（５０００Ｋ）、Ｒａ８３ 電源装置はライトバー側に内蔵		一般タイプ、１６００ｌｍタイプ 消費電力１１．６Ｗ、定格出力型、電圧１００～２４２Ｖ 本体：亜鉛鋼板（クロムフリー・高反射白色粉体塗装） 防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）＋アクリルコーティング 光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） ＩＰ２３防湿型、昼白色（５０００Ｋ）、Ｒａ８３ 電源装置はライトバー側に内蔵	
C	LDL20-1 壁付型　防湿,防雨型		
防雨型、ひと（熱線）センサ・ＥＥセンサ付（ＯＮ／ＯＦＦ型） 器具光束１９２０１ｌｍ、消費電力１９Ｗ、電圧１００～２４２Ｖ ５０００Ｋ、Ｒａ８３、光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 壁直付型			

凡　例

記号	名称	備考
	電灯分電盤（樹脂製）	１Ｌ－１
	照明器具　LDL40-1　直付　笠無し型	
	照明器具　LDL20-1　直付　笠無し型　防湿,防雨型	
	照明器具　LDL20-1　壁付　笠無し型　防湿,防雨型	明るさ人センサー付
●	埋込スイッチ　1P15Ax1　新金属	
●3WP	防雨スイッチ　3W15Ax1	
	埋込コンセント2P15Ax1　新金属	換気扇用
2E	埋込コンセント2P15Ax2E　新金属	
Th	温度サーモスイッチ	換気扇用
	有圧換気扇（本工事）	E-06号図参照
▫	樹脂製アウトレットボックス	中形５４

特記なき配線サイズは下記による。

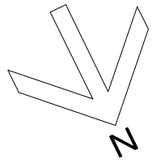
〔電灯・換気扇回路〕

----------EM-EEF1.6-2c　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ１６
----F3----EM-EEF1.6-3c　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ２２
----F4----EM-EEF1.6-2c×2　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ２２
----F5----EM-EEF1.6-2c+3c　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ２２
----2F2----EM-EEF2.0-2c　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ２２
----2F3----EM-EEF2.0-3c　天井クリップサドル留　壁内保護管ＰＦ２２

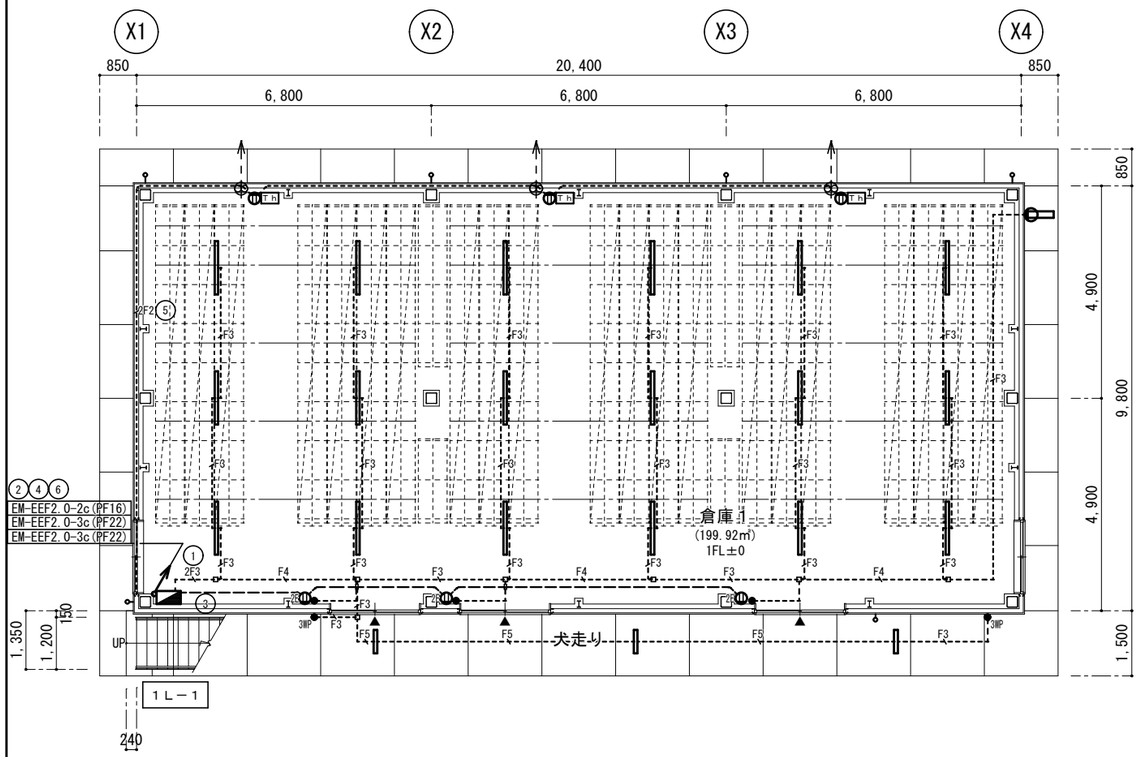
〔コンセント回路〕

----------EM-EEF2.0-3c(PF22)

電灯回路、コンセント回路共１ｃアースを施すこと。



倉庫１	
A	18



１Ｆ庇	
B	3

屋外壁面	
C	1

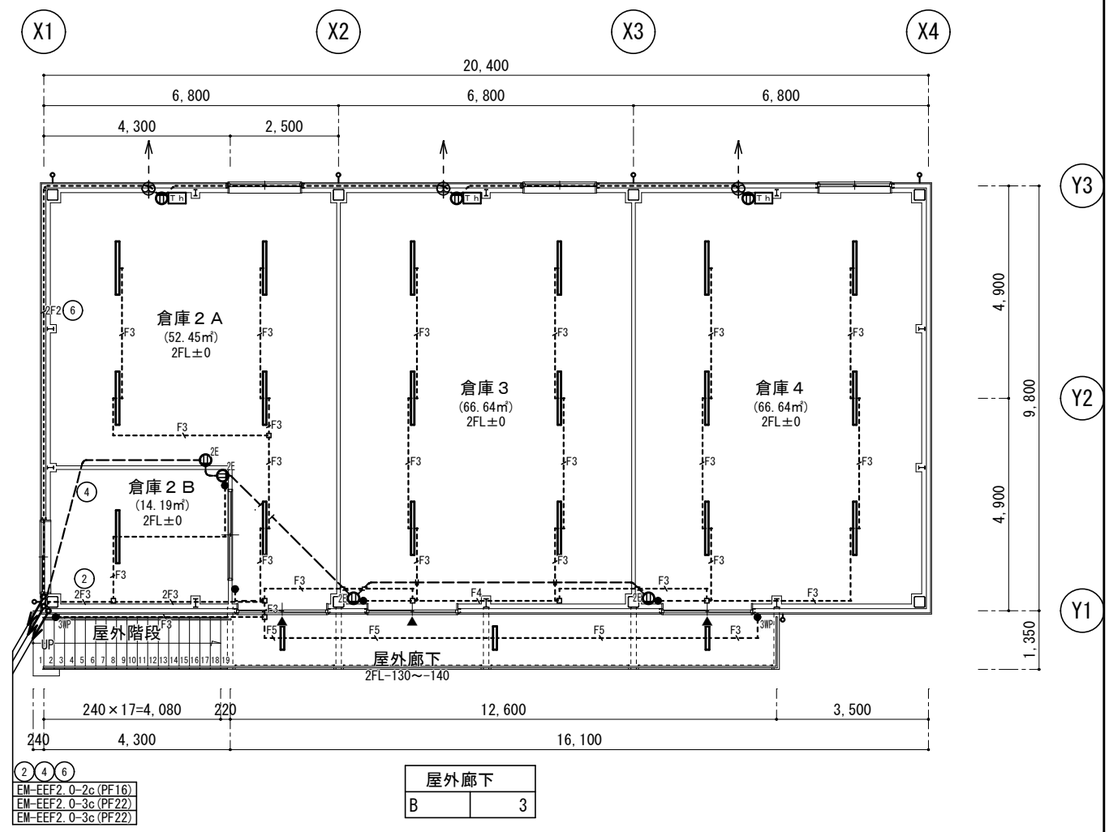
１階平面図　S=1/100　※ 1FL=設計GL+100

倉庫２Ａ	
A	5

倉庫２Ｂ	
A	1

倉庫３	
A	6

倉庫４	
A	6



屋外廊下	
B	3

２階平面図　S=1/100　※ 2FL=設計GL+3,330

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

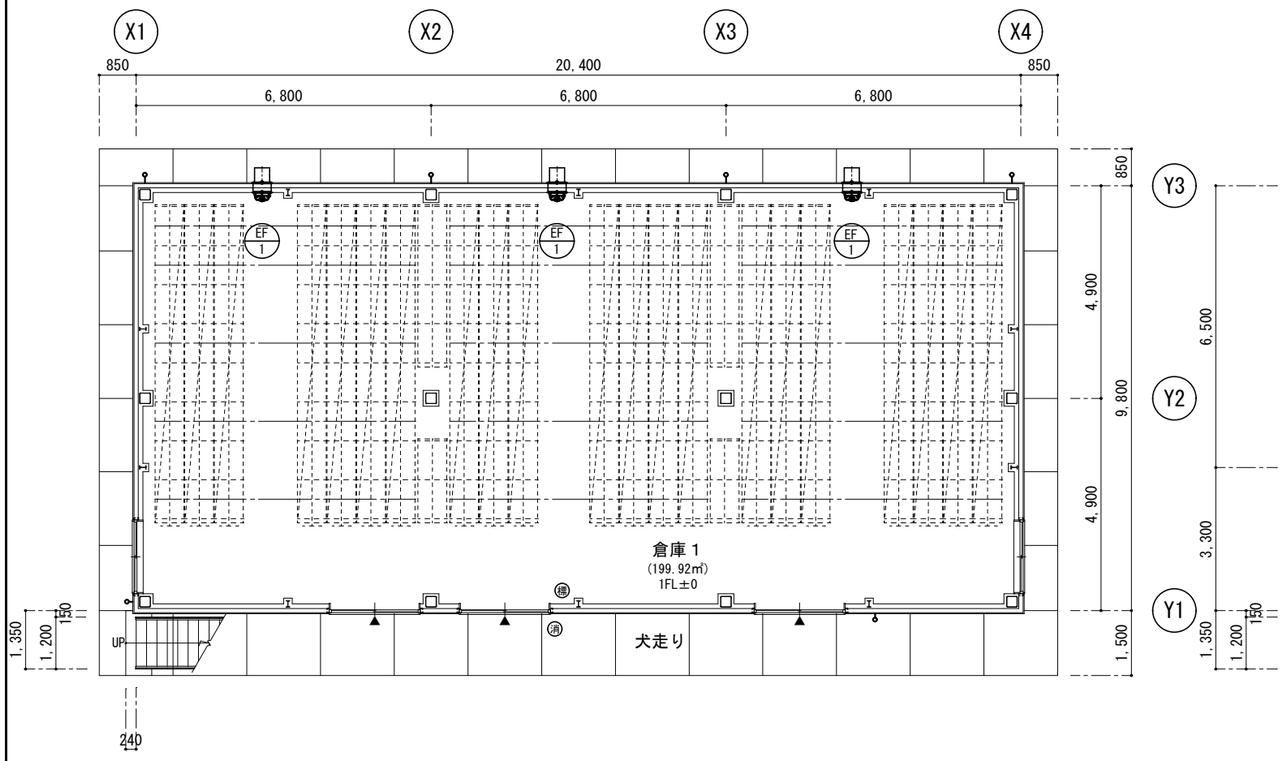
工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	電灯・コンセント設備　１階、２階平面図		
縮尺	A2=1/100 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	E － 05

記号	機器名	型式	仕様	電源 φ	電源 V	電源 W	数量	設置場所	付属品
EF 1	有圧換気扇（低騒音タイプ）	EWF-30BSA同等品	風量 1,250ＣＭＨ	1	100	65	6	防災庫内	ウェザーカバー：EWF-30BSA同等品×6
			静圧 60Ｐａ						温度スイッチ：FS-6TE1同等品×6
									換気扇用枠：PS-30TW相当品×6
									換気扇用バックガード：G-30EC同等品×6
									風圧シャッター：PS-30SHA同等品×6

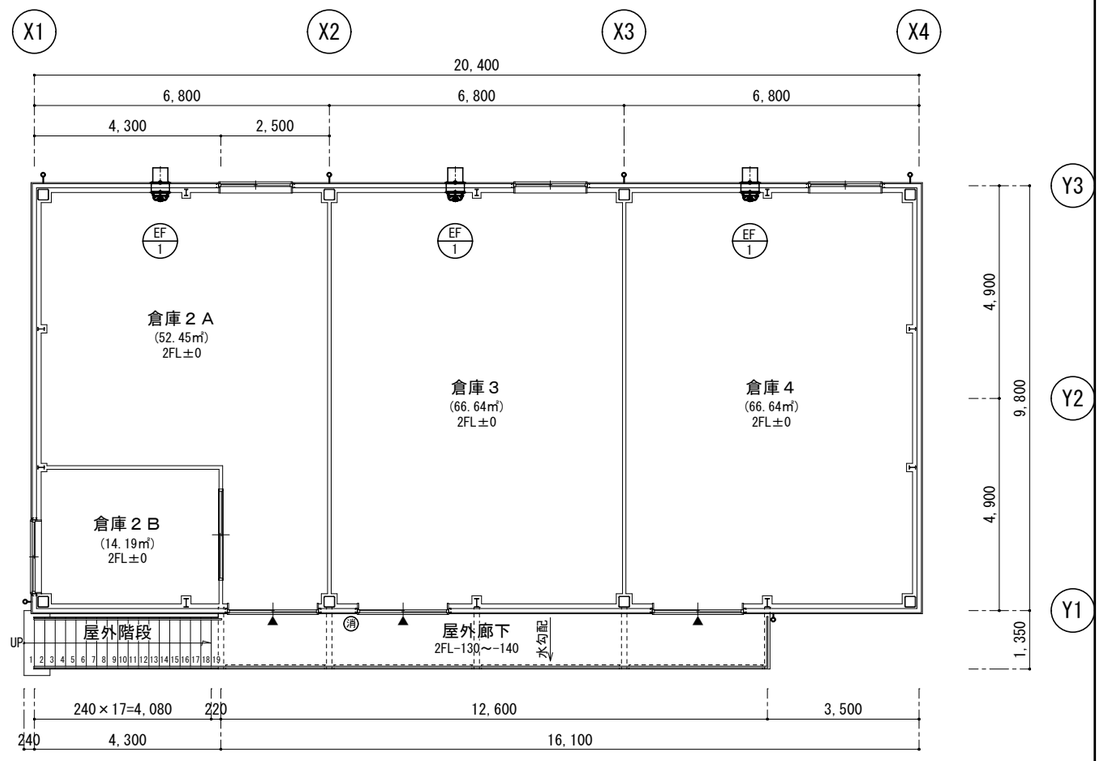
換気計算

１階倉庫換気計算
１階倉庫面積：200㎡　高さ：3m　容積：200×3=600m3
換気回数『建築設備設計基準』より倉庫の換気回数５回/h
これより換気回数は　600×5=3000 CMH以上とする
選定換気扇 3750 CMH　＞　3000 CMH　となる為、判定○とする

２階倉庫換気計算
２階倉庫２Ａ・２Ｂ面積：66.6㎡　高さ：3m　容積：66.6×3=200m3
換気回数『建築設備設計基準』より倉庫の換気回数５回/h
これより換気回数は　200×5=1000 CMH以上とする
選定換気扇 1250 CMH　＞　1000 CMH　となる為、判定○とする
倉庫３、倉庫４も倉庫２Ａ・２Ｂと同容積となる為、上記判定とする



１階平面図　S=1/100　※ 1FL=設計GL+100



２階平面図　S=1/100　※ 2FL=設計GL+3,330

消	消火器　ABC　10型
標	誘導標識(避難口用) (短辺10cm以上、面積300cm2以上)

有限会社　井関中央設計
福岡県行橋市中央３丁目５－３３　℡0930-24-6868
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第１－２０６７０号
一級建築士第１５９２６０号　井関　憲二

工事名称	行橋市防災倉庫新設工事		検　図
図面名称	換気設備、消火器　１階、２階平面図		
縮尺	A2=1/100 A3=71%	年月日 平成　年　月　日	Ｅ － 06